

(12)特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2001年9月13日 (13.09.2001)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 01/66134 A1

(51) 国際特許分類7: A61K 38/22, 45/00, A61P 5/10, 15/00, 15/08, 15/10, C07K 14/72, 16/28, C12N 15/12, C12Q 1/02, G01N 33/12, 33/50, 33/566, 33/53

305-0044 茨城県つくば市並木3丁目17番地1 ロイヤルコーポヨコタ 606号 Ibaraki (JP). 吉田博美 (YOSHIDA, Hiromi) [JP/JP]; 〒300-2741 茨城県結城郡石下町大字国生1444-23 Ibaraki (JP).

(21) 国際出願番号: PCT/JP01/01716

(22) 国際出願日: 2001年3月6日 (06.03.2001)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:

特願2000-065752 2000年3月6日 (06.03.2000) JP
特願2000-378001 2000年12月7日 (07.12.2000) JP

(74) 代理人: 弁理士 高橋秀一, 外 (TAKAHASHI, Shuichi et al); 〒532-0024 大阪府大阪市淀川区十三本町2丁目17番85号 武田薬品工業株式会社 大阪工場内 Osaka (JP).

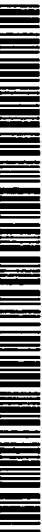
(81) 指定国 (国内): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NO, NZ, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZA, ZW.

(84) 指定国 (広域): ARIPO 特許 (GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE, TR), OAPI 特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告書

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイドスノート」を参照。



WO 01/66134 A1

(54) Title: RFRP-CONTAINING PROLACTIN SECRETION REGULATORY AGENT

(54) 発明の名称: RFRP含有プロラクチン分泌調節剤

(57) Abstract: A polypeptide having effects of promoting and inhibiting the secretion of prolactin. Owing to these effects, this polypeptide is useful as a prolactin secretion promoter in preventives and remedies for various diseases in which prolactin secretion participates (for example, hypoovarianism, spermatogenesis underdevelopment, menopause and hypothyroidism), and as a prolactin secretion inhibitor in preventives and remedies for various diseases in which prolactin secretion participates (for example, pituitary tumor, diencephalon tumor, menstrual disorder, autoimmune diseases, prolactinoma, sterility, impotence, amenorrhea, lactorrhea, hyperpituitarism, Chairi-Frommel syndrome, Argonz-del Castillo syndrome, Forbes-Albright syndrome, lymphoma, Sheehan's syndrome and spermatogenesis disorder.

[統葉有]



(57) 要約:

本発明におけるポリペプチドは、プロラクチン分泌の促進および抑制作用を有するため、プロラクチン分泌促進剤として、卵巣機能低下症、精嚢発育不全、更年期障害または甲状腺機能低下などのプロラクチン分泌に関する各種疾患の予防および治療薬として有用であり、プロラクチン分泌抑制剤として、下垂体腺腫瘍、間脳腫瘍、月経異常、自己免疫疾患、プロラクチノーマ、不妊症、インポテンス、無月経症、乳汁漏症、末端肥大症、キアリ・フロンメル (Chiari-Frommel) 症候群、アルゴンツ・デル・カスティロ (Argonz-del Castillo) 症候群、フォーベス・アルブライト (Forbes-Albright) 症候群、リンパ腫またはシーハン症候群または精子形成異常などのプロラクチン分泌に関する各種疾患の予防および治療薬として有用である。

明細書

R F R P 含有プロラクチン分泌調節剤

5 技術分野

本発明は新規ポリペプチド（本明細書においては、新規生理活性ポリペプチドと称する場合もある。）またはその部分ペプチドなどを含有するプロラクチン分泌調節剤などに関する。

10 背景技術

多くのホルモンや神経伝達物質は細胞膜に存在する特異的なレセプターを通じて生体の機能を調節している。これらのレセプターの多くは共役しているグアニンヌクレオチド結合性蛋白質（guanine nucleotide-binding protein、以下、G蛋白質と略称する場合がある）の活性化を通じて細胞内のシグナル伝達を行う。

15 また、これらのレセプターは、7個の細胞膜貫通領域を有する共通した構造をもっていることから、G蛋白質共役型レセプターあるいは7回膜貫通型レセプター（7TMR）と総称される。

20 このようなホルモンや神経伝達物質とG蛋白質共役型レセプターによる生体の機能を調節する経路の一つとして視床下部一下垂体系がある。これは、視床下部ホルモン（向下垂体性ホルモン）によって下垂体からの下垂体ホルモンの分泌が調節され、血中に放出された下垂体ホルモンを介して標的細胞・器官の機能調節が行われるものである。この経路によって、ホメオスタシスの維持や生殖系、個体の発達、代謝、成長の調節などの生体にとって重要な機能調節が行われている。

25 下垂体ホルモンは視床下部ホルモンと標的内分泌腺より分泌される末梢ホルモンによるポジティブフィードバック機構またはネガティブフィードバック機構によって分泌調節されている。

また、これらのホルモン、因子およびそのレセプターは、視床下部一下垂体系だけに限局して存在するのではなく、一般に脳内に広く分布することが知られている。このことから、視床下部ホルモンと呼ばれている物質が、中枢神経系においては神経伝達物質あるいは神経調節物質として機能していると考えられている。

5

また、末梢組織においても同様に分布し、それぞれ重要な機能を担っていると考えられている。

以上のことから、G蛋白質共役型レセプターとそのリガンドによる生体の機能の調節、とくに視床下部ホルモンの分泌調節により下垂体からの下垂体ホルモンの分泌を調節する薬剤の開発が望まれていた。

10

発明の開示

本発明者らは、上記の課題を解決するために鋭意研究を重ねた結果、R F amide様、または R S amide様構造を有することを特徴とする生理活性ペプチド、
15 特に配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドまたはその部分ペプチドがプロラクチンの放出を調節する作用を有することを見出し、さらに検討を重ねた結果、本発明を完成するに至った。

20

すなわち、本発明は、

（1）配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有するプロラクチン分泌調節剤、

25

（2）実質的に同一のアミノ酸配列が配列番号：8、配列番号：14、配列番号：18、配列番号：33または配列番号：50で表されるアミノ酸配列である上記

（1）記載の剤、

（3）配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそ

のアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有するプロラクチン分泌調節剤、

(4) 配列番号：1の第81番目(Met)ないし第92番目(Phe)のアミノ酸配列を含有してなる部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有する上記(3)記載のプロラクチン分泌調節剤、

(5) 配列番号：1の第101番目(Ser)ないし第112番目(Ser)のアミノ酸配列を含有してなる部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有する上記(3)記載のプロラクチン分泌調節剤、

(6) 配列番号：1の第124番目(Val)ないし第131番目(Phe)のアミノ酸配列を含有してなる部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有する上記(3)記載のプロラクチン分泌調節剤、

(7) 配列番号：1の第56番目(Ser)ないし第92番目(Phe)のアミノ酸配列を含有してなる部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有する上記(3)記載のプロラクチン分泌調節剤、

(8) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドのアミドまたはその塩を含有する上記(3)記載のプロラクチン分泌調節剤、

(9) C末端のカルボキシル基がアミド化されている配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有するポリペプチドの部分ペプチドまたはその塩を含有する上記(8)記載のプロラクチン分泌調節剤、

(10) プロラクチン分泌促進剤である上記(1)または上記(3)記載のプロラクチン分泌調節剤、

(11) プロラクチン分泌抑制剤である上記(1)または上記(3)記載のプロラクチン分泌調節剤、

(12) 卵巣機能低下症、精囊発育不全、骨粗鬆症、更年期障害、乳汁分泌不全、甲状腺機能低下、腎不全の予防または治療薬である上記(10)記載のプロラク

チソ分泌促進剤、

(13) 高プロラクチン血症、下垂体腺腫瘍、間脳腫瘍、月経異常、ストレス、自己免疫疾患、プロラクチノーマ、不妊症、インボテンス、無月経症、乳汁漏症、

末端肥大症、キアリ・フロンメル (Chiari-Frommel) 症候群、アルゴンツ-デル・

カスティロ (Argonz-del Castillo) 症候群、フォーベス・アルブライト (Forbes-Albright) 症候群、乳癌リンパ腫またはシーハン症候群または精子形成異常の予防または治療薬である上記 (11) 記載のプロラクチン分泌抑制剤、

(14) 畜産哺乳動物の乳汁の分泌促進剤である上記 (1) または上記 (3) 記載のプロラクチン分泌調節剤、

10 (15) プロラクチン分泌機能の検査薬である上記 (1) または上記 (3) 記載のプロラクチン分泌調節剤、

(16) (i) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする、 (i) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または

15 (ii) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法、または、

(i) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポ

5.

リペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる、 (i) 配列番号： 1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号： 1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング用キットを用いて得られる、 (i) 配列番号： 1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号： 1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩を含有するプロラクチン分泌調節剤、

15 (17) (I) (i) 配列番号： 1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号： 1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエス

20 テルまたはその塩、および (iii) 配列番号： 37 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質またはその塩、またはその部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする、 (i) 配列番号： 1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：

25 1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしく

はそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法、または、

(II) (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、および (iii) 配列番号：37で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質またはその塩、またはその部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング用キットを用いて得られる、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩を含有するプロラクチン分泌調節剤、

(18) (1) 配列番号：1の第81番目 (Met) ないし第92番目 (Phe) のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、 (2) 配列番号：1の第101番目 (Ser) ないし第112番目 (Ser) のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルま

たはその塩、（3）配列番号：1の第124番目（Val）ないし第131番目（Phe）のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、（4）配列番号：1の第56番目（Ser）ないし第92番目（Phe）のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、（5）配列番号：14の第81番目（Met）ないし第92番目（Phe）のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、（6）配列番号：14の第101番目（Ser）ないし第112番目（Leu）のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、（7）配列番号：14の第58番目（Ser）ないし第92番目（Phe）のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、（8）配列番号：33の第83番目（Val）ないし第94番目（Phe）のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、（9）配列番号：33の第118番目（Phe）ないし第125番目（Phe）のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、（10）配列番号：33の第58番目（Ser）ないし第94番目（Phe）のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または（11）配列番号：50の第58番目（Ser）ないし第94番目（Phe）のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、

（19）上記（18）記載のペプチドのアミドまたはその塩、
（20）C末端のカルボキシル基がアミド化されている上記（18）記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、
（21）上記（18）記載のペプチドをコードするDNA、
（22）（1）配列番号：2の第241番目ないし第276番目の塩基配列、（2）配列番号：2の第301番目ないし第336番目の塩基配列、（3）配列番号：2の第370番目ないし第393番目の塩基配列、（4）配列番号：2の第166番目ないし第276番目の塩基配列、（5）配列番号：15の第241番目な

いし第276番目の塩基配列、(6)配列番号:15の第301番目ないし第336番目の塩基配列、(7)配列番号:15の第172番目ないし第276番目のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、(8)配列番号:34の第247番目ないし第282番目の塩基配列、(9)配列番号:34の第352番目ないし第375番目の塩基配列、(10)配列番号:34の第172番目ないし第282番目の塩基配列、または(11)配列番号:51の第172番目ないし第282番目の塩基配列を有する上記(21)記載のDNA、

10 (23)上記(18)記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩に対する抗体、

(24)上記(21)記載のDNAまたは上記(23)記載の抗体を含有してなる診断剤、

(25)上記(21)記載のDNAに相補的または実質的に相補的な塩基配列を有し、該DNAの発現を抑制し得る作用を有するアンチセンスDNA、

15 (26)上記(18)記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる剤、

(27)上記(18)記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる医薬、

(28)プロラクチン分泌調節剤である上記(27)記載の医薬、

20 (29)上記(18)記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする上記(18)記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法、

(30)さらに配列番号:37で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質またはその塩、またはその部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする上記(29)記載のスクリーニング方法、

(31) 上記(18)記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる上記(18)記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング用キット、

5 (32) 上記(29)記載のスクリーニング方法または上記(31)記載のスクリーニング用キットを用いて得られうる上記(18)記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩、

10 (33) プロラクチン分泌調節作用を有する医薬を製造するための(i)配列番号: 1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または(ii)配列番号: 1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の使用、

15 (34) (i)配列番号: 1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または(ii)配列番号: 1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を哺乳動物に投与することを特徴とするプロラクチン分泌調節方法、

(35) プロラクチン分泌調節作用を有する医薬を製造するための、

20 (i)配列番号: 1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または(ii)配列番号: 1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはそ

の塩を用いることを特徴とする、 (i) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法、または、

(i) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる、 (i) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング用キットを用いて得られる、 (i) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩の使用、

(36) プロラクチン分泌調節作用を有する医薬を製造するための、

(I) (i) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一の

アミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、および (iii) 配列番号：37 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質またはその塩、またはその部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする、 (i) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法、または、

(II) (i) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、および (iii) 配列番号：37 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質またはその塩、またはその部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる、 (i) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルま

たはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング用キットを用いて得られる、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩の使用、

(37) (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法、または、

(i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもし

くはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩の

5 スクリーニング用キットを用いて得られる、 (i) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくは

10 そのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩を哺乳動物に投与することを特徴とするプロラクチン分泌調節方法、および

(38) (I) (i) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはその

15 アミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、および (iii) 配列番号：37 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質またはその塩、または

20 その部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする、 (i) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩

25 のスクリーニング方法、または、

(II) (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、および (iii) 配列番号：37で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質またはその塩、またはその部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング用キットを用いて得られる、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩を哺乳動物に投与することを特徴とするプロラクチン分泌調節方法などを提供するものである。

さらには、本発明は、

(39) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列が、
25 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と約70%以上、好ましくは約80%以上、
より好ましくは約90%以上、さらに好ましくは約95%以上の相同性を有する
アミノ酸配列である上記(1)記載の剤、

(40) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列が、

①配列番号：1、配列番号：8、配列番号：14、配列番号：18、配列番号：33または配列番号：50で表されるアミノ酸配列中の1～20個（好ましくは1～15個、さらに好ましくは1～5個、より好ましくは、1～3個）のアミノ酸が欠失したアミノ酸配列、②配列番号：1、配列番号：8、配列番号：14、配列番号：18、配列番号：33または配列番号：50で表されるアミノ酸配列に1～20個（好ましくは1～15個、さらに好ましくは1～5個、より好ましくは、1～3個）のアミノ酸が付加したアミノ酸配列、③配列番号：1、配列番号：8、配列番号：14、配列番号：18、配列番号：33または配列番号：50で表されるアミノ酸配列に1～20個（好ましくは1～15個、さらに好ましくは1～5個、より好ましくは、1～3個）のアミノ酸が挿入されたアミノ酸配列、④配列番号：1、配列番号：8、配列番号：14、配列番号：18、配列番号：33または配列番号：50で表されるアミノ酸配列中の1～20個以上（好ましくは1～15個、さらに好ましくは1～5個以上、より好ましくは、1～3個以上）のアミノ酸が他のアミノ酸で置換されたアミノ酸配列、または⑤それらを組み合わせたアミノ酸配列である上記（1）記載の剤、

（36）配列番号：37で表されるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列が、配列番号：37で表されるアミノ酸配列と約50%以上、好ましくは約70%以上、より好ましくは約80%以上、さらに好ましくは約90%以上、最も好ましくは約95%以上の相同意を有するアミノ酸配列である上記（17）記載の剤、

（37）配列番号：37で表されるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列が、①配列番号：37で表されるアミノ酸配列中の1～20個（好ましくは1～15個、さらに好ましくは1～5個、より好ましくは、1～3個）のアミノ酸が欠失したアミノ酸配列、②配列番号：37で表されるアミノ酸配列に1～20個（好ましくは1～15個、さらに好ましくは1～5個、より好ましくは、1～3個）のアミノ酸が付加したアミノ酸配列、③配列番号：37で表されるアミノ酸配列中の1～20個以上（好ましくは1～15個、さらに好ましくは1～5個以

上、より好ましくは、1～3個以上)のアミノ酸が他のアミノ酸で置換されたアミノ酸配列、または④それらを組み合わせたアミノ酸配列である上記(17)記載の剤などを提供するものである。

5 図面の簡単な説明

図1は参考例2で得られた本発明のポリペプチド(ヒト型)をコードするDNAの塩基配列および該塩基配列から推定されるアミノ酸配列を示す。

図2は本発明のポリペプチドの疎水性プロットを示す図を示す。

図3は参考例3で得られた本発明のポリペプチド(ヒト型)をコードするDNAの塩基配列および該塩基配列から推定されるアミノ酸配列を示す。

図4は参考例4で得られた本発明のポリペプチド(ウシ型)をコードするDNAの塩基配列および該塩基配列から推定されるアミノ酸配列を示す。

図5は参考例5で得られた本発明のポリペプチド(ラット型)をコードするDNAの塩基配列および該塩基配列から推定されるアミノ酸配列を示す。

図6は参考例3、4、5で得られた本発明のポリペプチドのアミノ酸配列の比較を示す。

図7は参考例6で得られた本発明のポリペプチド(マウス型)のアミノ酸配列および該ポリペプチドをコードするDNAの塩基配列を示す。

図8は参考例7で行われたサイトセンサーによるrOT7T022L受容体発現CHO細胞に対するペプチドの反応性を示す図を示す。図中、●—●はMPHSFANLPLRFamide(配列番号:39)、△—△はVPNLQPQRamide(配列番号:40)を示す。

図9は参考例10で行われたMPHSFANLPLRFamide(配列番号:39)、VPNLQPQRamide(配列番号:40)のrOT7T022L発現CHO細胞に対するcAMP産生抑制活性を示す図を示す。図中、□—□はMPHSFANLPLRFamide(配列番号:39)、●—●はVPNLQPQRamide(配列番号:40)を示す。

図10は実施例1で行われた血漿中に含まれるプロラクチン量の測定結果を示

す。図中、●—●は配列番号：39で表わされるペプチドを溶解させたPBS投与群のプロラクチン量を、○—○はPBSのみを投与した対照群のプロラクチン量を示す。

また、投与した時間を0分とし、*は危険率：p<0.05を、**は危険率：p<0.01を示す。

図11は参考例13で行われた抗ラット型RFRP-1モノクローナル抗体1F3を用いた競合的EIAにおけるRFアミド関連ペプチドの反応性の結果を示す。

抗マウスIgGAM抗体をコートした96穴プレートに、抗ラット型RFRP-1モノクローナル抗体1F3 50μl、横軸に示す濃度のペプチド50μlを加えた。4°Cにて16時間インキュベートした後、HRP-rat RFRP-1を加え、さらに室温で2時間インキュベートした。プレートを洗浄後、HRP活性を450nmにおける吸光度として測定した。Bはペプチドを加えたときの吸光度、B₀はペプチドを加えないときの吸光度を示す。

図中、—●—は配列番号：50で表されるアミノ酸配列の第83番目(Va1)～第94番目(Ph e)のアミノ酸配列のC末端のカルボキシル基がアミド化されたペプチド(VPHSAANLPLRF-NH₂)、—▲—は配列番号：50で表されるアミノ酸配列の第90番目(Leu)～第94番目(Ph e)のアミノ酸配列のC末端のカルボキシル基がアミド化されたペプチド(LPLRF-NH₂)、—■—は配列番号：1で表されるアミノ酸配列の第124番目(Va1)～第131番目(Ph e)のアミノ酸配列のC末端のカルボキシル基がアミド化されたペプチド(VPNLPQRF-NH₂)、—◆—は配列番号：1で表されるアミノ酸配列の第128番目(Pro)～第131番目(Ph e)のアミノ酸配列のC末端のカルボキシル基がアミド化されたペプチド(PQRF-NH₂)を示す。

図12は実施例2で行われたウシ視床下部からの内因性RFRP-1の最終精製のクロマトパターン図を示す。

最終精製段階のμRPC C2/C18 SC 2.1/10のクロマトグラムを示す。縦軸は215nmの吸光度とアセトニトリルの溶出濃度を示し、横軸は溶出時間を示す。図中の黒いカラムは各フラクションの抗ラット型RFRP-1モノクローナル抗体1F3を

用いた競合的EIA を用いて測定したRFRP-1様免疫活性を示す。

図13は実施例4で得られたプラスミドpTFCRFRP-1の構築図を示す。

図14は実施例8で行われた各種ペプチドのホルスコリン処理による細胞内cAMP量の増加抑制活性を示す図を表す。図中、-○-はhRFRP-1-12 (配列番号: 1の第81番目(Met)ないし第92番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチド)、-■-はhRFRP-1-37 (配列番号: 1の第56番目(Ser)ないし第92番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチド)、-△-はrRFRP-1-37 (配列番号: 50の第58番目(Ser)ないし第94番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチド)、-▲-はhRFRP-2-12 (配列番号: 1の第101番目(Phe)ないし第112番目(Ser)のアミノ酸配列を有するペプチド)、-□-はhRFRP-3-8 (配列番号: 1の第124番目(Val)ないし第131番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチド)、-◆-はPQRFamide (Pro-Gln-Arg-Phe-NH₂で表されるペプチド)、-●-はLPLRFamide (Leu-Pro-Leu-Arg-Phe-NH₂で表されるペプチド)、-▲-はNPFF (Asn-Pro-Phe-Pheで表されるペプチド)を示す。

図15は実施例9で行われたRFRPペプチドによるヒトOT7T022受容体の活性化に及ぼす百日咳毒素の効果をcAMP産生抑制作用を指標にして表した図を示す。

発明を実施するための最良の形態

本発明の配列番号: 1で表わされるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を有するポリペプチド (以下、本発明のポリペプチドと称する場合がある) は、ヒトや温血動物 (例えば、モルモット、ラット、マウス、ニワトリ、ウサギ、ブタ、ヒツジ、ウシ、サルなど) の細胞 (例えば、網膜細胞、肝細胞、脾細胞、神経細胞、グリア細胞、脾臓 β 細胞、骨髄細胞、メサンギウム細胞、ランゲルハンス細胞、表皮細胞、上皮細胞、内皮細胞、纖維芽細胞、纖維細胞、筋細胞、脂肪細胞、免疫細胞 (例、マクロファージ、T細胞、B細胞、ナチュラルキラー細胞、肥満細胞、好中球、好塩基球、好酸球、単球) 、巨核球、滑膜細胞、軟骨細胞、骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、乳腺細胞、肝細胞もしくは間質細

胞、またはこれら細胞の前駆細胞、幹細胞もしくは癌細胞など) もしくはそれらの細胞が存在するあらゆる組織、例えば、脳、脳の各部位(例、網膜、嗅球、扁桃核、大脳基底球、海馬、視床、視床下部、大脳皮質、延髄、小脳)、脊髄、下垂体、胃、脾臓、腎臓、肝臓、生殖腺、甲状腺、胆のう、骨髄、副腎、皮膚、筋肉、肺、消化管(例、大腸、小腸)、血管、心臓、胸腺、脾臓、顎下腺、末梢血、
5 前立腺、睾丸、卵巣、胎盤、子宮、骨、関節、骨格筋など、または血球系の細胞もしくはその培養細胞(例えば、MEL, M1, CTL L-2, HT-2, WE HI-3, HL-60, JOSK-1, K562, ML-1, MOLT-3, MOLT-4, MOLT-10, CCRF-CEM, TALL-1, Jurkat, CCRT-HSB-2, KE-37, SKW-3, HUT-78, HUT-10
10 2, H9, U937, THP-1, HEL, JK-1, CMK, KO-812, MEG-01など) に由来するポリペプチドであってもよく、合成ポリペプチドであってもよい。

配列番号：1で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列としては、配列番号：1で表わされるアミノ酸配列と約70%以上、好ましくは約80%以上、より好ましくは約90%以上、さらに好ましくは約95%以上の相同性を有するアミノ酸配列などがあげられる。

配列番号：1で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列としては、例えば、配列番号：1で表わされるアミノ酸配列の第22～180番目のアミノ酸配列を有するアミノ酸配列などがあげられる。

配列番号：1で表されるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列としてより具体的には、例えば、配列番号8、配列番号：14、配列番号：18、配列番号：33または配列番号：50で表されるアミノ酸配列などがあげられる。

本発明の配列番号：1で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列を有するポリペプチドとしては、例えば、前記の配列番号：1で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列(例えば、配列番号：8、配列番号：14、配列番号：18、配列番号：33または配列番号：50で表されるアミノ

酸配列など)を有し、配列番号：1で表わされるアミノ酸配列を有するポリペプチドと同様にプロラクチン分泌調節活性を有するポリペプチドである。

実質的に同質とは、それらの活性が性質的に(例、生理化学的に、または薬理学的に)同質であることを示す。従って、プロラクチン分泌調節活性が同等(例、5 約0.1~100倍、好ましくは約0.5~10倍、より好ましくは0.5~2倍)であることが好ましいが、これらの活性の程度、ポリペプチドの分子量などの量的要素は異なっていてもよい。

プロラクチン分泌調節活性の測定は、自体公知の方法に準じて行なうことができるが、例えば、後述する実施例1に従って測定することができる。

10 また、本発明のポリペプチドとしては、例えば、①配列番号：1、配列番号：8、配列番号：14、配列番号：18、配列番号：33または配列番号：50で表わされるアミノ酸配列中の1~20個(好ましくは、1~15個、さらに好ましくは、1~5個、より好ましくは、1~3個)のアミノ酸が欠失したアミノ酸配列、②配列番号：1、配列番号：8、配列番号：14、配列番号：18、配列番号：33または配列番号：50で表わされるアミノ酸配列に1~20個(好ましくは、1~15個、さらに好ましくは、1~5個、より好ましくは、1~3個)のアミノ酸が付加したアミノ酸配列、③配列番号：1、配列番号：8、配列番号：14、配列番号：18、配列番号：33または配列番号：50で表わされるアミノ酸配列に1~20個(好ましくは、1~15個、さらに好ましくは、1~5個、より好ましくは、1~3個)のアミノ酸が挿入されたアミノ酸配列、④配列番号：1、配列番号：8、配列番号：14、配列番号：18、配列番号：33または配列番号：50で表わされるアミノ酸配列中の1~20個(好ましくは、1~15個、さらに好ましくは、1~5個、より好ましくは、1~3個)のアミノ酸が他のアミノ酸で置換されたアミノ酸配列、または⑤それらを組み合わせたアミノ酸配列を含有するポリペプチドなどのいわゆるムテインも含まれる。

上記のようにアミノ酸配列が挿入、欠失または置換されている場合、その挿入、欠失または置換の位置としては、特に限定されない。

配列番号：1で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列を含有するポリペプチドの具体例としては、例えば、配列番号：8で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチド、配列番号：14で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチド、配列番号：18で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチド、配列番号：33で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチド、配列番号：50で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドなどがあげられる。

本明細書におけるポリペプチドは、ペプチド標記の慣例に従って左端がN末端（アミノ末端）、右端がC末端（カルボキシル末端）である。配列番号：1で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをはじめとする、本発明のポリペプチドは、C末端が通常カルボキシル基（-COOH）またはカルボキシレート（-COO⁻）であるが、C末端がアミド（-CONH₂）またはエステル（-COOR）であってもよい。

ここでエステルにおけるRとしては、例えば、メチル、エチル、n-プロピル、イソプロピルもしくはn-ブチルなどのC₁₋₆アルキル基、例えば、シクロペニチル、シクロヘキシルなどのC₈₋₈シクロアルキル基、例えば、フェニル、α-ナフチルなどのC₆₋₁₂アリール基、例えば、ベンジル、フェネチルなどのフェニル-C₁₋₂アルキル基もしくはα-ナフチルメチルなどのα-ナフチル-C₁₋₂アルキル基などのC₇₋₁₄アラルキル基のほか、経口用エステルとして汎用されるピバロイルオキシメチル基などが用いられる。

本発明のポリペプチドがC末端以外にカルボキシル基（またはカルボキシレート）を有している場合、カルボキシル基がアミド化またはエステル化されているものも本発明のポリペプチドに含まれる。この場合のエステルとしては、例えば上記したC末端のエステルなどが用いられる。

さらに、本発明のポリペプチドには、N末端のアミノ酸残基（例、メチオニン残基）のアミノ基が保護基（例えば、ホルミル基、アセチル基などのC₁₋₆アルカノイルなどのC₁₋₆アシル基など）で保護されているもの、生体内で切断され

て生成するN末端のグルタミン残基がピログルタミン酸化したもの、分子内のアミノ酸の側鎖上の置換基（例えば-OH、-SH、アミノ基、イミダゾール基、インドール基、グアニジノ基など）が適当な保護基（例えば、ホルミル基、アセチル基などのC₁₋₆アルカノイル基などのC₁₋₆アシル基など）で保護されているもの、あるいは糖鎖が結合したいわゆる糖タンパク質などの複合タンパク質なども含まれる。以下、これらのポリペプチドを本発明のポリペプチドと略称することもある。

本発明のポリペプチドの具体例としては、例えば、配列番号：1で表わされるアミノ酸配列を有するヒト由来のポリペプチド（図1）、配列番号：8で表わされるアミノ酸配列を有するヒト由来のポリペプチド（図3）、配列番号：14で表わされるアミノ酸配列を有するウシ由来のポリペプチド（図4）、配列番号：18で表わされるアミノ酸配列を有するラット由来のポリペプチド（図5）、配列番号：33で表わされるアミノ酸配列を有するマウス由来のポリペプチド（図7）、配列番号：50で表わされるアミノ酸配列を有するラット由来のポリペプチドなどが用いられ、例えば、配列番号：1で表わされるアミノ酸配列を有するヒト由来のポリペプチド、配列番号：8で表わされるアミノ酸配列を有するヒト由来のポリペプチド、配列番号：14で表わされるアミノ酸配列を有するウシ由来のポリペプチドが好ましく用いられる。

本発明のポリペプチドの部分ペプチド（以下、本発明の部分ペプチドと称する場合がある）としては、前記した本発明のポリペプチドの部分ペプチドであって、本発明のポリペプチドの受容体（具体的には、配列番号：37で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とする蛋白質またはその塩）を発現する細胞に添加することにより発現するプロラクチン分泌調節活性を有するものであればいかなるものでもよい。

また、本発明の部分ペプチドは、そのアミノ酸配列中の1～5個（好ましくは、1～3個のアミノ酸が欠失し、または、そのアミノ酸配列に1～5個（好ましくは、1～3個）のアミノ酸が付加し、または、そのアミノ酸配列に1～5個（好

ましくは、1～3個のアミノ酸が挿入され、または、そのアミノ酸配列中の1～5個（好ましくは、1～3個のアミノ酸が他のアミノ酸で置換されたアミノ酸配列を含有していてもよく、それらを組み合わせたアミノ酸配列を含有していてもよい。

5 また、本発明の部分ペプチドはC末端が通常カルボキシル基（-COOH）またはカルボキシレート（-COO⁻）であるが、前記した本発明のポリペプチドのごとく、C末端がアミド（-CONH₂）またはエステル（-COOR）（Rは上記と同意義を示す）であってもよい。なかでも、C末端がアミド（-CONH₂）であるものが好ましい。

10 本発明の部分ペプチドがC末端以外にカルボキシル基（またはカルボキシレート）を有している場合、カルボキシル基がアミド化またはエステル化されているものも本発明のポリペプチドに含まれる。この場合のエステルとしては、例えば上記したC末端のエステルなどが用いられる。

さらに、本発明の部分ペプチドには、前記した本発明のポリペプチドと同様に、
15 N末端のアミノ酸残基（例、メチオニン残基）のアミノ基が保護基で保護されているもの、N端側が生体内で切断され生成したグルタミン残基がピログルタミン酸化したもの、分子内のアミノ酸の側鎖上の置換基が適当な保護基で保護されているもの、あるいは糖鎖が結合したいわゆる糖ペプチドなどの複合ペプチドなども含まれる。以下、これらの部分ペプチドを本発明の部分ペプチドと略称すること
20 ともある。

本発明のポリペプチドの部分ペプチドとして好ましくは、R F amide、R S amideまたはR L amide構造を有するペプチド、より好ましくは、R F amideまたはR S amide構造を有するペプチド、特に好ましくは、R F amideを有するペプチドが挙げられる。

25 R F amide構造とは、ペプチドのC末端がArginine（アルギニン）-Phenylalanine（フェニルアラニン）-NH₂構造になっていることをいい、R S amide構造とは、ペプチドのC末端がArginine（アルギニン）-Serine（セリン）-NH₂構造になってい

ることをいい、R.Lamide構造とは、ペプチドのC末端がArginine (アルギニン) -Leucine (ロイシン) -NH₂構造になっていることを意味する。

これら本発明の部分ペプチドの中でも、例えば、

- ① 配列番号：1で表わされるアミノ酸配列の第56番目(Ser)～第92番目(Phe)、第73番目(Met)～第92番目(Phe)、第81番目(Met)～第92番目(Phe)、第84番目(Ser)～第92番目(Phe)、第101番目(Ser)～112番目(Ser)、第115番目(Asn)～第131番目(Phe)、第124番目(Val)～131番目(Phe)、第1番目(Met)～第92番目(Phe)、第1番目(Met)～112番目(Ser)または第1番目(Met)～131番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチド、
- ② 配列番号：8で表わされるアミノ酸配列の第56番目(Ser)～第92番目(Phe)、第73番目(Met)～第92番目(Phe)、第81番目(Met)～第92番目(Phe)、第84番目(Ser)～第92番目(Phe)、第101番目(Ser)～112番目(Ser)、第115番目(Asn)～第131番目(Phe)、第124番目(Val)～131番目(Phe)、第1番目(Met)～第92番目(Phe)、第1番目(Met)～112番目(Ser)または第1番目(Met)～131番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチド、
- ③ 配列番号：14で表わされるアミノ酸配列の第58番目(Ser)～第92番目(Phe)、第81番目(Met)～第92番目(Phe)、第101番目(Ser)～第112番目(Leu)、第124番目(Val)～131番目(Phe)、第1番目(Met)～第92番目(Phe)または第1番目(Met)～131番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチド、
- ④ 配列番号：33で表わされるアミノ酸配列の第58番目(Ser)～第94番目(Phe)、第83番目(Val)～第94番目(Phe)、第84番目(Pro)～第94番目(Phe)または第118番目(Phe)～第125番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチド、
- ⑤ 配列番号：50で表わされるアミノ酸配列の第58番目(Ser)～第94番

目 (Phe) または第 84 番目 (Pro) ~ 第 94 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチドなどが好ましい例としてあげられ、

特に、

① 配列番号：1 で表わされるアミノ酸配列の第 56 番目 (Ser) ~ 第 92 番目

5 (Phe) 、第 73 番目 (Met) ~ 第 92 番目 (Phe) 、第 81 番目 (Met) ~ 第 92 番目 (Phe) 、第 84 番目 (Ser) ~ 第 92 番目 (Phe) 、第 101 番目 (Ser) ~ 112 番目 (Ser) 、第 115 番目 (Asn) ~ 第 131 番目 (Phe) または第 124 番目 (Val) ~ 131 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチド、

② 配列番号：8 で表わされるアミノ酸配列の第 56 番目 (Ser) ~ 第 92 番目

10 (Phe) 、第 73 番目 (Met) ~ 第 92 番目 (Phe) 、第 81 番目 (Met) ~ 第 92 番目 (Phe) 、第 84 番目 (Ser) ~ 第 92 番目 (Phe) 、第 101 番目 (Ser) ~ 112 番目 (Ser) 、第 115 番目 (Asn) ~ 第 131 番目 (Phe) または第 124 番目 (Val) ~ 131 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチド、

③ 配列番号：14 で表わされるアミノ酸配列の第 58 番目 (Ser) ~ 第 92 番目

15 (Phe) 、第 81 番目 (Met) ~ 第 92 番目 (Phe) 、第 101 番目 (Ser) ~ 第 112 番目 (Leu) または第 124 番目 (Val) ~ 131 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチド、

④ 配列番号：33 で表わされるアミノ酸配列の第 58 番目 (Ser) ~ 第 94 番目

20 (Phe) 、第 83 番目 (Val) ~ 第 94 番目 (Phe) 、第 84 番目 (Pro) ~ 第 94 番目 (Phe) または第 118 番目 (Phe) ~ 第 125 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチド、

⑤ 配列番号：50 で表わされるアミノ酸配列の第 58 番目 (Ser) ~ 第 94 番目

目 (Phe) または第 84 番目 (Pro) ~ 第 94 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチドなどが好ましい例としてあげられる。

25 なかでも、

① 配列番号：1 で表わされるアミノ酸配列の第 56 番目 (Ser) ~ 第 92 番目

(Phe) 、第 73 番目 (Met) ~ 第 92 番目 (Phe) 、第 81 番目 (Met) ~ 第 92

番目 (Phe) 、第 84 番目 (Ser) ～第 92 番目 (Phe) 、第 101 番目 (Ser) ～
112 番目 (Ser) 、第 115 番目 (Asn) ～第 131 番目 (Phe) または第 12
4 番目 (Val) ～131 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチド、

② 配列番号：8 で表わされるアミノ酸配列の第 56 番目 (Ser) ～第 92 番目
5 (Phe) 、第 73 番目 (Met) ～第 92 番目 (Phe) 、第 81 番目 (Met) ～第 92
番目 (Phe) 、第 84 番目 (Ser) ～第 92 番目 (Phe) 、第 101 番目 (Ser) ～
112 番目 (Ser) 、第 115 番目 (Asn) ～第 131 番目 (Phe) または第 12
4 番目 (Val) ～131 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチド、

③ 配列番号：14 で表わされるアミノ酸配列の第 58 番目 (Ser) ～第 92 番
10 目 (Phe) 、第 81 番目 (Met) ～第 92 番目 (Phe) 、第 101 番目 (Ser) ～第
112 番目 (Leu) または第 124 番目 (Val) ～131 番目 (Phe) のアミノ酸
配列を含有するペプチド、

④ 配列番号：33 で表わされるアミノ酸配列の第 58 番目 (Ser) ～第 94 番
15 目 (Phe) 、第 83 番目 (Val) ～第 94 番目 (Phe) または第 118 番目 (Phe)
～第 125 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチド、

⑤ 配列番号：50 で表わされるアミノ酸配列の第 58 番目 (Ser) ～第 94 番
目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチドなどが好ましく、
とりわけ、

① 配列番号：1 で表わされるアミノ酸配列の第 56 番目 (Ser) ～第 92 番目
20 (Phe) 、第 73 番目 (Met) ～第 92 番目 (Phe) 、第 81 番目 (Met) ～第 92
番目 (Phe) 、第 84 番目 (Ser) ～第 92 番目 (Phe) 、第 115 番目 (Asn) ～
第 131 番目 (Phe) または第 124 番目 (Val) ～131 番目 (Phe) のアミノ
酸配列を含有するペプチド、

② 配列番号：8 で表わされるアミノ酸配列の第 56 番目 (Ser) ～第 92 番目
25 (Phe) 、第 73 番目 (Met) ～第 92 番目 (Phe) 、第 81 番目 (Met) ～第 92
番目 (Phe) 、第 84 番目 (Ser) ～第 92 番目 (Phe) 、第 115 番目 (Asn) ～
第 131 番目 (Phe) または第 124 番目 (Val) ～131 番目 (Phe) のアミノ

酸配列を含有するペプチド、

③ 配列番号：1 4 で表わされるアミノ酸配列の第 5 8 番目 (Ser) ～第 9 2 番目 (Phe) 、第 8 1 番目 (Met) ～第 9 2 番目 (Phe) または第 1 2 4 番目 (Val) ～1 3 1 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチドが好ましい。

5 なかでも、

① 配列番号：1 で表わされるアミノ酸配列の第 5 6 番目 (Ser) ～第 9 2 番目 (Phe) 、第 7 3 番目 (Met) ～第 9 2 番目 (Phe) 、第 8 1 番目 (Met) ～第 9 2 番目 (Phe) または第 8 4 番目 (Ser) ～第 9 2 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチド、

10 ② 配列番号：8 で表わされるアミノ酸配列の第 5 6 番目 (Ser) ～第 9 2 番目 (Phe) 、第 7 3 番目 (Met) ～第 9 2 番目 (Phe) 、第 8 1 番目 (Met) ～第 9 2 番目 (Phe) または第 8 4 番目 (Ser) ～第 9 2 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチド、

15 ③ 配列番号：1 4 で表わされるアミノ酸配列の第 5 8 番目 (Ser) ～第 9 2 番目 (Phe) または第 8 1 番目 (Met) ～第 9 2 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチドが好ましく、

とりわけ、

① 配列番号：1 で表わされるアミノ酸配列の第 8 1 番目 (Met) ～第 9 2 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチド、

20 ② 配列番号：8 で表わされるアミノ酸配列の第 8 1 番目 (Met) ～第 9 2 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチド、

③ 配列番号：1 4 で表わされるアミノ酸配列の第 8 1 番目 (Met) ～第 9 2 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチドが好ましく、

特に、

25 ① 配列番号：1 で表わされるアミノ酸配列の第 8 1 番目 (Met) ～第 9 2 番目 (Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチド、

② 配列番号：8 で表わされるアミノ酸配列の第 8 1 番目 (Met) ～第 9 2 番目

(Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチド、
が好ましい。

また、本発明の部分ペプチドの好ましい例として、

(a) 配列番号：1 の第 81 番目 (Met) ないし第 92 番目 (Phe) のアミノ酸配
5 列を有するペプチド、

(b) 配列番号：1 の第 101 番目 (Ser) ないし第 112 番目 (Ser) のアミノ
酸配列を有するペプチド、

(c) 配列番号：1 の第 124 番目 (Val) ないし第 131 番目 (Phe) のアミノ
酸配列を有するペプチド、

10 (d) 配列番号：1 の第 56 番目 (Ser) ないし第 92 番目 (Phe) のアミノ酸配
列を有するペプチド、

(e) 配列番号：14 の第 81 番目 (Met) ないし第 92 番目 (Phe) のアミノ酸
配列を有するペプチド、

15 (f) 配列番号：14 の第 101 番目 (Ser) ないし第 112 番目 (Leu) のアミ
ノ酸配列を有するペプチド、

(g) 配列番号：14 の第 58 番目 (Ser) ないし第 92 番目 (Phe) のアミノ酸
配列を有するペプチド、

(h) 配列番号：33 の第 83 番目 (Val) ないし第 94 番目 (Phe) のアミノ酸
配列を有するペプチド、

20 (i) 配列番号：33 の第 118 番目 (Phe) ないし第 125 番目 (Phe) のアミ
ノ酸配列を有するペプチド、

(j) 配列番号：33 の第 58 番目 (Ser) ないし第 94 番目 (Phe) のアミノ酸
配列を有するペプチド、

25 (k) 配列番号：50 の第 58 番目 (Ser) ないし第 94 番目 (Phe) のアミノ酸
配列を有するペプチドなどがあげられる。

特にこれらのペプチドのアミド体（好ましくは、これらペプチドのC末端のカルボキシル基（-COOH）がアミド化された（-CONH₂）ペプチド）が好

ましい。

具体的には配列番号：1で表わされるアミノ酸配列の第81番目(Met)～第92番目(Phe)のアミノ酸配列で表されるペプチドのC末端がアミド化された(-CONH₂)ペプチド(配列番号：39)、配列番号：1で表わされるアミ

5 ノ酸配列の第101番目(Ser)～112番目(Ser)のアミノ酸配列で表されるペプチドのC末端がアミド化された(-CONH₂)ペプチド(配列番号：41)および配列番号：1で表わされるアミノ酸配列の第124番目(Val)～131番目(Phe)のアミノ酸配列で表されるペプチドのC末端がアミド化された(-CONH₂)ペプチド(配列番号：40)などがあげられる。

10 なかでも、配列番号：1で表わされるアミノ酸配列の第81番目(Met)～第92番目(Phe)のアミノ酸配列で表されるペプチドのC末端がアミド化された(-CONH₂)ペプチド(配列番号：39)または、配列番号：1で表わされるアミノ酸配列の第124番目(Val)～131番目(Phe)のアミノ酸配列で表されるペプチドのC末端がアミド化された(-CONH₂)ペプチド(配列番号：40)などが好ましく、配列番号：1で表わされるアミノ酸配列の第81番目(Met)～第92番目(Phe)のアミノ酸配列で表されるペプチドのC末端がアミド化された(-CONH₂)ペプチド(配列番号：39)が特に好ましい。

本発明のポリペプチまたは本発明の部分ペプチドの塩としては、生理学的に許容される酸(例、無機酸、有機酸)や塩基(例、アルカリ金属塩)などとの塩が用いられ、とりわけ生理学的に許容される酸付加塩が好ましい。このような塩としては、例えば、無機酸(例えば、塩酸、リン酸、臭化水素酸、硫酸)との塩、あるいは有機酸(例えば、酢酸、ギ酸、プロピオン酸、フマル酸、マレイン酸、コハク酸、酒石酸、クエン酸、リンゴ酸、蔥酸、安息香酸、メタンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸)との塩などが用いられる。

25 本発明のポリペプチドもしくはその塩または本発明の部分ペプチドもしくはその塩は、前述したヒトや温血動物の細胞または組織から自体公知のポリペプチドの精製方法によって製造することもできるし、後述するポリペプチドをコード

するDNAを含有する形質転換体を培養することによっても製造することができる。また、後述のペプチド合成法に準じて製造することもできる。

ヒトや哺乳動物の組織または細胞から製造する場合、ヒトや哺乳動物の組織または細胞をホモジナイズした後、酸などで抽出を行ない、該抽出液を逆相クロマトグラフィー、イオン交換クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを組み合わせることにより精製単離することができる。

本発明のポリペプチドもしくはその塩、または本発明の部分ペプチドもしくはその塩の合成には、通常市販のポリペプチド合成用樹脂を用いることができる。そのような樹脂としては、例えば、クロロメチル樹脂、ヒドロキシメチル樹脂、ベンズヒドリルアミン樹脂、アミノメチル樹脂、4-ベンジルオキシベンジルアルコール樹脂、4-メチルベンズヒドリルアミン樹脂、PAM樹脂、4-ヒドロキシメチルメチルフェニルアセトアミドメチル樹脂、ポリアクリルアミド樹脂、4-(2',4'-ジメトキシフェニル-ヒドロキシメチル)フェノキシ樹脂、4-(2',4'-ジメトキシフェニル-Fmocアミノエチル)フェノキシ樹脂などをあげることができる。このような樹脂を用い、 α -アミノ基と側鎖官能基を適当に保護したアミノ酸を、目的とするポリペプチドの配列通りに、自体公知の各種縮合方法に従い、樹脂上で縮合させる。反応の最後に樹脂からポリペプチドを切り出すと同時に各種保護基を除去し、さらに高希釈溶液中で分子内ジスルフィド結合形成反応を実施し、本発明のポリペプチドもしくはその塩または本発明の部分ペプチドもしくはその塩を取得する。

上記した保護アミノ酸の縮合に関しては、ポリペプチド合成に使用できる各種活性化試薬を用いることができるが、特に、カルボジイミド類がよい。カルボジイミド類としては、DCC、N,N'-ジイソプロピルカルボジイミド、N-エチル-N'-(3-ジメチルアミノプロリル)カルボジイミドなどが用いられる。これらによる活性化にはラセミ化抑制添加剤（例えば、HOEt、HOOEt）とともに保護アミノ酸を直接樹脂に添加するかまたは、対称酸無水物またはHOEtエステルあるいはHOOEtエステルとしてあらかじめ保護アミノ酸の活性化を行なった後に樹脂に添加するこ

とができる。

保護アミノ酸の活性化や樹脂との縮合に用いられる溶媒としては、ポリペプチド縮合反応に使用しうることが知られている溶媒から適宜選択されうる。例えば、
N, N-ジメチルホルムアミド、N, N-ジメチルアセトアミド、N-メチルピ
5 ロリドンなどの酸アミド類、塩化メチレン、クロロホルムなどのハロゲン化炭化
水素類、トリフルオロエタノールなどのアルコール類、ジメチルスルホキシドな
どのスルホキシド類、ピリジン、ジオキサン、テトラヒドロフランなどのエーテ
ル類、アセトニトリル、プロピオニトリルなどのニトリル類、酢酸メチル、酢酸
エチルなどのエステル類あるいはこれらの適宜の混合物などが用いられる。反応
10 温度はポリペプチド結合形成反応に使用され得ることが知られている範囲から
適宜選択され、通常約-20℃～50℃の範囲から適宜選択される。活性化され
たアミノ酸誘導体は通常1.5～4倍過剰で用いられる。ニンヒドリン反応を用
いたテストの結果、縮合が不十分な場合には保護基の脱離を行なうことなく縮合
反応を繰り返すことにより十分な縮合を行なうことができる。反応を繰り返して
15 も十分な縮合が得られないときには、無水酢酸またはアセチルイミダゾールを用
いて未反応アミノ酸をアセチル化することによって、後の反応に影響を与えない
ようにすることができる。

原料のアミノ基の保護基としては、例えば、Z、Boc、t-ペンチルオキシカルボニル、イソボルニルオキシカルボニル、4-メトキシベンジルオキシカルボニル、Cl-Z、Br-Z、アダマンチルオキシカルボニル、トリフルオロアセチル、フタロイル、ホルミル、2-ニトロフェニルスルフェニル、ジフェニルホスフィノチオイル、Fmocなどが用いられる。

カルボキシル基は、例えば、アルキルエステル化（例えば、メチル、エチル、プロピル、ブチル、t-ブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘプチル、シクロオクチル、2-アダマンチルなどの直鎖状、分枝状もしくは環状アルキルエステル化）、アラルキルエステル化（例えば、ベンジルエステル、4-ニトロベンジルエステル、4-メトキシベンジルエステル、4-クロロベンジル

エステル、ベンズヒドリルエステル化)、フェナシルエステル化、ベンジルオキシカルボニルヒドラジド化、*t*-ブロトキシカルボニルヒドラジド化、トリチルヒドラジド化などによって保護することができる。

セリンの水酸基は、例えば、エステル化またはエーテル化によって保護することができる。このエステル化に適する基としては、例えば、アセチル基などの低級(C_{1-6} アルカノイル基、ベンゾイル基などのアロイル基、ベンジルオキシカルボニル基、エトキシカルボニル基などの炭酸から誘導される基などが用いられる。また、エーテル化に適する基としては、例えば、ベンジル基、テトラヒドロピラニル基、*t*-ブチル基などである。

チロシンのフェノール性水酸基の保護基としては、例えば、Bzl、Cl₂-Bzl、2-ニトロベンジル、Br-Z、*t*-ブチルなどが用いられる。

ヒスチジンのイミダゾールの保護基としては、例えば、Tos、4-メトキシ-2,3,6-トリメチルベンゼンスルホニル、DNP、ベンジルオキシメチル、Bum、Boc、Trt、Fmocなどが用いられる。

原料のカルボキシル基の活性化されたものとしては、例えば、対応する酸無水物、アジド、活性エステル[アルコール(例えば、ペンタクロロフェノール、2,4,5-トリクロロフェノール、2,4-ジニトロフェノール、シアノメチルアルコール、パラニトロフェノール、HOBt、N-ヒドロキシスクシミド、N-ヒドロキシフタルイミド、HOBt)とのエステル]などが用いられる。原料のアミノ基の活性化されたものとしては、例えば、対応するリン酸アミドが用いられる。

保護基の除去(脱離)方法としては、例えば、Pd-黒あるいはPd-炭素などの触媒の存在下での水素気流中での接触還元や、また、無水フッ化水素、メタンスルホン酸、トリフルオロメタンスルホン酸、トリフルオロ酢酸あるいはこれらの混合液などによる酸処理や、ジイソプロピルエチルアミン、トリエチルアミン、ピペリジン、ピペラジンなどによる塩基処理、また液体アンモニア中ナトリウムによる還元なども用いられる。上記酸処理による脱離反応は、一般に約-2

0℃～40℃の温度で行なわれるが、酸処理においては、例えば、アニソール、フェノール、チオアニソール、メタクレゾール、パラクレゾール、ジメチルスルフィド、1,4-ブタンジオール、1,2-エタンジオールなどのようなカチオン捕捉剤の添加が有効である。また、ヒスチジンのイミダゾール保護基として用いられる2,4-ジニトロフェニル基はチオフェノール処理により除去され、トリプトファンのインドール保護基として用いられるホルミル基は上記の1,2-エタンジオール、1,4-ブタンジオールなどの存在下の酸処理による脱保護以外に、希水酸化ナトリウム溶液、希アンモニアなどによるアルカリ処理によっても除去される。

原料の反応に関与すべきでない官能基の保護ならびに保護基、およびその保護基の脱離、反応に関与する官能基の活性化などは公知の基または公知の手段から適宜選択しうる。

本発明のポリペプチドもしくは部分ペプチドのアミド体を得る別の方法としては、例えば、まず、カルボキシ末端アミノ酸の α -カルボキシル基をアミド化して保護した後、アミノ基側にペプチド（ポリペプチド）鎖を所望の鎖長まで延ばした後、該ペプチド鎖のN末端の α -アミノ基の保護基のみを除いたポリペプチドとC末端のカルボキシル基の保護基のみを除去したポリペプチドとを製造し、この両ポリペプチドを上記したような混合溶媒中で縮合させる。縮合反応の詳細については上記と同様である。縮合により得られた保護ポリペプチドを精製した後、上記方法によりすべての保護基を除去し、所望の粗ポリペプチドを得ることができる。この粗ポリペプチドは既知の各種精製手段を駆使して精製し、主要画分を凍結乾燥することで所望のポリペプチドもしくは部分ペプチドのアミド体を得ることができる。

本発明のポリペプチドもしくは部分ペプチドのエステル体を得るには、例えば、カルボキシ末端アミノ酸の α -カルボキシル基を所望のアルコール類と縮合しアミノ酸エステルとした後、ポリペプチドのアミド体と同様にして、所望のポリペプチドもしくは部分ペプチドのエステル体を得ることができる。

本発明の部分ペプチドまたはその塩は、自体公知のペプチドの合成法に従って、あるいは本発明のポリペプチドを適当なペプチダーゼで切断することによって製造することができる。ペプチドの合成法としては、例えば、固相合成法、液相合成法のいずれによっても良い。すなわち、本発明の部分ペプチドを構成し得る部分ペプチドもしくはアミノ酸と残余部分とを縮合させ、生成物が保護基を有する場合は保護基を脱離することにより目的のペプチドを製造することができる。公知の縮合方法や保護基の脱離としては、例えば、以下の①～⑤に記載された方法があげられる。

①M. Bodanszky および M.A. Ondetti、ペプチド・シンセシス (Peptide Synthesis), Interscience Publishers, New York (1966年)

②Schroeder および Luebke、ザ・ペプチド (The Peptide), Academic Press, New York (1965年)

③泉屋信夫他、ペプチド合成の基礎と実験、丸善(株) (1975年)

④矢島治明 および 柿原俊平、生化学実験講座 1、タンパク質の化学IV、205、(1977年)

⑤矢島治明監修、統医薬品の開発、第14巻、ペプチド合成、広川書店

また、反応後は通常の精製法、例えば、溶媒抽出・蒸留・カラムクロマトグラフィー・液体クロマトグラフィー・再結晶などを組み合わせて本発明の部分ペプチドを精製単離することができる。上記方法で得られる部分ペプチドが遊離体である場合は、公知の方法あるいはそれに準じる方法によって適当な塩に変換することができるし、逆に塩で得られた場合は、公知の方法あるいはそれに準じる方法によって遊離体または他の塩に変換することができる。

本発明のポリペプチドをコードするDNAとしては、前述した本発明のポリペプチドをコードする塩基配列を含有するものであればいかなるものであってもよい。また、ゲノムDNA、ゲノムDNAライブラリー、前記した細胞・組織由来のcDNA、前記した細胞・組織由来のcDNAライブラリー、合成DNAのいずれでもよい。

ライブラリーに使用するベクターは、バクテリオファージ、プラスミド、コスミド、ファージミドなどいずれであってもよい。また、前記した細胞・組織より total RNA または mRNA 画分を調製したものを用いて直接 Reverse Transcriptase Polymerase Chain Reaction (以下、RT-PCR法と略称する)

5 によって増幅することもできる。

本発明のポリペプチドをコードするDNAとしては、例えば、配列番号：2、配列番号：9、配列番号：15、配列番号：19、配列番号：34または配列番号：51で表わされる塩基配列を含有するDNA、または配列番号：2、配列番号：9、配列番号：15、配列番号：19、配列番号：34または配列番号：51で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を有し、本発明のポリペプチドと実質的に同質の活性（例、細胞刺激活性など）を有するポリペプチドをコードするDNAなどであれば何れのものでもよい。

配列番号：2、配列番号：9、配列番号：15、配列番号：19、配列番号：34または配列番号：51で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズできるDNAとしては、例えば、それぞれ配列番号：2で表わされる塩基配列と約70%以上、好ましくは約80%以上、より好ましくは約90%以上、さらに好ましくは約95%以上の相同性を有する塩基配列を含有するDNAなどが用いられる。

ハイブリダイゼーションは、自体公知の方法あるいはそれに準じる方法、例えば、モレキュラー・クローニング (Molecular Cloning) 2nd (J. Sambrook et al., Cold Spring Harbor Lab. Press, 1989) に記載の方法などに従って行なうことができる。また、市販のライブラリーを使用する場合、添付の使用説明書に記載の方法に従って行なうことができる。より好ましくは、ハイストリンジェントな条件に従って行なうことができる。

ハイストリンジェントな条件とは、例えば、ナトリウム濃度が約19～40mM、好ましくは約19～20mMで、温度が約50～70℃、好ましくは約60

～65℃の条件を示す。特に、ナトリウム濃度が約19mMで温度が約65℃の場合が最も好ましい。

より具体的には、配列番号：1で表わされるアミノ酸配列を有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：2で表わされる塩基配列を有するDNAなどが用いられる。また、配列番号：8で表わされるアミノ酸配列を有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：9で表わされる塩基配列を有するDNAなどが用いられ、配列番号：14で表わされるアミノ酸配列を有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：15で表わされる塩基配列を有するDNAなどが用いられ、配列番号：18で表わされるアミノ酸配列を有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：19で表わされる塩基配列を有するDNAなどが用いられ、配列番号：33で表わされるアミノ酸配列を有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：34で表わされる塩基配列を有するDNAなどが用いられ、配列番号：50で表わされるアミノ酸配列を有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：51で表わされる塩基配列を有するDNAなどが用いられる。

本発明の部分ペプチドをコードするDNAとしては、前述した本発明の部分ペプチドをコードする塩基配列を含有するものであればいかなるものであってもよい。また、ゲノムDNA、ゲノムDNAライブラリー、前記した細胞・組織由来のcDNA、前記した細胞・組織由来のcDNAライブラリー、合成DNAのいずれでもよい。

本発明の部分ペプチドをコードするDNAとしては、例えば、配列番号：2、配列番号：9、配列番号：15、配列番号：19、配列番号：34または配列番号：51で表わされる塩基配列を有するDNAの部分塩基配列を有するDNA、または配列番号：2、配列番号：9、配列番号：15、配列番号：19、配列番号：34または配列番号：51で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を有し、本発明のポリペプチドと実質的に同質の活性を有するポリペプチドをコードするDNAの部分塩基配列を有する

DNAなどが用いられる。

配列番号：2、配列番号：9、配列番号：15、配列番号：19、配列番号：34または配列番号：51で表わされる塩基配列とハイブリダイズできるDNAは、前記と同意義を示す。

5 ハイブリダイゼーションの方法およびハイストリンジェントな条件は前記と同様のものが用いられる。

配列番号：2、配列番号：9、配列番号：15、配列番号：19、配列番号：34または配列番号：51で表わされる塩基配列とハイブリダイズできるDNAでコードされるポリペプチドは後述の本発明のポリペプチドの製造法と同様にして製造することができ、該ポリペプチドのアミド、エステル、塩は上述の本発明のポリペプチドのアミド、エステル、塩と同様のものなどがあげられる。

また、本発明の部分ペプチドをコードするDNAとしてより具体的には、

① 配列番号：1で表わされるアミノ酸配列の第56番目(Ser)～第92番目(Phe)、第73番目(Met)～第92番目(Phe)、第81番目(Met)～第92番目(Phe)、第84番目(Ser)～第92番目(Phe)、第101番目(Ser)～112番目(Ser)、第115番目(Asn)～第131番目(Phe)、第124番目(Val)～131番目(Phe)、第1番目(Met)～第92番目(Phe)、第1番目(Met)～112番目(Ser)または第1番目(Met)～131番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNA、またはこれらとハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を含有するDNA、

② 配列番号：8で表わされるアミノ酸配列の第56番目(Ser)～第92番目(Phe)、第73番目(Met)～第92番目(Phe)、第81番目(Met)～第92番目(Phe)、第84番目(Ser)～第92番目(Phe)、第101番目(Ser)～112番目(Ser)、第115番目(Asn)～第131番目(Phe)、第124番目(Val)～131番目(Phe)、第1番目(Met)～第92番目(Phe)、第1番目(Met)～112番目(Ser)または第1番目(Met)～131番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNA、またはこれらとハイストリ

ンジエントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を含有するDNA、

③ 配列番号：14で表わされるアミノ酸配列の第58番目(Ser)～第92番目(Phe)、第81番目(Met)～第92番目(Phe)、第101番目(Ser)～第112番目(Leu)、第124番目(Val)～131番目(Phe)、第1番目(Met)～第92番目(Phe)または第1番目(Met)～131番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNA、またはこれらとハイストリンジエントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を含有するDNA、

④ 配列番号：33で表わされるアミノ酸配列の第58番目(Ser)～第94番目(Phe)、第83番目(Val)～第94番目(Phe)、第84番目(Pro)～第94番目(Phe)または第118番目(Phe)～第125番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNA、またはこれらとハイストリンジエントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を含有するDNA、

⑤ 配列番号：50で表わされるアミノ酸配列の第58番目(Ser)～第94番目(Phe)または第84番目(Pro)～第94番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNA、またはこれらとハイストリンジエントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を含有するDNA、などがあげられる。

配列番号：1で表わされるアミノ酸配列の第81番目(Met)～第92番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：42で表される塩基配列（配列番号：2で表される塩基配列の第241番目ないし第276番目の塩基配列）を含有するDNA、

配列番号：1で表わされるアミノ酸配列の第101番目(Ser)～112番目(Ser)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：43で表される塩基配列（配列番号：2で表される塩基配列の第301番目ないし第336番目の塩基配列）を含有するDNA、

25 配列番号：1で表わされるアミノ酸配列の第124番目(Val)～131番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：44で表される塩基配列（配列番号：2で表される塩基配列の第370番

目ないし第393番目の塩基配列)を含有するDNA、

配列番号:1で表わされるアミノ酸配列の第1番目(Met)～第92番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号:45で表される塩基配列(配列番号:2で表される塩基配列の第1番目ないし第2

5 76番目の塩基配列)を含有するDNA、

配列番号:1で表わされるアミノ酸配列の第1番目(Met)～112番目(Ser)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号:46で表される塩基配列(配列番号:2で表される塩基配列の第1番目ないし第336番目の塩基配列)を含有するDNA、および配列番号:1で表わされるアミ10ノ酸配列の第1番目(Met)～131番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号:47で表される塩基配列(配列番号:2で表される塩基配列の第1番目ないし第393番目の塩基配列)を含有するDNAなどがあげられる。

また、配列番号:1で表されるアミノ酸配列の第56番目(Ser)～第92番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配15列番号:2で表される塩基配列の第166番目～第276番目の塩基配列を含有するDNA、

配列番号:1で表されるアミノ酸配列の第73番目(Met)～第92番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号:220で表される塩基配列の第217番目～第276番目の塩基配列を含有するDNA、

配列番号:1で表されるアミノ酸配列の第84番目(Ser)～第92番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号:225で表される塩基配列の第253番目～第276番目の塩基配列を含有するDNA、

配列番号:1で表されるアミノ酸配列の第115番目(Asn)～第131番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列

番号：2で表される塩基配列の第346番目～第393番目の塩基配列を含有するDNA、

配列番号：8で表されるアミノ酸配列の第56番目(Ser)～第92番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：9
5で表される塩基配列の第169番目～第276番目の塩基配列を含有するDNA、

配列番号：8で表されるアミノ酸配列の第73番目(Met)～第92番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：9
で表される塩基配列の第220番目～第276番目の塩基配列を含有するDNA
10 A、

配列番号：8で表されるアミノ酸配列の第81番目(Met)～第92番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：9
で表される塩基配列の第244番目～第276番目の塩基配列を含有するDNA
A、

15 配列番号：8で表されるアミノ酸配列の第84番目(Ser)～第92番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：9
で表される塩基配列の第253番目～第276番目の塩基配列を含有するDNA
A、

配列番号：8で表されるアミノ酸配列の第101番目(Ser)～第112番目
20 (Ser)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列
番号：9で表される塩基配列の第304番目～第336番目の塩基配列を含有す
るDNA、

配列番号：8で表されるアミノ酸配列の第115番目(Asn)～第131番目
(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列
25 番号：9で表される塩基配列の第346番目～第393番目の塩基配列を含有す
るDNA、

配列番号：8で表されるアミノ酸配列の第124番目(Val)～第131番目

(Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：9で表される塩基配列の第373番目～第393番目の塩基配列を含有するDNA、

配列番号：8で表されるアミノ酸配列の第1番目(Met)～第92番目(Phe)

5 のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：9で表される塩基配列の第1番目～第276番目の塩基配列を含有するDNA、

配列番号：8で表されるアミノ酸配列の第1番目(Met)～第112番目(Ser)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：9で表される塩基配列の第1番目～第336番目の塩基配列を含有するDNA、

10 配列番号：8で表されるアミノ酸配列の第1番目(Met)～第131番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：9で表される塩基配列の第1番目～第393番目の塩基配列を含有するDNA、

配列番号：14で表されるアミノ酸配列の第58番目(Ser)～第92番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：1

15 5で表される塩基配列の第172番目～第276番目の塩基配列を含有するDNA、

配列番号：14で表されるアミノ酸配列の第81番目(Met)～第92番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：15で表される塩基配列の第241番目～第276番目の塩基配列を含有するD

20 NA、

配列番号：14で表されるアミノ酸配列の第101番目(Ser)～第112番目(Leu)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：15で表される塩基配列の第301番目～第336番目の塩基配列を含有するDNA、

25 配列番号：14で表されるアミノ酸配列の第124番目(Val)～第131番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：15で表される塩基配列の第370番目～第393番目の塩基配列を含

有するDNA、

配列番号：1 4で表されるアミノ酸配列の第1番目(Met)～第9 2番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：1 5で表される塩基配列の第1番目～第2 7 6番目の塩基配列を含有するDNA、

5 配列番号：1 4で表されるアミノ酸配列の第1番目(Met)～第1 3 1番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：1 5で表される塩基配列の第1番目～第3 9 3番目の塩基配列を含有するDNA、

配列番号：3 3で表されるアミノ酸配列の第5 8番目(Ser)～第9 4番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：3 4で表される塩基配列の第1 7 2番目～第2 8 2番目の塩基配列を含有するD
10 NA、

配列番号：3 3で表されるアミノ酸配列の第8 3番目(Val)～第9 4番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：3 4で表される塩基配列の第2 4 7番目～第2 8 2番目の塩基配列を含有するD
15 NA、

配列番号：3 3で表されるアミノ酸配列の第8 4番目(Pro)～第9 4番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：3 4で表される塩基配列の第2 5 0番目～第2 8 2番目の塩基配列を含有するD
NA、

20 配列番号：3 3で表されるアミノ酸配列の第1 1 8番目(Phe)～第1 2 5番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：3 4で表される塩基配列の第3 5 2番目～第3 7 5番目の塩基配列を含有するDNA、

配列番号：5 0で表されるアミノ酸配列の第5 8番目(Ser)～第9 4番目(Phe)
25 のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：5 1で表される塩基配列の第1 7 2番目～第2 8 2番目の塩基配列を含有するD
NA、

配列番号：50で表されるアミノ酸配列の第84番目(Pro)～第94番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：51で表される塩基配列の第250番目～第282番目の塩基配列を含有するDNAなどがあげられる。

5 本発明のポリペプチドもしくはその部分ペプチド、後述の本発明のレセプター蛋白質もしくはその部分ペプチドおよびこれらの蛋白質またはペプチドをコードするDNAは、自体公知の方法で標識化されていてもよく、具体的にはアイソトープラベル化されたもの、蛍光標識されたもの（例えば、フルオレセインなどによる蛍光標識）、ビオチン化されたものまたは酵素標識されたものなどがあげ
10 られる。

本発明のポリペプチドまたは部分ペプチド（以下、これらポリペプチド等をコードするDNAのクローニングおよび発現の説明においては、これらポリペプチド等を単に本発明のポリペプチドと略記する場合がある）を完全にコードするDNAのクローニングの手段としては、本発明のポリペプチドの部分塩基配列を有する合成DNAプライマーを用いて自体公知のPCR法によって増幅するか、または適当なベクターに組み込んだDNAを本発明のポリペプチドの一部あるいは全領域をコードするDNA断片もしくは合成DNAを用いて標識したものとのハイブリダイゼーションによって選別することができる。ハイブリダイゼーションの方法は、例えば、モレキュラー・クローニング (Molecular Cloning) 2 nd (J. Sambrook et al., Cold Spring Harbor Lab. Press, 1989) に記載の方法などに従って行なうことができる。また、市販のライブラリーを使用する場合、添付の使用説明書に記載の方法に従って行なうことができる。

DNAの塩基配列の変換は、公知のキット、例えば、MutanTM-super Express Km (宝酒造(株))、MutanTM-K (宝酒造(株)) 等を用いて、ODA-LA PCR法やGapped duplex法やKunkel法等の自体公知の方法あるいはそれらに準じる方法に従って行なうことができる。

クローン化されたポリペプチドをコードするDNAは目的によりそのまま、ま

たは所望により制限酵素で消化したり、リンカーを付加したりして使用することができる。該DNAはその5'末端側に翻訳開始コドンとしてのATGを有し、また3'末端側には翻訳終止コドンとしてのTAA、TGAまたはTAGを有していてもよい。これらの翻訳開始コドンや翻訳終止コドンは、適当な合成DNAアダプターを用いて付加することもできる。

本発明のポリペプチドの発現ベクターは、例えば、(イ) 本発明のポリペプチドをコードするDNAから目的とするDNA断片を切り出し、(ロ) 該DNA断片を適当な発現ベクター中のプロモーターの下流に連結することにより製造することができる。

ベクターとしては、大腸菌由来のプラスミド(例、pBR322, pBR325, pUC12, pUC13)、枯草菌由来のプラスミド(例、pUB110, pTP5, pC194)、酵母由来プラスミド(例、pSH19, pSH15)、 λ ファージなどのバクテリオファージ、レトロウイルス、ワクシニアウイルス、バキュロウイルスなどの動物ウイルスなどの他、pA1-11、pXT1、pRC/CMV、pRC/RSV、pCDNA1/Neoなどが用いられる。

本発明で用いられるプロモーターとしては、遺伝子の発現に用いる宿主に対応して適切なプロモーターであればいかなるものでもよい。例えば、動物細胞を宿主として用いる場合は、SR α プロモーター、SV40プロモーター、HIV・LTRプロモーター、CMVプロモーター、HSV-TKプロモーターなどがあげられる。

これらのうち、CMV(サイトメガロウイルス)プロモーター、SR α プロモーターなどを用いるのが好ましい。宿主がエシェリヒア属菌である場合は、trpプロモーター、lacプロモーター、recAプロモーター、 λ PLプロモーター、lppプロモーター、T7プロモーターなどが、宿主がバチルス属菌である場合は、SPO1プロモーター、SPO2プロモーター、penPプロモーターなど、宿主が酵母である場合は、PHO5プロモーター、PGKプロモーター、GAPプロモーター、ADHプロモーターなどが好ましい。宿主が昆虫細胞であ

る場合は、ポリヘドリンプロモーター、P10プロモーターなどが好ましい。

発現ベクターには、以上その他に、所望によりエンハンサー、スプライシングシグナル、ポリA付加シグナル、選択マーカー、SV40複製オリジン（以下、SV40oriと略称する場合がある）などを含有しているものを用いることができる。選択マーカーとしては、例えば、ジヒドロ葉酸還元酵素（以下、dhfrと略称する場合がある）遺伝子〔メソトレキセート（MTX）耐性〕、アンピシリン耐性遺伝子（以下、Amp^rと略称する場合がある）、ネオマイシン耐性遺伝子（以下、Neo^rと略称する場合がある、G418耐性）等があげられる。特に、dhfr遺伝子欠損チャイニーズハムスター細胞を用いてdhfr遺伝子を選択マーカーとして使用する場合、目的遺伝子をチミジンを含まない培地によっても選択できる。

また、必要に応じて、宿主に合ったシグナル配列を、本発明のポリペプチドのN端末側に付加する。宿主がエシェリヒア属菌である場合は、PhoA・シグナル配列、OmpA・シグナル配列などが、宿主がバチルス属菌である場合は、 α -アミラーゼ・シグナル配列、サブチリシン・シグナル配列などが、宿主が酵母である場合は、MF α ・シグナル配列、SUC2・シグナル配列など、宿主が動物細胞である場合には、インシュリン・シグナル配列、 α -インターフェロン・シグナル配列、抗体分子・シグナル配列などがそれぞれ利用できる。

このようにして構築された本発明のポリペプチドをコードするDNAを含有するベクターを用いて、形質転換体を製造することができる。

宿主としては、例えば、エシェリヒア属菌、バチルス属菌、酵母、昆虫細胞、昆虫、動物細胞などが用いられる。

エシェリヒア属菌の具体例としては、例えば、エシェリヒア・コリ (Escherichia coli) K12・DH1 [プロシージングズ・オブ・ザ・ナショナル・アカデミー・オブ・サイエンシズ・オブ・ザ・ユースエー (Proc. Natl. Acad. Sci. U S A), 60巻, 160 (1968)], JM103 [ヌクイレック・アシックス・リサーチ, (Nucleic Acids Research), 9巻, 309 (1981)], JA22

1. [ジャーナル・オブ・モレキュラー・バイオロジー (Journal of Molecular Biology)] , 120巻, 517(1978) , HB101 [ジャーナル・オブ・モレキュラー・バイオロジー, 41巻, 459(1969)] , C600 [ジェネティックス (Genetics) , 39巻, 440(1954)] などが用いられる。
5. バチルス属菌としては、例えば、バチルス・サブチルス (*Bacillus subtilis*) M1114 [ジーン, 24巻, 255(1983)] , 207-21 [ジャーナル・オブ・バイオケミストリー (Journal of Biochemistry) , 95巻, 87(1984)] などが用いられる。
10. 酵母としては、例えば、サッカロマイセス セレビシエ (*Saccharomyces cerevisiae*) AH22, AH22R⁻, NA87-11A, DKD-5D, 20B-12、シゾサッカロマイセス ポンベ (*Schizosaccharomyces pombe*) NCYC1913, NCYC2036、ピキア パストリス (*Pichia pastoris*) KM71などが用いられる。
15. 昆虫細胞としては、例えば、ウイルスがAcNPVの場合は、夜盜蛾の幼虫由来株化細胞 (*Spodoptera frugiperda* cell ; Sf細胞) 、*Trichoplusia ni*の中腸由来のMG1細胞、*Trichoplusia ni*の卵由来のHigh FiveTM細胞、*Mamestra brassicae*由来の細胞または*Estigmene acrea*由来の細胞などが用いられる。ウイルスがBmNPVの場合は、蚕由来株化細胞 (*Bombyx mori* N細胞 ; BmN細胞) などが用いられる。該Sf細胞としては、例えば、Sf9細胞 (ATCC CRL1711) 、 Sf21細胞(以上、Vaughn, J. L. ら、イン・ヴィボ (In Vivo), 13, 213-217, (1977)) などが用いられる。
20. 昆虫としては、例えば、カイコの幼虫などが用いられる [前田ら、ネイチャー (Nature) , 315巻, 592(1985)] 。
25. 動物細胞としては、例えば、サル細胞COS-7, Vero, チャイニーズハムスター細胞CHO (以下、CHO細胞と略記) , dhfr遺伝子欠損チャイニーズハムスター細胞CHO (以下、CHO (dhfr⁻) 細胞と略記) , マウスL細胞, マウスA_{tt}T-20, マウスミエローマ細胞, ラットGH3, ヒトFL細胞

などが用いられる。

エシェリヒア属菌を形質転換するには、例えば、プロシージングズ・オブ・ザ・ナショナル・アカデミー・オブ・サイエンシズ・オブ・ザ・ユーエスエー (Proc. Natl. Acad. Sci. USA), 69巻, 2110 (1972) やジーン (Gene), 5 17巻, 107 (1982) などに記載の方法に従って行なうことができる。

バチルス属菌を形質転換するには、例えば、モレキュラー・アンド・ジェネラル・ジェネティックス (Molecular & General Genetics), 168巻, 111 (1979) などに記載の方法に従って行なうことができる。

酵母を形質転換するには、例えば、メソッズ・イン・エンザイモロジー (Methods in Enzymology), 194巻, 182-187 (1991)、プロシージングズ・オブ・ザ・ナショナル・アカデミー・オブ・サイエンシズ・オブ・ザ・ユーエスエー (Proc. Natl. Acad. Sci. USA), 75巻, 1929 (1978) などに記載の方法に従って行なうことができる。

昆虫細胞または昆虫を形質転換するには、例えば、バイオ/テクノロジー (Bio/Technology, 6, 47-55 (1988)) などに記載の方法に従って行なうことができる。

動物細胞を形質転換するには、例えば、細胞工学別冊 8 新細胞工学実験プロトコール. 26.3-26.7 (1995) (秀潤社発行)、ヴィロロジー (Virology), 52巻, 456 (1973) に記載の方法に従って行なうことができる。

20 このようにして、ポリペプチドをコードするDNAを含有する発現ベクターで形質転換された形質転換体を得ることができる。

宿主がエシェリヒア属菌、バチルス属菌である形質転換体を培養する際、培養に使用される培地としては液体培地が適当であり、その中には該形質転換体の生育に必要な炭素源、窒素源、無機物その他が含有せしめられる。炭素源としては、25 例えば、グルコース、デキストリン、可溶性澱粉、ショ糖など、窒素源としては、例えば、アンモニウム塩類、硝酸塩類、コーンスチーブ・リカー、ペプトン、カゼイン、肉エキス、大豆粕、パレイショ抽出液などの無機または有機物質、無機

物としては、例えば、塩化カルシウム、リン酸二水素ナトリウム、塩化マグネシウムなどがあげられる。また、酵母エキス、ビタミン類、生長促進因子などを添加してもよい。培地のpHは約5～8が望ましい。

エシェリヒア属菌を培養する際の培地としては、例えば、グルコース、カザミノ酸を含むM9培地〔ミラー (Miller), ジャーナル・オブ・エクスペリメンツ・イン・モレキュラー・ジェネティックス (Journal of Experiments in Molecular Genetics), 431-433, Cold Spring Harbor Laboratory, New York 1972〕が好ましい。ここに必要によりプロモーターを効率よく働かせるために、例えば、3 β -インドリルアクリル酸のような薬剤を加えることができる。

宿主がエシェリヒア属菌の場合、培養は通常約15～43℃で約3～24時間行ない、必要により、通気や攪拌を加えることもできる。

宿主がバチルス属菌の場合、培養は通常約30～40℃で約6～24時間行ない、必要により通気や攪拌を加えることもできる。

宿主が酵母である形質転換体を培養する際、培地としては、例えば、バークホルダー (Burkholder) 最小培地 [Bostian, K. L. ら、プロシージングズ・オブ・ザ・ナショナル・アカデミー・オブ・サイエンシズ・オブ・ザ・ユーエスエー (Proc. Natl. Acad. Sci. USA), 77巻, 4505 (1980)] や0.5%カザミノ酸を含有するSD培地 [Bitter, G. A. ら、プロシージングズ・オブ・ザ・ナショナル・アカデミー・オブ・サイエンシズ・オブ・ザ・ユーエスエー (Proc. Natl. Acad. Sci. USA), 81巻, 5330 (1984)] があげられる。培地のpHは約5～8に調整するのが好ましい。培養は通常約20℃～35℃で約24～72時間行ない、必要に応じて通気や攪拌を加える。

宿主が昆虫細胞または昆虫である形質転換体を培養する際、培地としては、Grace's Insect Medium (Grace, T. C. C., ネイチャー (Nature), 195, 788 (1962)) に非動化した10%ウシ血清等の添加物を適宜加えたものなどが用いられる。培地のpHは約6.2～6.4に調整するのが好ましい。培養は通常約27℃で約3～5日間行ない、必要に応じて通気や攪拌を加える。

宿主が動物細胞である形質転換体を培養する際、培地としては、例えば、約5
～20%の胎児牛血清を含むMEM培地〔サイエンス(Science)、122巻、
501(1952)〕、DMEM培地〔ヴィロロジー(Virology)、8巻、396
(1959)〕、RPMI 1640培地〔ジャーナル・オブ・ザ・アメリカン・
5 メディカル・アソシエーション(The Journal of the American Medical
Association) 199巻、519(1967)〕、199培地〔プロシージング・
オブ・ザ・ソサイエティ・フォー・ザ・バイオロジカル・メディスン(Proceeding
of the Society for the Biological Medicine)、73巻、1(1950)〕など
が用いられる。pHは約6～8であるのが好ましい。培養は通常約30℃～4
10 0℃で約15～60時間行ない、必要に応じて通気や攪拌を加える。

以上のようにして、形質転換体の細胞膜などに本発明のポリペプチドを生成せ
しめることができる。

上記培養物から本発明のポリペプチドを分離精製するには、例えば、下記の方
法により行なうことができる。

15 本発明のポリペプチドを培養菌体あるいは細胞から抽出するに際しては、培養
後、公知の方法で菌体あるいは細胞を集め、これを適当な緩衝液に懸濁し、超音
波、リゾチームおよび／または凍結融解などによって菌体あるいは細胞を破壊し
たのち、遠心分離やろ過によりポリペプチドの粗抽出液を得る方法などが適宜用
いられる。緩衝液の中に尿素や塩酸グアニジンなどの蛋白質変性剤や、トリトン
20 X-100TMなどの界面活性剤が含まれていてもよい。培養液中にポリペプチド
が分泌される場合には、培養終了後、それ自体公知の方法で菌体あるいは細胞と
上清とを分離し、上清を集める。

25 このようにして得られた培養上清、あるいは抽出液中に含まれるポリペプチド
の精製は、自体公知の分離・精製法を適宜組み合わせて行なうことができる。こ
れらの公知の分離、精製法としては、塩析や溶媒沈殿法などの溶解度を利用する
方法、透析法、限外ろ過法、ゲルろ過法、およびSDS-ポリアクリルアミドゲ

ル電気泳動法などの主として分子量の差を利用する方法、イオン交換クロマトグラフィーなどの荷電の差を利用する方法、アフィニティーコロマトグラフィーなどの特異的親和性を利用する方法、逆相高速液体クロマトグラフィーなどの疎水性の差を利用する方法、等電点電気泳動法などの等電点の差を利用する方法などが用いられる。

かくして得られるポリペプチドが遊離体で得られた場合には、自体公知の方法あるいはそれに準じる方法によって塩に変換することができ、逆に塩で得られた場合には自体公知の方法あるいはそれに準じる方法により、遊離体または他の塩に変換することができる。

なお、組換え体が产生するポリペプチドを、精製前または精製後に適当な蛋白修飾酵素を作用させることにより、任意に修飾を加えたり、ポリペプチドを部分的に除去することもできる。蛋白修飾酵素としては、例えば、トリプシン、キモトリプシン、アルギニルエンドペプチダーゼ、プロテインキナーゼ、グリコシダーゼなどが用いられる。

かくして生成する本発明のポリペプチドまたはその塩の存在または活性は、標識したリガンドとの結合実験および特異抗体を用いたエンザイムイムノアッセイなどにより測定することができる。

本発明のポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、その部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の受容体（以下、本発明のレセプター蛋白質と略記する場合がある）として具体的には、例えば、配列番号：37で表わされるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有するレセプター蛋白質などがあげられる。

本発明のレセプター蛋白質は、例えば、哺乳動物（例えば、ヒト、モルモット、ラット、マウス、ウサギ、ブタ、ヒツジ、ウシ、サルなど）のあらゆる細胞（例えば、脾細胞、神経細胞、グリア細胞、臍臓 β 細胞、骨髄細胞、メサンギウム細胞、ランゲルハンス細胞、表皮細胞、上皮細胞、内皮細胞、繊維芽細胞、繊維細胞、筋細胞、脂肪細胞、免疫細胞（例、マクロファージ、T細胞、B細胞、ナチ

ユラルキラー細胞、肥満細胞、好中球、好塩基球、好酸球、単球)、巨核球、滑膜細胞、軟骨細胞、骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、乳腺細胞、肝細胞もしくは間質細胞、またはこれら細胞の前駆細胞、幹細胞もしくはガン細胞など) や血球系の細胞、またはそれらの細胞が存在するあらゆる組織、例えば、脳、脳の各部位
5 (例、嗅球、扁頭核、大脳基底球、海馬、視床、視床下部、視床下核、大脳皮質、延髄、小脳、後頭葉、前頭葉、側頭葉、被殼、尾状核、脳染、黒質)、脊髄、下垂体、胃、睥臓、腎臓、肝臓、生殖腺、甲状腺、胆のう、骨髄、副腎、皮膚、筋肉、肺、消化管(例、大腸、小腸)、血管、心臓、胸腺、脾臓、顎下腺、末梢血、
10 末梢血球、前立腺、睾丸、精巣、卵巣、胎盤、子宮、骨、関節、骨格筋など(特に、脳や脳の各部位) に由来する蛋白質であってもよく、また合成蛋白質であつてもよい。

配列番号：37で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列としては、例えば、配列番号：37で表わされるアミノ酸配列と約50%以上、好ましくは約70%以上、より好ましくは約80%以上、さらに好ましくは約90%以上、最も好ましくは約95%以上の相同性を有するアミノ酸配列などが挙げられる。

本発明の配列番号：37で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質としては、例えば、配列番号：37で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列を有し、配列番号：37で表わされるアミノ酸配列と実質的に同質の活性を有する蛋白質などが好ましく、具体的には、配列番号：54で表されるアミノ酸配列を含有する蛋白質などがあげられる。

実質的に同質の活性としては、例えば、リガンド結合活性またはシグナル情報伝達作用などが挙げられる。実質的に同質とは、それらの活性が性質的に同質であることを示す。したがって、リガンド結合活性またはシグナル情報伝達作用などの活性が同等(例、約0.01~100倍、好ましくは約0.5~20倍、より好ましくは約0.5~2倍)であることが好ましいが、これらの活性の程度や蛋白質の分子量などの量的要素は異なっていてもよい。

リガンド結合活性またはシグナル情報伝達作用などの活性の測定は、自体公知の方法に準じて行なうことができるが、例えば、後述するリガンドの決定方法やスクリーニング方法に従って測定することができる。

また、本発明のレセプター蛋白質としては、①配列番号：37または配列番号：54で表わされるアミノ酸配列中の1または2個以上（好ましくは、1～30個程度、より好ましくは1～10個程度、さらに好ましくは数個（1または2個））のアミノ酸が欠失したアミノ酸配列、②配列番号：37または配列番号：54で表わされるアミノ酸配列に1または2個以上（好ましくは、1～30個程度、より好ましくは1～10個程度、さらに好ましくは数個（1または2個））のアミノ酸が付加したアミノ酸配列、③配列番号：37または配列番号：54で表わされるアミノ酸配列中の1または2個以上（好ましくは、1～30個程度、より好ましくは1～10個程度、さらに好ましくは数個（1または2個））のアミノ酸が他のアミノ酸で置換されたアミノ酸配列、または④それらを組み合わせたアミノ酸配列を含有する蛋白質なども用いられる。

15 本明細書におけるレセプター蛋白質は、ペプチド標記の慣例に従って左端がN末端（アミノ末端）、右端がC末端（カルボキシル末端）である。配列番号：37で表わされるアミノ酸配列を含有するレセプター蛋白質をはじめとする、本発明のレセプター蛋白質は、C末端が通常カルボキシル基（-COOH）またはカルボキシレート（-COO⁻）であるが、C末端がアミド（-CONH₂）またはエ

20 ステル（-COOR）であってもよい。

ここでエステルにおけるRとしては、例えば、メチル、エチル、n-ブロピル、イソブロピルもしくはn-ブチルなどのC₁₋₆アルキル基、例えば、シクロペンチル、シクロヘキシルなどのC₅₋₈シクロアルキル基、例えば、フェニル、α-ナフチルなどのC₆₋₁₂アリール基、例えば、ベンジル、フェネチルなどのフェニル-C₁₋₂アルキル基もしくはα-ナフチルメチルなどのα-ナフチル-C₁₋₂アルキル基などのC₇₋₁₄アラルキル基のほか、経口用エステルとして汎用されるピバロイルオキシメチル基などが用いられる。

本発明のレセプター蛋白質がC末端以外にカルボキシル基（またはカルボキシレート）を有している場合、カルボキシル基がアミド化またはエステル化されているものも本発明のレセプター蛋白質に含まれる。この場合のエステルとしては、例えば上記したC末端のエステルなどが用いられる。

5 さらに、本発明のレセプター蛋白質には、上記したポリペプチドにおいて、N末端のメチオニン残基のアミノ基が保護基（例えば、ホルミル基、アセチルなどのC₂₋₆アルカノイル基などのC₁₋₆アシル基など）で保護されているもの、N端側が生体内で切断され生成したグルタミル基がピログルタミン酸化したもの、分子内のアミノ酸の側鎖上の置換基（例えば、-OH、-SH、アミノ基、イミ

10 ダゾール基、インドール基、グアニジノ基など）が適当な保護基（例えば、ホルミル基、アセチルなどのC₂₋₆アルカノイル基などのC₁₋₆アシル基など）で保護されているもの、あるいは糖鎖が結合したいわゆる糖蛋白質などの複合蛋白質なども含まれる。

本発明のレセプター蛋白質の具体例としては、例えば、配列番号：37で表わされるアミノ酸配列を含有するラット由来のレセプター蛋白質、配列番号：54で表されるヒト由来のレセプター蛋白質などが用いられる。

本発明のレセプター蛋白質の部分ペプチドとしては、前記した本発明のレセプター蛋白質の部分ペプチドであれば何れのものであってもよいが、例えば、本発明のレセプター蛋白質分子のうち、細胞膜の外に露出している部位であって、レ

20 セプター結合活性を有するものなどが用いられる。

具体的には、配列番号：37または配列番号：54で表わされるアミノ酸配列を有するレセプター蛋白質の部分ペプチドとしては、疎水性プロット解析において細胞外領域（親水性（Hydrophilic）部位）であると分析された部分を含むペプチドである。また、疎水性（Hydrophobic）部位を一部に含むペプチドも同様に用いることができる。個々のドメインを個別に含むペプチドも用い得るが、複数のドメインを同時に含む部分のペプチドでも良い。

本発明のレセプター蛋白質の部分ペプチドのアミノ酸の数は、前記した本発明

のレセプター蛋白質の構成アミノ酸配列のうち少なくとも20個以上、好ましくは50個以上、より好ましくは100個以上のアミノ酸配列を有するペプチドなどが好ましい。

実質的に同一のアミノ酸配列とは、これらアミノ酸配列と約50%以上、好ましくは約70%以上、より好ましくは約80%以上、さらに好ましくは約90%以上、最も好ましくは約95%以上の相同性を有するアミノ酸配列を示す。

ここで、「実質的に同質の活性」とは、前記と同意義を示す。「実質的に同質の活性」の測定は前記と同様に行なうことができる。

また、本発明のレセプター蛋白質の部分ペプチドは、上記アミノ酸配列中の1または2個以上（好ましくは、1～10個程度、さらに好ましくは数個（1または2個））のアミノ酸が欠失し、または、そのアミノ酸配列に1または2個以上（好ましくは、1～20個程度、より好ましくは1～10個程度、さらに好ましくは数個（1または2個））のアミノ酸が付加し、または、そのアミノ酸配列中の1または2個以上（好ましくは、1～10個程度、より好ましくは数個（1または2個））のアミノ酸が他のアミノ酸で置換されていてもよい。

また、本発明のレセプター蛋白質の部分ペプチドはC末端が通常カルボキシル基（-COOH）またはカルボキシレート（-COO⁻）であるが、前記した本発明のポリペプチドのごとく、C末端がアミド（-CONH₂）またはエステル（-COOR）（Rは上記と同意義を示す）であってもよい。

本発明のレセプター蛋白質の部分ペプチドがC末端以外にカルボキシル基（またはカルボキシレート）を有している場合、カルボキシル基がアミド化またはエステル化されているものも本発明のレセプター蛋白質に含まれる。この場合のエステルとしては、例えば上記したC末端のエステルなどが用いられる。

さらに、本発明のレセプター蛋白質の部分ペプチドには、前記した本発明のレセプター蛋白質と同様に、N末端のメチオニン残基のアミノ基が保護基で保護されているもの、N端側が生体内で切断され生成したGlnがピログルタミン酸化したもの、分子内のアミノ酸の側鎖上の置換基が適当な保護基で保護されているも

の、あるいは糖鎖が結合したいわゆる糖ペプチドなどの複合ペプチドなども含まれる。

本発明のレセプター蛋白質またはその部分ペプチドの塩としては、とりわけ生理学的に許容される酸付加塩が好ましい。この様な塩としては、例えば無機酸（例 5 えば、塩酸、リン酸、臭化水素酸、硫酸）との塩、あるいは有機酸（例えば、酢酸、ギ酸、プロピオン酸、フマル酸、マレイン酸、コハク酸、酒石酸、クエン酸、リンゴ酸、蔴酸、安息香酸、メタンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸）との塩などが用いられる。

本発明のレセプター蛋白質またはその塩は、前述したヒトや哺乳動物の細胞または組織から自体公知のレセプター蛋白質の精製方法によって製造することもできるし、後述する本発明のレセプター蛋白質をコードするDNAを含有する形質転換体（宿主は前述の本発明のポリペプチドをコードするDNAを含有する形質転換体の宿主と同様のものなどが用いられる。）を前述の本発明のポリペプチドをコードするDNAを含有する形質転換体の作製方法に準じて作製し、前述の 15 本発明のポリペプチドをコードするDNAを含有する形質転換体の培養方法に準じて培養することによっても製造することができる。また、前述のポリペプチド合成法またはこれに準じて製造することもできる。

ヒトや哺乳動物の組織または細胞から製造する場合、ヒトや哺乳動物の組織または細胞をホモジナイズした後、酸などで抽出を行ない、該抽出液を逆相クロマ 20 トグラフィー、イオン交換クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを組み合わせることにより精製単離することができる。

本発明のレセプター蛋白質の部分ペプチドまたはその塩は、前述の自体公知のペプチドの合成法に従って、あるいは本発明のレセプター蛋白質を適当なペプチダーゼで切断することによって製造することができる。

本発明のレセプター蛋白質またはその塩、その部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の合成は上述の本発明のポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩における合成方法と同様 25

の方法により合成することができる。

本発明のレセプター蛋白質をコードするポリヌクレオチドとしては、本発明のレセプター蛋白質をコードする塩基配列（DNAまたはRNA、好ましくはDNA）を含有するものであればいかなるものであってもよい。該ポリヌクレオチド 5 としては、本発明のレセプター蛋白質をコードするDNA、mRNA等のRNA であり、二本鎖であっても、一本鎖であってもよい。二本鎖の場合は、二本鎖DNA、二本鎖RNAまたはDNA:RNAのハイブリッドでもよい。一本鎖の場合は、センス鎖（即ち、コード鎖）であっても、アンチセンス鎖（即ち、非コード鎖）であってもよい。

10 本発明のレセプター蛋白質をコードするポリヌクレオチドを用いて、例えば、公知の実験医学増刊「新PCRとその応用」15(7)、1997記載の方法またはそれに準じた方法により、本発明のレセプター蛋白質のmRNAを定量することができる。

本発明のレセプター蛋白質をコードするDNAとしては、ゲノムDNA、ゲノ 15 ムDNAライブラリー、前記した細胞・組織由来のcDNA、前記した細胞・組織由来のcDNAライブラリー、合成DNAのいずれでもよい。ライブラリーに 使用するベクターは、バクテリオファージ、プラスミド、コスミド、ファージミドなどいずれであってもよい。また、前記した細胞・組織よりtotalRNAまたはmRNA画分を調製したものを用いて直接Reverse Transcriptase Polymerase 20 Chain Reaction（以下、RT-PCR法と略称する）によって増幅することもできる。

具体的には、本発明のレセプター蛋白質をコードするDNAとしては、例えば、配列番号：38、配列番号：55または配列番号：56で表わされる塩基配列を含有するDNA、または配列番号：38、配列番号：55または配列番号：56 25 で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を有し、本発明のレセプター蛋白質と実質的に同質の活性（例、リガンド結合活性、シグナル情報伝達作用など）を有するレセプター蛋白質をコードす

るDNAであれば何れのものでもよい。

配列番号：38、配列番号：55または配列番号：56で表わされる塩基配列とハイブリダイズできるDNAとしては、例えば、配列番号：38、配列番号：55または配列番号：56で表わされる塩基配列と約70%以上、好ましくは約5 80%以上、より好ましくは約90%以上、最も好ましくは約95%以上の相同性を有する塩基配列を含有するDNAなどが用いられる。

ハイブリダイゼーションは、自体公知の方法あるいはそれに準じる方法、例えば、モレキュラー・クローニング (Molecular Cloning) 2nd (J. Sambrook et al., Cold Spring Harbor Lab. Press, 1989) に記載の方法などに従って行なうこと10ができる。また、市販のライブラリーを使用する場合、添付の使用説明書に記載の方法に従って行なうことができる。より好ましくは、ハイストリンジェントな条件に従って行なうことができる。

該ハイストリンジェントな条件とは、例えば、ナトリウム濃度が約19~40 mM、好ましくは約19~20 mMで、温度が約50~70°C、好ましくは約6 15 0~65°Cの条件を示す。特に、ナトリウム濃度が約19 mMで温度が約65°Cの場合が最も好ましい。

配列番号：38、配列番号：55または配列番号：56で表わされる塩基配列とハイブリダイズできるDNAでコードされるポリペプチドは上述の本発明のポリペプチドの製造法と同様にして製造することができ、該ポリペプチドのアミド、エステル、塩は上述の本発明のポリペプチドのアミド、エステル、塩と同様のものなどがあげられる。

より具体的には、配列番号：37で表わされるアミノ酸配列を含有するレセプター蛋白質をコードするDNAとしては、配列番号：38で表わされる塩基配列を有するDNAなどが用いられ、配列番号：54で表わされるアミノ酸配列を含有するレセプター蛋白質をコードするDNAとしては、配列番号：55または配列番号：56で表わされる塩基配列を有するDNAなどが用いられる。

本発明のレセプター蛋白質をコードするDNAの塩基配列の一部、または該D

NAと相補的な塩基配列の一部を含有してなるポリヌクレオチドとは、下記の本発明の部分ペプチドをコードするDNAを包含するだけではなく、RNAをも包含する意味で用いられる。

本発明のレセプター蛋白質の部分ペプチドをコードするDNAとしては、前述
5 した本発明の部分ペプチドをコードする塩基配列を含有するものであればいか
なるものであってもよい。また、ゲノムDNA、ゲノムDNAライブラリー、前
記した細胞・組織由来のcDNA、前記した細胞・組織由来のcDNAライブラ
リー、合成DNAのいずれでもよい。ライブラリーに使用するベクターは、バク
テリオファージ、プラスミド、コスミド、ファージミドなどいずれであってもよ
い。また、前記した細胞・組織よりmRNA画分を調製したものを用いて直接
10 Reverse Transcriptase Polymerase Chain Reaction (以下、RT-PCR法と略
称する) によって増幅することもできる。

具体的には、本発明の部分ペプチドをコードするDNAとしては、例えば、
(1) 配列番号：38、配列番号：55または配列番号：56で表わされる塩基
15 配列を有するDNAの部分塩基配列を有するDNA、または(2) 配列番号：3
8、配列番号：55または配列番号：56で表わされる塩基配列とハイストリン
ジエントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を有し、本発明のレセプター蛋白質と実質的に同質の活性(例、リガンド結合活性またはシグナル情報伝達作用など)を有するレセプター蛋白質をコードするDNAの部分塩基配列を有するDNAなどが用いられる。

(1) 本発明のポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたは
その塩、または本発明の部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステル
またはその塩(以下、これらを単に本発明のポリペプチドと略称することもある)
25 は、プロラクチン分泌の調節作用、つまり、プロラクチン分泌の促進および抑制
作用を有する。即ち、本発明のポリペプチドは、後述の実施例から明らかかな
ように、まずプロラクチン分泌の促進作用を有するため、プロラクチン分泌不全に
関係する各種疾患の予防および治療薬に用いることができる。一方、本発明のポリ

ペプチドは、そのレセプター蛋白質との親和性が強いため、投与量が増えるとプロラクチン分泌に対し脱感作 (desensitization) が起こる結果、プロラクチン分泌を抑制する作用も有する。この場合、プロラクチン過剰分泌に関係する各種疾患の予防および治療薬に用いることができる。

5 従って、本発明のポリペプチドは、プロラクチン分泌促進剤として、卵巣機能低下症、精囊発育不全、骨粗鬆症、更年期障害、乳汁分泌不全、甲状腺機能低下、腎不全などのプロラクチン分泌に関係する各種疾患の予防および治療薬として有用である。

さらに、本発明のポリペプチドは、プロラクチン分泌促進作用に基づき、性欲促進作用 (フェロモン的作用) を有するため、性欲促進剤としても有用である。

また、本発明のポリペプチドは、プロラクチン分泌抑制剤として、高プロラクチン血症、下垂体腺腫瘍、間脳腫瘍、月経異常、ストレス、自己免疫疾患、プロラクチノーマ、不妊症、インポテンス、無月経症、乳汁漏症、末端肥大症、キアリ・フロンメル (Chiari-Frommel) 症候群、アルゴンツ-デル・カスティロ (Argonz-del Castillo) 症候群、フォーベス・アルブライト (Forbes-Albright) 症候群、乳癌リンパ腫またはシーハン症候群または精子形成異常などのプロラクチン分泌に関係する各種疾患の予防および治療薬として有用である。

また、本発明のポリペプチドは、プロラクチン分泌抑制作用に基づいて、避妊薬としても有用である。

20 その他、本発明のポリペプチドは、プロラクチン分泌機能を調べるための検査薬としても、また、ウシ、ヤギ、ブタなどの畜産哺乳動物の乳汁の分泌促進剤などの動物薬としても有用であり、さらには該畜産哺乳動物体内で有用物質を生産させ、これをその乳汁中への分泌することによる有用物質生産などへの応用も期待される。

25 さらにまた、本発明のポリペプチドは、胎盤機能調節作用を有するため、絨毛癌、胞状奇胎、侵入奇胎、流産、胎児の発育不全、糖代謝異常、脂質代謝異常または分娩誘発の予防または治療薬としても有用である。

本発明のポリペプチドのプロラクチン分泌調節活性については、*Neuroendocrinology*, 62巻 1995年 198-206頁、または、*Neuroscience Letters* 203巻 1996年 164-170頁などに記載の方法またはそれに準じた方法により行うことができ、後述の実施例に記載した方法で行うことが望ましい。

5 本発明のポリペプチドを前述の医薬または動物薬として使用する場合は、常套手段に従って実施すればよい。例えば、必要に応じて糖衣を施した錠剤、カプセル剤、エリキシル剤、マイクロカプセル剤などとして経口的に、あるいは水もしくはそれ以外の薬学的に許容し得る液との無菌性溶液、または懸濁液剤などの注射剤の形で非経口的に使用できる。例えば、該ポリペプチドまたはその塩を生理10 学的に認められる担体、香味剤、賦形剤、ベヒクル、防腐剤、安定剤、結合剤などとともに一般に認められた製薬実施に要求される単位用量形態で混和することによって製造することができる。これら製剤における有効成分量は指示された範囲の適当な用量が得られるようにするものである。

15 錠剤、カプセル剤などに混和することができる添加剤としては、例えばゼラチン、コーンスターク、トラガントガム、アラビアゴムのような結合剤、結晶性セルロースのような賦形剤、コーンスターク、ゼラチン、アルギン酸などのような膨化剤、ステアリン酸マグネシウムのような潤滑剤、ショ糖、乳糖またはサッカリンのような甘味剤、ペパーミント、アカモノ油またはチェリーのような香味剤などが用いられる。調剤単位形態がカプセルである場合には、前記タイプの材料20 にさらに油脂のような液状担体を含有することができる。注射のための無菌組成物は注射用水のようなベヒクル中の活性物質、胡麻油、椰子油などのような天然産出植物油などを溶解または懸濁させるなどの通常の製剤実施にしたがって処方することができる。

25 注射用の水性液としては、例えば、生理食塩水、ブドウ糖やその他の補助薬を含む等張液（例えば、D-ソルビトール、D-マンニトール、塩化ナトリウムなど）などが挙げられ、適当な溶解補助剤、例えばアルコール（例えば、エタノール）、ポリアルコール（例えばプロピレングリコール、ポリエチレングリコール）、

非イオン性界面活性剤（例えばポリソルベート80（TM）、HCO-50）などと併用してもよい。油性液としてはゴマ油、大豆油などがあげられ、溶解補助剤として安息香酸ベンジル、ベンジルアルコールなどと併用してもよい。また、緩衝剤（例えば、リン酸塩緩衝液、酢酸ナトリウム緩衝液）、無痛化剤（例えば、
5 塩化ベンザルコニウム、塩酸プロカインなど）、安定剤（例えば、ヒト血清アルブミン、ポリエチレングリコールなど）、保存剤（例えば、ベンジルアルコール、フェノールなど）、酸化防止剤などと配合してもよい。調製された注射液は通常、適當なアンプルに無菌的に充填される。

このようにして得られる製剤は安全で低毒性であるので、例えば哺乳動物（例
10 えば、ヒト、マウス、ラット、モルモット、ウサギ、ヒツジ、ブタ、ウシ、ネコ、イヌ、サル、マントヒヒ、チンパンジーなど）に対して投与することができる。

本発明のポリペプチドの投与量は、症状などにより差異はあるが、経口投与する場合、一般的に成人の甲状腺機能低下症患者（体重60kgに対し）においては、一日につき通常約0.1から100mg、好ましくは約1.0から50mg、
15 より好ましくは約1.0から20mgである。非経口的に投与する場合は、その1回の投与量は投与対象、症状、投与方法などによっても異なるが、例えば注射剤の形では成人の甲状腺機能低下症患者（体重60kgに対し）においては、一日につき通常約0.01から30mg程度、好ましくは約0.1から20mg程度、より好ましくは約0.1から10mg程度を静脈注射により投与すればよい。他の動物の場合も、体重60kg当たりに換算した量を投与することができる。
20

（2）また、①本発明のポリペプチドを用いることを特徴とする、本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法、または、本発明のポリペプチドを含有してなる、本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング用キットを用いて得られる化合物またはその塩、または、
25

②本発明のポリペプチド、および本発明のレセプター蛋白質もしくはその部分ペプチドまたはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩（以下、本発明のレ

セプター蛋白質と略称することもある) を用いることを特徴とする、本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法、または、本発明のポリペプチドおよび本発明のレセプター蛋白質を含有してなる、本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング用キットを用いて得られる化合物またはその塩も、プロラクチン分泌の促進作用を有する場合は、プロラクチン分泌不全に関する各種疾患の予防および治療薬に用いることができ、プロラクチン分泌の抑制作用を有する場合は、プロラクチン過剰分泌に関する各種疾患の予防・治療薬に用いることができる。

10 得られる化合物またはその塩がプロラクチン分泌の促進作用を有する場合、プロラクチン分泌不全に関する各種疾患の予防および治療薬に用いることができ、
該化合物またはその塩は、プロラクチン分泌促進剤として、卵巣機能低下症、精囊発育不全、骨粗鬆症、更年期障害、乳汁分泌不全、甲状腺機能低下、腎不全などのプロラクチン分泌に関する各種疾患の予防・治療薬として有用である。

15 さらに、該化合物またはその塩は、プロラクチン分泌促進作用に基づき、性欲促進作用（フェロモン的作用）を有するため、性欲促進剤としても有用である。

一方、得られる化合物またはその塩がプロラクチン分泌の抑制作用を有する場合は、プロラクチン過剰分泌に関する各種疾患の予防・治療薬に用いることができ、
20 25
該化合物またはその塩は、プロラクチン分泌抑制剤として、高プロラクチン血症、下垂体腺腫瘍、間脳腫瘍、月経異常、ストレス、自己免疫疾患、プロラクチノーマ、不妊症、インポテンス、無月経症、乳汁漏症、末端肥大症、キアリ・フロンメル (Chiari-Frommel) 症候群、アルゴンツ-デル・カスティロ (Argonz-del Castillo) 症候群、フォーベス・アルブライト (Forbes-Albright) 症候群、乳癌、リンパ腫またはシーハン症候群または精子形成異常などのプロラクチン分泌に関する各種疾患の予防・治療薬として有用である。

また、該化合物またはその塩は、プロラクチン分泌抑制作用に基づいて、避妊薬としても有用である。

その他、得られる化合物またはその塩は、プロラクチン分泌機能を調べるための検査薬としても、また、ウシ、ヤギ、ブタなどの畜産哺乳動物の乳汁の分泌促進剤などの動物薬としても有用であり、さらには該畜産哺乳動物体内で有用物質を生産させ、これをその乳汁中への分泌することによる有用物質生産などへの応用も期待される。

さらにまた、得られる化合物またはその塩は、胎盤機能調節作用を有するため、絨毛癌、胞状奇胎、侵入奇胎、流産、胎児の発育不全、糖代謝異常、脂質代謝異常または分娩誘発の予防・治療薬としても有用である。

上記スクリーニング方法またはスクリーニングキットを用いて得られる化合物またはその塩のプロラクチン分泌調節活性については、Neuroendocrinology, 62巻 1995年 198-206頁、または、Neuroscience Letters 203巻 1996年 164-170頁などに記載の方法またはそれに準じた方法により行うことができ、後述の実施例に記載した方法で行うことが望ましい。

得られる化合物またはその塩を前述の医薬または動物薬として使用する場合は、常套手段に従って実施すればよい。例えば、必要に応じて糖衣を施した錠剤、カプセル剤、エリキシル剤、マイクロカプセル剤などとして経口的に、あるいは水もしくはそれ以外の薬学的に許容し得る液との無菌性溶液、または懸濁液剤などの注射剤の形で非経口的に使用できる。例えば、該化合物またはその塩を生理学的に認められる担体、香味剤、賦形剤、ベヒクル、防腐剤、安定剤、結合剤などとともに一般に認められた製薬実施に要求される単位用量形態で混和することによって製造することができる。これら製剤における有効成分量は指示された範囲の適当な用量が得られるようにするものである。

錠剤、カプセル剤などに混和することができる添加剤としては、例えばゼラチン、コーンスターーチ、トラガントガム、アラビアゴムのような結合剤、結晶性セルロースのような賦形剤、コーンスターーチ、ゼラチン、アルギン酸などのような

膨化剤、ステアリン酸マグネシウムのような潤滑剤、ショ糖、乳糖またはサッカリンのような甘味剤、ペパーミント、アカモノ油またはチェリーのような香味剤などが用いられる。調剤単位形態がカプセルである場合には、前記タイプの材料にさらに油脂のような液状担体を含有することができる。注射のための無菌組成物は注射用水のようなベヒクル中の活性物質、胡麻油、椰子油などのような天然産出植物油などを溶解または懸濁させるなどの通常の製剤実施にしたがって処方することができる。

注射用の水性液としては、例えば、生理食塩水、ブドウ糖やその他の補助薬を含む等張液（例えば、D-ソルビトール、D-マンニトール、塩化ナトリウムなど）などが挙げられ、適当な溶解補助剤、例えばアルコール（例えば、エタノール）、ポリアルコール（例えばプロピレングリコール、ポリエチレングリコール）、非イオン性界面活性剤（例えばポリソルベート 80 (TM)、HCO-50）などと併用してもよい。油性液としてはゴマ油、大豆油などがあげられ、溶解補助剤として安息香酸ベンジル、ベンジルアルコールなどと併用してもよい。また、緩衝剤（例えば、リン酸塩緩衝液、酢酸ナトリウム緩衝液）、無痛化剤（例えば、塩化ベンザルコニウム、塩酸プロカインなど）、安定剤（例えば、ヒト血清アルブミン、ポリエチレングリコールなど）、保存剤（例えば、ベンジルアルコール、フェノールなど）、酸化防止剤などと配合してもよい。調製された注射液は通常、適当なアンプルに無菌的に充填される。

このようにして得られる製剤は安全で低毒性であるので、例えば哺乳動物（例えば、ヒト、マウス、ラット、モルモット、ウサギ、ヒツジ、ブタ、ウシ、ネコ、イヌ、サル、マントヒヒ、チンパンジーなど）に対して投与することができる。

得られる化合物またはその塩の投与量は、症状などにより差異はあるが、経口投与する場合、一般的に成人の甲状腺機能低下症患者（体重 60 kg に対し）においては、一日につき通常約 0.1 から 100 mg、好ましくは約 1.0 から 50 mg、より好ましくは約 1.0 から 20 mg である。非経口的に投与する場合は、その 1 回の投与量は投与対象、症状、投与方法などによっても異なるが、例えば

注射剤の形では成人の甲状腺機能低下症患者（体重 60 kg に対し）においては、一日につき通常約 0.01 から 30 mg 程度、好ましくは約 0.1 から 20 mg 程度、より好ましくは約 0.1 から 10 mg 程度を静脈注射により投与すればよい。他の動物の場合も、体重 60 kg 当たりに換算した量を投与することができる。

5 (3) 本発明のポリペプチドの活性を促進または抑制する化合物またはその塩のスクリーニング方法およびスクリーニング用キットについて以下に詳述する。

本発明のポリペプチドを用いることを特徴とする、本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法は、好ましくは、本発明のポリペプチド、および本発明のレセプター蛋白質もしくはその部分ペプチドまたはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩（以下、本発明のレセプター蛋白質と略称することもある）を用いることを特徴とする、発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法である。

該スクリーニング方法は、具体的には、(i) 本発明のポリペプチドに本発明のレセプター蛋白質を接触させた場合と、(ii) 本発明のポリペプチドに本発明のレセプター蛋白質および試験化合物を接触させた場合における、本発明のポリペプチドの活性を測定し、比較することにより行われる。

具体的には、上記スクリーニング方法においては、例えば、(i) と (ii) の場合における、本発明のポリペプチドおよび試験化合物の細胞刺激活性または本発明のポリペプチドおよび試験化合物の本発明のレセプター蛋白質に対する結合量などを測定して、比較することを特徴とするものである。本発明のポリペプチドの細胞刺激活性などは、自体公知の方法、例えば、Dockray, G. J. et al., *Nature*, 305, 328-330, 1983, Fukusumi, S., et al., *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 232, 157-163, 1997, Hinuma, S., et al., *Nature*, 393, 272-276, 1998, Tatemoto, K., et al. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 251, 471-476, 1998. などに記載の方法あるいはそれに準じる方法などに従つて測定することができる。

本発明のポリペプチドおよび試験化合物の本発明のレセプター蛋白質に対する結合量の測定、細胞刺激活性の測定後述の方法またはそれらに準じた方法により行うことができる。

試験化合物としては、例えば、ペプチド、タンパク、非ペプチド性化合物、合成化合物、発酵生産物、細胞抽出液、植物抽出液、動物組織抽出液などがあげられ、これら化合物は新規な化合物であってもよいし、公知の化合物であってもよい。

上記のスクリーニング方法を実施するには、本発明のポリペプチドを、スクリーニングに適したバッファーに懸濁することにより本発明のポリペプチドの標品を調製する。バッファーには、pH約4～10（望ましくは、pH約6～8）のリン酸バッファー、トリスー塩酸バッファーなどの、本発明のポリペプチドと本発明のレセプター蛋白質との反応を阻害しないバッファーであればいずれでもよい。

例えば、上記（ii）の場合における細胞刺激活性などが上記（i）の場合に比べて、約20%以上、好ましくは約30%以上、より好ましくは約50%以上上昇させる試験化合物を本発明のポリペプチドの細胞刺激活性などを促進する化合物として、一方、上記（ii）の場合における細胞刺激活性などが上記（i）の場合に比べて、約20%以上、好ましくは約30%以上、より好ましくは約50%以上阻害する試験化合物を本発明のポリペプチドの細胞刺激活性などを阻害する化合物として選択することができる。

また、これらの試験を行う前に、後述の「本発明のポリペプチドおよび試験化合物の本発明のレセプター蛋白質に対する結合量の測定」に記載した①～③の方法またはそれに準じた方法により試験を行い、試験化合物が本発明のレセプター蛋白質に結合することを確認することが好ましい。

さらに、上記の試験化合物が本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物またはその塩であることを判断する一つの指標としては、本発明のポリペプチドおよび試験化合物の本発明のレセプター蛋白質に対する結合量と本発

明のポリペプチドの標識体との結合を阻害する活性があげられる。例えば, Hosoya, M. et al. Biochem. Biophys. Res. Commun. 194(1), 133-143, 1993 に記載されているような結合試験系において、 1×10^{-2} M以下の濃度で標識体の結合を10%以上阻害する試験化合物は本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物またはその塩である可能性が高いと考えられる。但し、結合阻害活性は標識体の結合をもとに測定した相対的な値であるため、上記の試験化合物が本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物またはその塩であることを判断する上で必須ではない。

本発明のスクリーニング用キットは、本発明のポリペプチドを含有するものである。本発明のスクリーニング用キットは本発明のポリペプチドの受容体、即ち、本発明のレセプター蛋白質（具体的には、配列番号：37で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質またはその塩、またはその部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩）をさらに含有するものが好ましい。

本発明のスクリーニング用キットの例としては、次のものが挙げられる。

1. スクリーニング用試薬

①測定用緩衝液および洗浄用緩衝液

Hanks' Balanced Salt Solution (ギブコ社製) に、0.05%のウシ血清アルブミン (シグマ社製) を加えたもの。

孔径0.45 μm のフィルターで濾過滅菌し、4°Cで保存するか、あるいは用時調製しても良い。

②レセプター標品

本発明のレセプター蛋白質を発現させたCHO細胞を、12穴プレートに5× 10^5 個/穴で継代し、37°C、5%CO₂、95%airで2日間培養したもの。

③標識リガンド

市販の[³H]、[¹²⁵I]、[¹⁴C]、[³⁵S]などで標識した本発明のポリペプチドの水溶液の状態のものを4°Cあるいは-20°Cにて保存し、用時に測

定用緩衝液にて $1 \mu M$ に希釈する。

④リガンド標準液

本発明のポリペプチドを 0.1 % ウシ血清アルブミン（シグマ社製）を含む PBS で 1 mM となるように溶解し、 -20°C で保存する。

5 2. 測定法

① 12穴組織培養用プレートにて培養した本発明のレセプター蛋白質発現 CHO 細胞を、測定用緩衝液 1 ml で2回洗浄した後、 $490 \mu \text{l}$ の測定用緩衝液を各穴に加える。

10 ② $10^{-3} \sim 10^{-10} \text{ M}$ の試験化合物溶液を $5 \mu \text{l}$ 加えた後、標識リガンドを $5 \mu \text{l}$ 加え、室温にて1時間反応させる。非特異的結合量を知るために試験化合物の代わりに 10^{-3} M のリガンドを $5 \mu \text{l}$ 加えておく。

③ 反応液を除去し、 1 ml の洗浄用緩衝液で3回洗浄する。細胞に結合した標識リガンドを $0.2 \text{ N NaOH} - 1\% \text{ SDS}$ で溶解し、 4 ml の液体シンチレーター A（和光純薬製）と混合する。

15 ④ 液体シンチレーションカウンター（ベックマン社製）を用いて放射活性を測定し、Percent Maximum Binding (PMB) を次の式〔数1〕で求める。

〔数1〕

$$\text{PMB} = [(B - \text{NSB}) / (B_0 - \text{NSB})] \times 100$$

PMB : Percent Maximum Binding

20 B : 検体を加えた時の値

NSB : Non-specific Binding (非特異的結合量)

B₀ : 最大結合量

本発明のスクリーニング方法またはスクリーニング用キットを用いて得られる化合物またはその塩は、上記した試験化合物、例えば、ペプチド、タンパク、
25 非ペプチド性化合物、合成化合物、発酵生産物、細胞抽出液、植物抽出液、動物組織抽出液、血漿などから選ばれた化合物であり、本発明のポリペプチドの活性（例、細胞刺激活性など）を促進または阻害する化合物である。

該化合物の塩としては、前記した本発明のポリペプチドの塩と同様のものが用いられる。

(4) 本発明のポリペプチドおよび試験化合物の本発明のレセプター蛋白質に対する結合量・細胞刺激活性の測定

5 本発明のレセプター蛋白質を用いるか、または組換え型レセプター蛋白質の発現系を構築し、該発現系を用いたレセプター結合アッセイ系を用いることによつて、本発明のレセプター蛋白質に結合して細胞刺激活性（例えば、アラキドン酸遊離、アセチルコリン遊離、細胞内 Ca^{2+} 遊離、細胞内 cAMP 生成、細胞内 cGMP 生成、イノシトールリン酸産生、細胞膜電位変動、細胞内蛋白質のリン酸化、c-fos 活性化、pH の低下などを促進する活性または抑制する活性）を有する化合物（例えば、ペプチド、蛋白質、非ペプチド性化合物、合成化合物、発酵生産物など）の結合量・細胞刺激活性を測定することができる。

10 該測定方法においては、本発明のレセプター蛋白質と試験化合物とを接触させた場合の、例えば、該本発明のレセプター蛋白質に対する試験化合物の結合量や、
15 細胞刺激活性などを測定することを特徴とする。

より具体的には、

- ①標識した試験化合物を、本発明のレセプター蛋白質に接触させた場合における、標識した試験化合物の該蛋白質に対する結合量を測定することを特徴とする測定方法、
- 20 ②標識した試験化合物を、本発明のレセプター蛋白質を含有する細胞または該細胞の膜画分に接触させた場合における、標識した試験化合物の該細胞または該膜画分に対する結合量を測定することを特徴とする測定方法、
- ③標識した試験化合物を、本発明のレセプター蛋白質をコードするDNAを含有する形質転換体を培養することによって細胞膜上に発現したレセプター蛋白質に接触させた場合における、標識した試験化合物の該レセプター蛋白質に対する結合量を測定することを特徴とする測定方法、
- 25 ④試験化合物を、本発明のレセプター蛋白質を含有する細胞に接触させた場合に

おける、レセプター蛋白質を介した細胞刺激活性（例えば、アラキドン酸遊離、アセチルコリン遊離、細胞内 Ca^{2+} 遊離、細胞内 cAMP 生成、細胞内 cGMP 生成、イノシトールリン酸産生、細胞膜電位変動、細胞内蛋白質のリン酸化、c-fos の活性化、pH の低下などを促進する活性または抑制する活性など）を測定することを特徴とする本発明のレセプター蛋白質に対するリガンドの決定方法、および

⑤試験化合物を、本発明のレセプター蛋白質をコードする DNA を含有する形質転換体を培養することによって細胞膜上に発現したレセプター蛋白質に接触させた場合における、レセプター蛋白質を介する細胞刺激活性（例えば、アラキドン酸遊離、アセチルコリン遊離、細胞内 Ca^{2+} 遊離、細胞内 cAMP 生成、細胞内 cGMP 生成、イノシトールリン酸産生、細胞膜電位変動、細胞内蛋白質のリン酸化、c-fos の活性化、pH の低下などを促進する活性または抑制する活性など）の測定方法によることを特徴とする。

特に、上記①～③の試験を行ない、試験化合物が本発明のレセプター蛋白質に結合することを確認した後に、上記④～⑤の試験を行なうことが好ましい。

まず、本測定方法に用いるレセプター蛋白質としては、上記した本発明のレセプター蛋白質を含有するものであれば何れのものであってもよいが、動物細胞を用いて大量発現させたレセプター蛋白質が適している。

本発明のレセプター蛋白質を製造するには、前述の発現方法が用いられるが、該レセプター蛋白質をコードする DNA を哺乳動物細胞や昆虫細胞で発現することにより行なうことが好ましい。目的とする蛋白質部分をコードする DNA 断片には、通常、相補 DNA が用いられるが、必ずしもこれに制約されるものではない。例えば、遺伝子断片や合成 DNA を用いてもよい。本発明のレセプター蛋白質をコードする DNA 断片を宿主動物細胞に導入し、それらを効率よく発現させるためには、該 DNA 断片を昆虫を宿主とするバキュロウイルスに属する核多角体病ウイルス (nuclear polyhedrosis virus; NPV) のポリヘドリンプロモーター、SV40 由来のプロモーター、レトロウイルスのプロモーター、メタロ

チオネインプロモーター、ヒトヒートショックプロモーター、サイトメガロウイルスプロモーター、SR α プロモーターなどの下流に組み込むのが好ましい。発現したレセプターの量と質の検査はそれ自体公知の方法で行うことができる。例えば、文献〔Nambi, P. ら、ザ・ジャーナル・オブ・バイオロジカル・ケミストリー (J. Biol. Chem.) , 267巻, 19555~19559頁, 1992年〕に記載の方法に従って行うことができる。

したがって、該測定方法において、本発明のレセプター蛋白質を含有するものとしては、それ自体公知の方法に従って精製したレセプター蛋白質であってもよいし、該レセプター蛋白質を含有する細胞またはその細胞膜画分を用いてもよい。

該測定方法において、本発明のレセプター蛋白質を含有する細胞を用いる場合、該細胞をグルタルアルデヒド、ホルマリンなどで固定化してもよい。固定化方法はそれ自体公知の方法に従って行なうことができる。

本発明のレセプター蛋白質を含有する細胞としては、本発明のレセプター蛋白質を発現した宿主細胞をいうが、該宿主細胞としては、大腸菌、枯草菌、酵母、昆虫細胞、動物細胞などが用いられる。

細胞膜画分としては、細胞を破碎した後、それ自体公知の方法で得られる細胞膜が多く含まれる画分のことをいう。細胞の破碎方法としては、Potter-Elvehjem型ホモジナイザーで細胞を押し潰す方法、ワーリングブレンダーやポリトロン (Kinematica社製) による破碎、超音波による破碎、フレンチプレスなどで加圧しながら細胞を細いノズルから噴出させることによる破碎などが挙げられる。細胞膜の分画には、分画遠心分離法や密度勾配遠心分離法などの遠心力による分画法が主として用いられる。例えば、細胞破碎液を低速 (500 rpm~3000 rpm) で短時間 (通常、約1分~10分) 遠心し、上清をさらに高速 (15000 rpm~30000 rpm) で通常30分~2時間遠心し、得られる沈殿を膜画分とする。該膜画分中には、発現したレセプター蛋白質と細胞由来のリン脂質や膜蛋白質などの膜成分が多く含まれる。

該レセプター蛋白質を含有する細胞やその膜画分中のレセプター蛋白質の量

は、1細胞当たり $10^3\sim10^8$ 分子であるのが好ましく、 $10^5\sim10^7$ 分子であるのが好適である。なお、発現量が多いほど膜画分当たりのリガンド結合活性(比活性)が高くなり、高感度なスクリーニング系の構築が可能になるばかりでなく、同一ロットで大量の試料を測定できるようになる。

5 上記の①～③の方法を実施するためには、適当なレセプター蛋白質画分と、標識した試験化合物が必要である。

レセプター蛋白質画分としては、天然型のレセプター蛋白質画分か、またはそれと同等の活性を有する組換え型レセプター画分などが望ましい。ここで、同等の活性とは、同等のリガンド結合活性、シグナル情報伝達作用などを示す。

10 標識した試験化合物としては、 $[^3H]$ 、 $[^{125}I]$ 、 $[^{14}C]$ 、 $[^{35}S]$ などで標識したアンギオテンシン、ポンペシン、カナビノイド、コレシストキニン、グルタミン、セロトニン、メラトニン、ニューロペプチドY、オピオイド、ブリン、パソプレッシン、オキシトシン、PACAP、セクレチン、グルカゴン、カルシトニン、アドレノメジュリン、ソマトスタチン、GHRH、CRF、ACT

15 H、GRP、PTH、VIP(パソアクティブ インテスティナル アンド リイテッド ポリペプチド)、ソマトスタチン、ドーパミン、モチリン、アミリン、プラジキニン、CGRP(カルシトニンジーンリーティッドペプチド)、ロイコトリエン、パンクレアスタチン、プロスタグラジン、トロンボキサン、アデノシン、アドレナリン、 α および β -ケモカイン(chemokine)(例えば、IL-8、GRO α 、GRO β 、GRO γ 、NAP-2、ENA-78、PF4、IP10、GCP-2、MCP-1、HC14、MCP-3、I-309、MIP1 α 、MIP-1 β 、RANTESなど)、エンドセリン、エンテロガストリン、ヒスタミン、ニューロテンシン、TRH、パンクレアティックポリペプタイドまたはガラニンなどが好適である。

25 具体的には、まず本発明のレセプター蛋白質を含有する細胞または細胞の膜画分を、決定方法に適したバッファーに懸濁することによりレセプター標品を調製する。バッファーには、pH4～10(望ましくはpH6～8)のリン酸バッフ

アーやトリスー塩酸バッファーなどのリガンドとレセプター蛋白質との結合を阻害しないバッファーであればいずれでもよい。また、非特異的結合を低減させる目的で、CHAPS、Tween-80TM（花王ーアトラス社）、ジギトニン、デオキシコレートなどの界面活性剤やウシ血清アルブミンやゼラチンなどの各種蛋白質をバッファーに加えることもできる。さらに、プロテアーゼによるリセプターやリガンドの分解を抑える目的でPMSF、ロイペプチド、E-64（ペプチド研究所製）、ペプスタチンなどのプロテアーゼ阻害剤を添加することもできる。0.01ml～10mlの該レセプター溶液に、一定量（5000cpm～500000cpm）の [³H]、 [¹²⁵I]、 [¹⁴C]、 [³⁵S] などで標識した試験化合物を共存させる。非特異的結合量（NSB）を知るために大過剰の未標識の試験化合物を加えた反応チューブも用意する。反応は約0℃から50℃、望ましくは約4℃から37℃で、約20分から24時間、望ましくは約30分から3時間行なう。反応後、ガラス纖維濾紙等で濾過し、適量の同バッファーで洗浄した後、ガラス纖維濾紙に残存する放射活性を液体シンチレーションカウンターあるいは γ -カウンターで計測する。全結合量（B）から非特異的結合量（NSB）を引いたカウント（B-NSB）が0cpmを越える試験化合物を本発明のポリペプチドの活性を促進する化合物として選択することができる。

本発明のレセプター蛋白質に対するリガンドを決定する上記の④～⑤の方法を実施するためには、該レセプター蛋白質を介する細胞刺激活性（例えば、アラキドン酸遊離、アセチルコリン遊離、細胞内Ca²⁺遊離、細胞内cAMP生成、細胞内cGMP生成、イノシトールリン酸産生、細胞膜電位変動、細胞内蛋白質のリン酸化、c-fosの活性化、pHの低下などを促進する活性または抑制する活性など）を公知の方法または市販の測定用キットを用いて測定することができる。具体的には、まず、レセプター蛋白質を含有する細胞をマルチウェルプレート等に培養する。前もって新鮮な培地あるいは細胞に毒性を示さない適当なバッファーに交換し、試験化合物などを添加して一定時間インキュベートした後、細胞を抽出あるいは上清液を回収して、生成した産物をそれぞれの方法に従って

定量する。細胞刺激活性の指標とする物質（例えば、アラキドン酸など）の生成が、細胞が含有する分解酵素によって検定困難な場合は、該分解酵素に対する阻害剤を添加してアッセイを行なってもよい。また、cAMP産生抑制などの活性については、フォルスコリンなどで細胞の基礎的産生量を増大させておいた細胞

5 に対する産生抑制作用として検出することができる。

本発明のレセプター蛋白質に結合するリガンド決定用キットは、本発明のレセプター蛋白質、本発明のレセプター蛋白質を含有する細胞、または本発明のレセプター蛋白質を含有する細胞の膜画分などを含有するものである。

該測定用キットの例としては、次のものが挙げられる。

10 1. 測定用試薬

①測定用緩衝液および洗浄用緩衝液

Hanks' Balanced Salt Solution (ギブコ社製) に、0.05%のウシ血清アルブミン (シグマ社製) を加えたもの。

孔径0.45μmのフィルターで濾過滅菌し、4℃で保存するか、あるいは用時調製しても良い。

②G蛋白質共役型レセプター蛋白質標品

本発明のレセプター蛋白質を発現させたCHO細胞を、12穴プレートに5×10⁵個/穴で継代し、37℃、5%CO₂、95%airで2日間培養したもの。

③標識試験化合物

20 市販の[³H]、[¹²⁵I]、[¹⁴C]、[³⁵S]などで標識した化合物、または適当な方法で標識化したもの

水溶液の状態のものを4℃あるいは-20℃にて保存し、用時に測定用緩衝液にて1μMに希釈する。水に難溶性を示す試験化合物については、ジメチルホルムアミド、DMSO、メタノール等に溶解する。

25 ④非標識試験化合物

標識化合物と同じものを100～1000倍濃い濃度に調製する。

2. 測定法

① 12穴組織培養用プレートにて培養した本発明のレセプター蛋白質発現CH
O細胞を、測定用緩衝液1m1で2回洗浄した後、490μlの測定用緩衝液を
各穴に加える。

②標識試験化合物を5μl加え、室温にて1時間反応させる。非特異的結合量を
5 知るためには非標識試験化合物を5μl加えておく。

③反応液を除去し、1m1の洗浄用緩衝液で3回洗浄する。細胞に結合した標識
試験化合物を0.2N NaOH-1% SDSで溶解し、4m1の液体シンチレ
ーターA（和光純薬製）と混合する。

④液体シンチレーションカウンター（ベックマン社製）を用いて放射活性を測定
10 する。

本明細書および図面において、塩基やアミノ酸などを略号で表示する場合、I
UPAC-IUB Commission on Biochemical Nomenclatureによる略号あるいは
は当該分野における慣用略号に基づくものであり、その例を下記する。またアミ
ノ酸に関し光学異性体があり得る場合は、特に明示しなければL体を示すものと
15 する。

DNA	：デオキシリボ核酸
cDNA	：相補的デオキシリボ核酸
A	：アデニン
T	：チミン
20 G	：グアニン
C	：シトシン
I	：イノシン
R	：アデニン（A）またはグアニン（G）
Y	：チミン（T）またはシトシン（C）
25 M	：アデニン（A）またはシトシン（C）
K	：グアニン（G）またはチミン（T）
S	：グアニン（G）またはシトシン（C）

	W	: アデニン (A) またはチミン (T)
	B	: グアニン (G) 、 グアニン (G) またはチミン (T)
	D	: アデニン (A) 、 グアニン (G) またはチミン (T)
	V	: アデニン (A) 、 グアニン (G) またはシトシン (C)
5	N	: アデニン (A) 、 グアニン (G) 、 シトシン (C) もしく はチミン (T) または不明もしくは他の塩基
	RNA	: リボ核酸
	mRNA	: メッセンジャー リボ核酸
	dATP	: デオキシアデノシン三リン酸
10	dTTP	: デオキシチミジン三リン酸
	dGTP	: デオキシグアノシン三リン酸
	dCTP	: デオキシシチジン三リン酸
	ATP	: アデノシン三リン酸
	EDTA	: エチレンジアミン四酢酸
15	SDS	: ドデシル硫酸ナトリウム
	BHA	: ベンズヒドリルアミン
	pMBHA	: p-メチルベンズヒドリルアミン
	Tos	: p-トルエンスルフォニル
	Bz1	: ベンジル
20	Bom	: ベンジルオキシメチル
	Boc	: t-ブチルオキシカルボニル
	DCM	: ジクロロメタン
	HOBt	: 1-ヒドロキシベンズトリアゾール
	DCC	: N, N'-ジシクロヘキシルカルボジイミド
25	TFA	: トリフルオロ酢酸
	DIEA	: ジイソプロピルエチルアミン
	Gly	: グリシン

A l a またはA	: アラニン
V a l またはV	: バリン
L e u またはL	: ロイシン
I l e またはI	: イソロイシン
5 S e r またはS	: セリン
T h r またはT	: スレオニン
C y s またはC	: システイン
M e t またはM	: メチオニン
G l u またはE	: グルタミン酸
10 A s p またはD	: アスパラギン酸
L y s またはK	: リジン
A r g またはR	: アルギニン
H i s またはH	: ヒスチジン
P h e またはF	: フェニルアラニン
15 T y r またはY	: チロシン
T r p またはW	: トリプトファン
P r o またはP	: プロリン
A s n またはN	: アスパラギン
G l n またはQ	: グルタミン
20 p G l u	: ピログルタミン酸

本願明細書の配列表の配列番号は、以下の配列を示す。

〔配列番号：1〕

後述の参考例1で得られた本発明のポリペプチドのアミノ酸配列（ヒト型）を示す。

25 〔配列番号：2〕

配列番号：1で表わされるアミノ酸配列を有する本発明のポリペプチドをコードするDNAの塩基配列を示す。

〔配列番号：3〕

後述の参考例1で用いられるプライマーF 5の塩基配列を示す。

〔配列番号：4〕

後述の参考例1で用いられるプライマーF 6の塩基配列を示す。

5 〔配列番号：5〕

後述の参考例1で用いられるプライマーF 1の塩基配列を示す。

〔配列番号：6〕

後述の参考例1で用いられるプライマーR 5の塩基配列を示す。

〔配列番号：7〕

10 後述の参考例3で用いられるプライマーh R 1の塩基配列を示す。

〔配列番号：8〕

後述の参考例3で得られた本発明のポリペプチドのアミノ酸配列（ヒト型）を示す。

〔配列番号：9〕

15 配列番号：8で表わされるアミノ酸配列を有する本発明のポリペプチドをコードするDNAの塩基配列を示す。

〔配列番号：10〕

後述の参考例4で用いられるプライマーb F 6の塩基配列を示す。

〔配列番号：11〕

20 後述の参考例4で用いられるプライマーb F 7の塩基配列を示す。

〔配列番号：12〕

後述の参考例4で用いられるプライマーb R 6の塩基配列を示す。

〔配列番号：13〕

後述の参考例4で用いられるプライマーb R 7の塩基配列を示す。

25 〔配列番号：14〕

後述の参考例4で得られた本発明のポリペプチドのアミノ酸配列（ウシ型）を示す。

〔配列番号：15〕

配列番号：14で表わされるアミノ酸配列を有する本発明のポリペプチドをコードするDNAの塩基配列を示す。

〔配列番号：16〕

5 後述の参考例5で用いられるプライマーrLPR1の塩基配列を示す。

〔配列番号：17〕

後述の参考例5で用いられるプライマーrLPF1の塩基配列を示す。

〔配列番号：18〕

後述の参考例5で得られた本発明のポリペプチドのアミノ酸配列（ラット型）を
10 示す（リクローニング前）。

〔配列番号：19〕

配列番号：18で表わされるアミノ酸配列を有する本発明のポリペプチドをコードするDNAの塩基配列を示す。

〔配列番号：20〕

15 RF GK配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：21〕

RF GR配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：22〕

RS GK配列をコードする塩基配列を示す。

20 〔配列番号：23〕

RS GR配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：24〕

RL GK配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：25〕

25 RL GR配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：26〕

後述の参考例6で用いられるプライマーFF2の塩基配列を示す。

〔配列番号：27〕

後述の参考例6で用いられるプライマーrR4の塩基配列を示す。

〔配列番号：28〕

後述の参考例6で用いられるプライマーmF1の塩基配列を示す。

5 〔配列番号：29〕

後述の参考例6で用いられるプライマーmF3の塩基配列を示す。

〔配列番号：30〕

後述の参考例6で用いられるプライマーmR1の塩基配列を示す。

〔配列番号：31〕

10 後述の参考例6で用いられるプライマーm0Fの塩基配列を示す。

〔配列番号：32〕

後述の参考例6で用いられるプライマーm0Rの塩基配列を示す。

〔配列番号：33〕

後述の参考例6で得られた本発明のポリペプチドのアミノ酸配列（マウス型）を
15 示す。

〔配列番号：34〕

配列番号：33で表わされるアミノ酸配列を有する本発明のポリペプチドをコードするDNAの塩基配列を示す。

〔配列番号：35〕

20 後述の参考例7で得られたラット脳幹周辺部由来新規G蛋白質共役型レセプター蛋白質rOT7T022LをコードするcDNAをクローニングするため
に使用したプライマー1の塩基配列を示す。

〔配列番号：36〕

25 後述の参考例7で得られたラット脳幹周辺部由来新規G蛋白質共役型レセプター蛋白質rOT7T022LをコードするcDNAをクローニングするため
に使用したプライマー2の塩基配列を示す。

〔配列番号：37〕

後述の参考例 7 で得られたラット脳幹周辺部由来新規G蛋白質共役型レセプター蛋白質 rOT7T022L のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：38〕

後述の参考例 7 で得られたラット脳幹周辺部由来新規G蛋白質共役型レセプ

5 ター蛋白質 rOT7T022L をコードする cDNA の塩基配列を示す。

〔配列番号：39〕

後述の参考例 7 (3) で得られたペプチドのアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：40〕

後述の参考例 7 (4) で得られたペプチドのアミノ酸配列を示す。

10 〔配列番号：41〕

後述の参考例 7 (5) で得られたペプチドのアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：42〕

配列番号：1 で表わされるアミノ酸配列の第 81 番目 (Met) ～第 92 番目 (Phe)
のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードする塩基配列を示す。

15 〔配列番号：43〕

配列番号：1 で表わされるアミノ酸配列の第 101 番目 (Ser) ～112 番目
(Ser) のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：44〕

配列番号：1 で表わされるアミノ酸配列の第 124 番目 (Val) ～131 番目
(Phe) のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：45〕

配列番号：1 で表わされるアミノ酸配列の第 1 番目 (Met) ～第 92 番目 (Phe)
のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：46〕

25 配列番号：1 で表わされるアミノ酸配列の、第 1 番目 (Met) ～112 番目 (Ser)
のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：47〕

配列番号：1で表わされるアミノ酸配列の、第1番目(Met)～131番目(Phe)のアミノ酸配列を含有するペプチドをコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：48〕

参考例5で用いられたプライマーratF2の塩基配列を示す。

5 〔配列番号：49〕

参考例5で用いられたプライマーratRの塩基配列を示す。

〔配列番号：50〕

後述の参考例5で得られた本発明のポリペプチドのアミノ酸配列(ラット型)を示す(リクローニング後)。

10 〔配列番号：51〕

配列番号：50で表わされるアミノ酸配列を有する本発明のポリペプチドをコードするDNAの塩基配列を示す。

〔配列番号：52〕

参考例9で用いられたプライマーbFPの塩基配列を示す。

15 〔配列番号：53〕

参考例9で用いられたプライマーbFRの塩基配列を示す。

〔配列番号：54〕

参考例11で得られたh0T7T022で表されるタンパク質(ポリペプチド)をコードするアミノ酸配列を示す。

20 〔配列番号：55〕

配列番号：54で表されるアミノ酸配列を有するh0T7T022で表されるタンパク質(ポリペプチド)をコードするDNAの塩基配列を示す。

〔配列番号：56〕

25 配列番号：54で表されるアミノ酸配列を有するh0T7T022で表されるタンパク質(ポリペプチド)をコードするDNAの塩基配列を示す。

〔配列番号：57〕

参考例11で用いられたプライマー1の塩基配列を示す。

〔配列番号：58〕

参考例11で用いられたプライマー2の塩基配列を示す。

〔配列番号：59〕

実施例4で用いられたプライマー#1の塩基配列を示す。

5 〔配列番号：60〕

実施例4で用いられたプライマー#2の塩基配列を示す。

〔配列番号：61〕

実施例4で用いられたプライマー#3の塩基配列を示す。

〔配列番号：62〕

10 実施例4で用いられたプライマー#4の塩基配列を示す。

後述の参考例2で得られた形質転換体 *Escherichia coli* JM109/phRF1 は、
1999年4月14日から通商産業省工業技術院生命工学工業技術研究所（NIBH）に寄託番号 FERM BP-6702 として、財団法人発酵研究所（IFO）に1999年3月5日から寄託番号 IFO 16265 として寄託されている。

後述の参考例7で得られた形質転換体エシェリヒア コリ (*Escherichia coli*) DH10B/pAK-rOTO22L は、1998年11月2日から通商産業省工業技術院生命工学工業技術研究所（NIBH）に寄託番号 FERM BP-6558 として、1998年10月16日から財団法人・発酵研究所（IFO）に寄託番号 IFO 16211 として寄託されている。

後述の参考例9で得られた形質転換体 *Escherichia coli* JM109/pbRF2 は、1999年8月2日から通商産業省工業技術院生命工学工業技術研究所（NIBH）に寄託番号 FERM BP-6811 として、財団法人発酵研究所（IFO）に1999年6月18日から寄託番号 IFO 16288 として寄託されている。

25 後述の参考例8で得られた形質転換体 *Escherichia coli* JM109/phRF2 は、1999年8月2日から通商産業省工業技術院生命工学工業技術研究所（NIBH）

H) に寄託番号 FERM BP-6812 として、財団法人発酵研究所 (IFO) に 1999 年 6 月 18 日から寄託番号 IFO 16289 として寄託されている。

後述の参考例 6 で得られた形質転換体 *Escherichia coli* JM109/pmLP4 は、 1
5 1999 年 8 月 2 日から通商産業省工業技術院生命工学工業技術研究所 (NIBH) に寄託番号 FERM BP-6813 として、財団法人発酵研究所 (IFO) に 1999 年 6 月 18 日から寄託番号 IFO 16290 として寄託されている。

後述の参考例 5 で得られた形質転換体 *Escherichia coli* JM109/prLPL6 は、
10 1999 年 8 月 2 日から通商産業省工業技術院生命工学工業技術研究所 (NIBH) に寄託番号 FERM BP-6814 として、財団法人発酵研究所 (IFO) に 1999 年 6 月 18 日から寄託番号 IFO 16291 として寄託されている。

後述の参考例 11 で得られた形質転換体 *Escherichia coli* DH5 α /
15 pCR2.1-hOT022T は、 1999 年 11 月 8 日から通商産業省工業技術院生命工学
工業技術研究所 (NIBH) に寄託番号 FERM BP-6930 として、財団
法人発酵研究所 (IFO) に 1999 年 10 月 27 日から寄託番号 IFO 163
30 として寄託されている。

後述の参考例 11 で得られた形質転換体 *Escherichia coli* DH5 α /
20 pCR2.1-hOT022G は、 1999 年 11 月 8 日から通商産業省工業技術院生命工学
工業技術研究所 (NIBH) に寄託番号 FERM BP-6931 として、財団
法人発酵研究所 (IFO) に 1999 年 10 月 27 日から寄託番号 IFO 163
31 として寄託されている。

後述の実施例 5 で得られた形質転換体 *Escherichia coli*
25 MM294(DE3)/pTFCRFRP-1 は、 2000 年 9 月 28 日から通産省工業技術院生命工
学工業技術研究所 (NIBH) に受託番号 FERM BP-7313 として、財団
法人発酵研究所 (IFO) に 2000 年 9 月 19 日から寄託番号 IFO 164

76として寄託されている。

後述の参考例12で得られた用いて抗ラット型RFRP-1モノクローナル抗体、IF3は、2001年2月21日から経済産業省産業技術総合研究所生命工学工業技術研究所（NIBH）に受託番号FERM BP-7463として、財団法人発5酵研究所（IFO）に2001年1月16日から寄託番号IFO 50527として寄託されている。

実施例

以下に、参考例および実施例を挙げて本発明をさらに具体的に説明するが、本10発明はそれに限定されるものではない。なお、大腸菌を用いての遺伝子操作法は、モレキュラー・クローニング（Molecular cloning）に記載されている方法に従5った。

参考例1 ヒト胎児脳poly(A)⁺RNA画分からのcDNAの合成とRT-PCR15法による生理活性ペプチドcDNAの増幅

クローンテック社より購入したヒト胎児脳poly(A)⁺RNA画分1μgにプライマーとしてOligo d Tプライマー（Gibco BRL社）を加え、モロニイマウス白血病ウイルスの逆転写酵素（Gibco BRL社）により、添付バッファーを用いてcDNAを合成した。反応後の産物はフェノール：クロロホルム（1：1）で抽出し、20エタノール沈殿を行った後、30μlのTEに溶解した。調製したcDNA 1μlを鋳型として、次の2つのプライマー（F5およびF6）を用いて、PCRによる増幅を行った。

F5：5'-GGGCTGCACATAGAGACTTAATTTAG-3' （配列番号：3）

F6：5'-CTAGACCACCTCTATATACTGCCCAT-3' （配列番号：4）

25 反応液の組成は、合成DNAプライマー（F5およびF6）各20pM、0.25mM dNTPs、Ex Taq DNA polymerase 0.5μlおよび酵素に付属のバッファー5μlで、総反応溶液量は50μlとした。増幅のための

サイクルはサーマルサイクラー（パーキン・エルマー）を用い98°C・10秒、63°C・20秒、72°C・40秒のサイクルを40回繰り返した。

さらにそのPCR産物の1μlを鑄型として次の2つのプライマー（F1およびR5）を用いて、nested PCRによる増幅を行った。

5 F1 : 5'-GCACATAGAGACTTAATTTAGATTAGAC-3' (配列番号: 5)
R5 : 5'-CATGCACTTGAUTGGTTCCAGGTAT-3' (配列番号: 6)

反応液の組成は、合成DNAプライマー（F1およびR5）各20pM、0.25mM dNTPs、Ex Taq DNA polymerase 0.5μlおよび酵素に付属のバッファー5μlで、総反応溶液量は50μlとした。増幅のためのサイクルはサーマルサイクラー（パーキン・エルマー社）を用い98°C・10秒、60°C・20秒、72°C・40秒のサイクルを40回繰り返した。増幅産物の確認は1.2%アガロース電気泳動およびエチジウムプロミド染色によって行った。

参考例2 PCR産物のプラスミドベクターへのサブクローニングおよび挿入
15 cDNA部分の塩基配列の解読による新規生理活性ペプチド候補クローンの選択

参考例1で行ったPCR後の反応産物は1.2%のアガロースゲルを用いて分離し、目的とする大きさのDNA断片の増幅を確認した後、QIAGEN PCR purification kit (QIAGEN) を用いてDNAを回収した。TAクローニングキット（インビトロゲン社）の処方に従い、回収したDNAをプラスミドベクター pCR™2.1へサブクローニングした。これを大腸菌JM109 competent cell (宝酒造) に導入して形質転換したのち、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリン、IPTGおよびX-galを含むLB寒天培地中で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌した爪楊枝を用いて分離し、形質転換体エシレリヒアコリ (Escherichia coli) JM109/pHRF1を得た。

個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晩培養し、自動プラスミド抽出装置（クラボウ）を用いてプラスミドDNAを調製した。調製したDNAの

一部を用いてE c o R I による切断を行い、挿入されているc DNA断片の大きさを確認した。残りのDNAの一部をさらにRNase処理、フェノール・クロロホルム抽出し、エタノール沈殿によって濃縮した。塩基配列の決定のための反応はDyeDeoxy Terminator Cycle Sequencing Kit (ABI社) を用いて行い、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読した。得られた塩基配列の情報は、DNASIS (日立システムエンジニアリング社) を用いて行った。決定した塩基配列を図1に示した。

決定した塩基配列を図1をもとにホモロジー検索と配列の解析を行った結果、形質転換体E. coli JM109/phRF1の保有するプラスミドに挿入されたc DNA断片は、新規生理活性ペプチドをコードすることが分かった。

参考例3 ヒト胎児脳cDNAからの生理活性ペプチドcDNAのスプライシングバリアントの取得

参考例1で作製したヒト胎児脳cDNA 1 mlを鋳型として、次の二つのプライマー (F5、hR1) を用いてPCRによる增幅を行った。

F5: 5'-GGGCTGCACATAGAGACTTAATTTAG-3' (配列番号: 3)

hR1: 5'-CAGCTTAGGGACAGGCTCCAGGTTTC-3' (配列番号: 7)

反応液の組成は合成プライマー (F5およびhR1) 各20 pM、0.25 mM dNTPs、Ex Taq DNA polymerase 0.5 mlおよび酵素に付属のバッファーで総反応液量は50 mlとした。增幅のためのサイクルはサーマルサイクラー (パーキンエルマー) を用い、98°C・10秒、65°C・20秒、72°C・20秒のサイクルを40回くりかえした。増幅産物の確認は1.2%アガロース電気泳動およびエチジウムプロミド染色によって行った。PCR産物の増幅を確認した後、反応産物をQIA quick PCR purification Kit (Qiagen) を用いて精製し、配列決定を行った。塩基配列決定のための反応はBigDye Deoxy Terminator Cycle Sequence Kit (ABI) を用いて行い、蛍光式自動Sequencer (ABI377) を用いて解読した。得られた塩基配列の情報解析はDNASIS (日立システムエンジニアリング) を用いて行った。その結果、参考例2で得ら

れたcDNAと3'末端側が異なるcDNAが得られた。したがって本参考例で得られたcDNAは、参考例2で得られたcDNAのスプライシングバリエントである事が分かった。決定した塩基配列（配列番号：9）と予測されるアミノ酸の配列（配列番号：8）を図3に示す。

5

参考例4 ウシ視床下部poly(A)⁺RNAからの生理活性ペプチドcDNAの取得

ウシ視床下部poly(A)⁺RNAからのウシ型生理活性ペプチドcDNAの取得はMarathon cDNA Amplification Kit (Clontech) を用いて行った。Kitに添付のマニュアルにしたがって作製した牛視床下部cDNAを錆型として、次の4つのプライマー（bF6、bF7、bR6、bR7）を合成し、Kit添付のAP1、AP2の二種類のプライマーと組み合わせてPCRによる増幅を行った。

bF6: 5'-GCCTAGAGGAGATCTAGGCTGGGAGGA-3' (配列番号：10)
bF7: 5'-GGGAGGAACATGGAAGAAGAAAGGAGC-3' (配列番号：11)
bR6: 5'-GATGGTGAATGCATGGACTGCTGGAGC-3' (配列番号：12)
15 bR7: 5'-TTCCTCCCAAATCTCAGTGGCAGGTTG-3' (配列番号：13)

5'側（N未領域）の増幅のために、まず一回目のPCR反応を合成プライマー（bR6とAP1）を用いて行った。各プライマー 20pMと0.25mM dNTPs、Klen Taq DNA polymerase 0.5mlおよび酵素に付属のバッファーで総反応液量は25mlとした。増幅のためのサイクルはサーマルサイクラー（パーキンエルマー）を用い、98°C 10秒、72°C 2分のサイクルを5回、続いて98°C・10秒、70°C・2分のサイクルを5回、
20 98°C・10秒、68°C・2分30秒のサイクルを25回くりかえした。次にその一回目のPCR反応液を10倍に希釈し、その1mlを錆型にして（bR7とAP2）プライマーにて二回目のPCRを行った。各プライマー 20pMと0.25mM dNTPs、Klen Taq DNA polymerase 0.5mlおよび酵素に付属のバッファーで総反応液量は25mlとした。増幅のためのサイクルはサーマルサイクラー（パーキンエルマー）を用い、98°C・10秒、72°C・2分のサイクルを5回、続いて98°C・10秒、70°C・2分のサイクルを5回、98°C・10秒、68°C・2分30秒のサイクルを35回くりかえした。

3'側 (C末端領域) の増幅のために、まず一回目のPCR反応を合成プライマー (bF6 とAP1) を用いて行った。各プライマー 20pMと0.25mM dNTPs, Klen Taq polymerase 0.5ml および酵素に付属のバッファーで総反応液量は25mlとした。増幅のためのサイクルはサーマルサイクラー (パーキンエルマー) を用い、98°C・10秒、72°C・5分のサイクルを5回、続いて98°C・10秒、70°C・2分のサイクルを5回、98°C・10秒、68°C・2分30秒のサイクルを25回くりかえした。次にその一回目のPCR反応液を10倍に希釈し、その1mlを鋳型にして (bF7とAP2) プライマーにて二回目のPCRを行った。各プライマー 20pMと0.25mM dNTPs, Klen Taq DNA polymerase 0.5ml および酵素に付属のバッファーで総反応液量は25mlとした。増幅のためのサイクルはサーマルサイクラー (パーキンエルマー) を用い、98°C・10秒、72°C・2分のサイクルを5回、続いて98°C・10秒、70°C・2分のサイクルを5回、98°C・10秒、68°C・2分30秒のサイクルを35回くりかえした。5'側、3'側それぞれの増幅産物の確認は1.2%アガロース電気泳動およびエチジウムプロミド染色によって行った。PCR産物の増幅を確認した後、反応産物をQIA quick PCR purification Kit (Quiagen) を用いて精製し、配列決定を行った。塩基配列決定のための反応は Big Dye Deoxy Terminator Cycle Sequence Kit (ABI) を用いて行い、蛍光式自動Sequencer (ABI377) を用いて解読した。

得られた塩基配列の情報解析はDNASIS (日立システムエンジニアリング) を用いて行った。決定した塩基配列 (配列番号: 15) と予測されるアミノ酸の配列 (配列番号: 14) を図4に示す。

参考例5 ラット脳poly(A)⁺RNAからの生理活性ペプチドcDNAの取得

ラット脳poly(A)⁺RNAからのラット型生理活性ペプチドcDNAの取得はMarathon cDNA Amplification Kit (Clontech) を用いて行った。Kitに添付のマニュアルにしたがって作製したラット脳cDNAを鋳型として、次の2つのプライマー rLPR1: 5'-CCCTGGGGCTTCTTCTGTCTTCTATGT-3' (配列番号: 16) rLPF1: 5'-AGCGATTCAATTGACTTAGCA-3' (配列番号: 17)

を合成し、Kit添付のAP1、AP2の二種類のプライマーと組み合わせてPCRによる増幅を行った。

5'側（N末領域）の増幅のために、まず一回目のPCR反応をrLPR1とAP1のプライマーセットを用いて行った。各プライマー 200pMと各0.1mM dNTP、Klen Taq DNA polymerase 0.25mlおよび酵素に付属のバッファーで総反応液量は25mlとした。

5 増幅のためのサイクルはサーマルサイクラー（パーキンエルマー）を用い、98°C・10秒、72°C・2分のサイクルを5回、続いて98°C・10秒、70°C・2分のサイクルを5回、98°C・10秒、68°C・2分30秒のサイクルを25回くりかえした。次にその一回目のPCR反応液を鋳型にして一回目のプライマーセット、同様の反応液組成にて二回目のPCRを行った。増幅のためのサイクルは、98°C・10秒、72°C・2分のサイクルを5回、続いて98°C・10秒、70°C・2分のサイクルを5回、98°C・10秒、（68°C・2分30秒）のサイクルを38回くりかえした。

3'側（C末領域）の増幅のために、まず一回目のPCR反応をrLPF1とAP1のプライマーセットを用いて行った。反応液組成は5'側（N末領域）の増幅の場合と同様とした。増幅のためのサイクルは、98°C・10秒、72°C・2分のサイクルを5回、続いて98°C・10秒、70°C・2分のサイクルを5回、98°C・10秒、65°C・20秒、72°C・2分のサイクルを25回くりかえした。次にその一回目のPCR反応液を鋳型にしてrLPF1とAP2プライマーにて二回目のPCRを行った。反応液組成は一回目のPCRと同様とした。増幅のためのサイクルはサーマルサイクラー（パーキンエルマー）を用い、98°C・10秒、72°C・2分のサイクルを5回、続いて98°C・10秒、70°C・2分のサイクルを5回、98°C・10秒、65°C・20秒、72°C・2分のサイクルを38回くりかえした。5'側、3'側それぞれの増幅産物の確認は1.2%アガロース電気泳動およびエチジウムプロミド染色によって行った。PCR産物バンドをQIA quick Gel Extraction Kit (Qiagen) を用いて精製し、配列決定を行った。塩基配列決定は参考例3と同様の方法で行った。決定した塩基配列（配列番号：19）と予測されるアミノ酸の配列（配列番号：18）を図5に示す。さらにこの配列をもとに、開始コドンと終止コドンの周辺に2本のプライマー

ratF2 : 5'-AATGGAAATTATTCATCAAAGCGATTCAT-3' (配列番号: 48)

ratR : 5'-CACCTATACTGACAGGAATGATGGCTCTCC-3' (配列番号: 49)

を合成した。ラット視床下部poly(A)⁺RNAよりAMV reverse transferase(宝酒造)とrandom 9 mer(宝酒造)を用いて合成したcDNAを鑄型として98°C・10秒、6

8°C・40秒のサイクルを33回くりかえすPCR反応を行った。さらにこの反応液を鑄型として98°C・10秒、68°C・1分のサイクルを38回くりかえすPCR反応を行い、約690 bpのPCR産物を得た。これをTA cloning Kit (Invitrogen) のマニュアルにしたがってクローニングベクターpCR2.1 TOP10へ導入、大腸菌JM109に導入して形質転換体 E. coli JM109/prLPL6を得た。参考例3と同様の方法で塩基配列を決定し(配列番号: 51)、アミノ酸配列(配列番号: 50)を予測した。

参考例6 マウス脳poly(A)⁺RNAからのMarathon PCR法によるマウス型生理活性ペプチドcDNAの取得と配列確認

マウス脳poly(A)⁺RNAからマウス型生理活性ペプチドcDNAを取得するため、まずマウス脳poly(A)⁺RNA 1 μgをoligo d(T) primer 2.5 pmol(宝酒造)、0.5 mM dNTPs, 10 mM DTT存在下で、SuperScript II RNase H- 逆転写酵素(GIBCO BRL)により、42°C、1時間の反応でcDNAを合成した。これを鑄型として、プライマー

FF2 : 5'-GACTTAATTTAGATTAGACAAAATGGAA-3' (配列番号: 26)

rR4 : 5'-TTCTCCCAACCTTGGGGCAGGTT-3' (配列番号: 27)

および、KlenTaq DNA polymerase (Clontech)を用いて、98°C 10秒、56°C 20秒、72°C 25秒のサイクルを39回くりかえすPCR反応を行った。さらに同じプライマーセットを用いて98°C 10秒、60°C 20秒、72°C 25秒のサイクルを25回くりかえすPCR反応を行い、増副産物を2%アガロース電気泳動およびエチジ

ウムプロミド染色によって検出して、そのバンドをQIA quick Gel Extraction Kit (Quiagen)を用いて精製、参考例3と同様の方法で塩基配列を決定した。得られたマウス型生理活性ペプチドcDNA断片の5'および3'側の配列を取得するため、

参考例5と同様に、Marathon cDNA Amplification Kit (Clontech) を用いてマウス脳poly(A)⁺RNA 1 μ g からcDNAを合成し、鑄型とした。次の3つのプライマー

mF1 : 5'-ACAGCAAAGAAGGTGACGGAAAATCTC-3' (配列番号: 28)

5 mF3 : 5'-ATAGATGAGAAAAGAAGCCCCGAGCAC-3' (配列番号: 29)

mR1 : 5'-GTGCTGCGGGGCTTCTTCTCATCTAT-3' (配列番号: 30)

を合成し、kit付属のAP1プライマーと組み合わせてPCRを行った。

5'側 (N末端領域) の増幅のために、まず一回目のPCR反応をmR1とAP1のプライマーセットを用いて行った。3'側 (C末端領域) の増幅のためには、一回目のPCR反応をmF1とAP1のプライマーセットで行った。各プライマー 200pMと各0.1mM dNTP、Klen Taq polymerase 0.25mlおよび酵素に付属のバッファーで総反応液量は25mlとした。増幅のためのサイクルは98°C 10秒、72°C 2分のサイクルを5回、続いて98°C 10秒、70°C 2分のサイクルを5回、98°C 10秒、68°C 2分30秒のサイクルを25回くりかえした。次にその一回目のPCR反応液を鑄型にして二回目のPCRを行った。5'側の増幅は一回目と同様のプライマーセット、3'側の増幅はmF3とAP1プライマーセットを用い、一回目のPCRと同様の反応液組成で反応液を調製した。PCR反応は98°C 10秒、72°C 2分のサイクルを5回、続いて98°C 10秒、70°C 2分のサイクルを5回、98°C 10秒、68°C 2分30秒のサイクルを38回くりかえした。

5'側、3'側それぞれの増幅産物の確認は1.2%アガロース電気泳動およびエチジウムプロミド染色によって行った。PCR産物のバンドをQIA quick Gel Extraction Kit (Quiagen) を用いて精製し、配列決定を行った。塩基配列決定は参考例3と同様の方法で行った。

さらに得られた配列をもとに2つのプライマー

moF : 5'-TTTAGACTTAGACCAAATGGA-3' (配列番号: 31)

25 moR : 5'-GCTCCGTAGCCTCTGAAGTC-3' (配列番号: 32)

を合成し、先に示した、マウス脳poly(A)⁺RNAよりSuperScript II RNase H- 逆転写酵素で合成したcDNAを鑄型としてPCRを行い、マウス型生理活性ペプチド全長

cDNAを含む断片を増幅した。反応はKlenTaq DNA polymerase (Clontech) を用いて、98°C 10秒、56°C 20秒、72°C 15秒のサイクルを35回くりかえした。約600 bpの増幅産物を2%アガロース電気泳動およびエチジウムプロミド染色によって検出し、そのバンドをQIA quick Gel Extraction Kit (Qiagen) を用いて精製、クローニングベクター pCR2.1-TOPO (TOPO TA cloning kit, Invitrogen) へサブクローニング、大腸菌JM109へ導入し、形質転換体E. coli JM109/ pmLP4を得た。参考例3と同様の方法で塩基配列を解析し、決定した塩基配列（配列番号：34）と予測されるアミノ酸配列（配列番号：33）を図7に示す。

10 参考例7

（1）ラット脳幹周辺部のG蛋白質共役型レセプター蛋白質をコードするcDNAのクローニングと塩基配列の決定

ラット脳幹周辺部cDNAを錆型とし、2個のプライマー、プライマー1（配列番号：35）およびプライマー2（配列番号：36）を用いてPCR反応を行った。該反応における反応液の組成は上記cDNAの10分の1量を錆型として使用し、Advantage cDNA Polymerase Mix (CLONTECH社) 1/50量、プライマー1（配列番号：35）およびプライマー2（配列番号：36）を各0.2 μM、dNTPs 200 μM、および酵素に添付のバッファーを加え、50 μlの液量とした。PCR反応は、① 94°C・2分の後、② 94°C・30秒、72°C・2分のサイクルを3回、③ 94°C・30秒、68°C・2分のサイクルを3回、④ 94°C・30秒、64°C・30秒、68°C 2分のサイクルを30回繰り返し、⑤ 最後に68°C・8分の伸長反応を行った。該PCR反応後の反応産物をTAクローニングキット(Invitrogen社)の処方に従いプラスミドベクターpCR2.1(Invitrogen社)へサブクローニングした。これを大腸菌DH5αに導入し、cDNAをもつクローンをアンピシリンを含むLB寒天培地中で選択した後、個々のクローンの配列を解析した結果、新規G蛋白質共役型レセプター蛋白質をコードするcDNA

A配列（配列番号：38）を得た。このcDNAより導き出されるアミノ酸配列（配列番号：37）を含有する新規G蛋白質共役型レセプター蛋白質をrOT7T022Lと命名した。

本発明のラット脳幹周辺部由来のG蛋白質共役型レセプター蛋白質rOT7T022LをコードするcDNA（配列番号：38）がサブクローニングされたプラスミドpAK-rOT7T022Lを、自体公知の方法に従い大腸菌（Escherichia coli）DH10Bに導入して、形質転換体：大腸菌（Escherichia coli）DH10B/pAK-rOT7T022Lを得た。

10 (2) G蛋白質共役型レセプター蛋白質rOT7T022L発現CHO細胞の樹立

直径10cmの組織培養用シャーレに 1×10^6 個のCHOdhfr⁻細胞を播種し、24時間培養した。（1）で得られたrOT7T022L発現ベクターpAK-rOT7T022Lを $20 \mu\text{g}$ 用い、リポソーム法による遺伝子導入キット（ジントランスファー、ニッポンジーン社）を用いて、DNA・リポソームの複合体を形成させた。培地を新鮮なものに交換し、これにDNA・リポソームの複合体を添加して一晩インキュベートした。培地を新鮮なものと交換してさらに1日間培養した後、形質転換体選択用の培地に交換して2日間培養した。さらに、トリプシン-EDTA処理によってシャーレ内の細胞を回収し、細胞密度が希薄な状態にて再培養を行うことによって、形質転換体の割合の増加を図った。これにより、rOT7T022Lを安定に高発現する細胞株CHO-rOT7T022Lのクローンを得た。

25 (3) Met-Pro-His-Ser-Phe-Ala-Asn-Leu-Pro-Leu-Arg-Phe-NH₂（配列番号：39）の合成

市販p-メチルBHA樹脂（アプライドバイオシステムズ、現パーキンエルマー社製）0.5mmole分をペプチド合成機（アプライドバイオシステムズ社製43

0 A) の反応器に入れ、DCMで膨潤させた後、最初のアミノ酸Boc-PheをHOBT/DCC法で活性化し p-メチルBHA樹脂に導入した。樹脂を50%TFA/

DCMで処理し、Boc基を除去してアミノ基を遊離させ、DIEAで中和した。このアミノ基に次のアミノ酸Boc-Arg(Tos)をHOBT/DCC法で縮合した。未反応アミ

5 ノ基の有無をニンヒドリンテストで調べ反応完了を確認後同様に、Boc-Leu、
Boc-Pro、Boc-Leu、Boc-Asn、Boc-Ala、Boc-Phe、Boc-Ser(Bzl)、Boc-His(Bom)、
Boc-Pro、Boc-Metを順次縮合した。

全配列アミノ酸が導入され樹脂を50%TFA/DCMで処理し樹脂上のBoc基
を除去後、樹脂を乾燥し

10 Met-Pro-His(Bom)-Ser(Bzl)-Phe-Ala-Asn-Leu-Pro-Leu-Arg(Tos)-Phe-pMBHA-re
sin 0.73gを得た。

この樹脂0.25gをp-クレゾール5.1g、弗化水素15mlと共にテフロン製弗化水
素反応装置中で0℃・60分間反応させた。弗化水素を減圧留去し、残留物に
ジエチルエーテル100mlを加え攪拌後、グラスフィルター上に濾取、乾燥した。

15 これを50%酢酸水溶液50ml中に懸濁、攪拌し、ペプチドを抽出した後樹脂と分離
し減圧下に約5mlまでに濃縮した後、セファデックスG-25 (2 x 90cm) のカ
ラムに付し50%酢酸水で展開し主要画分を集め凍結乾燥した。次にこの粗精製ペ
プチドを5%チオグリコール酸/50%酢酸1.5mlに溶解し、50℃ 12時間保持しMet
酸化体ペプチドを還元した後、LiChroprep (商品名) RP-18 (M E R C K社製)
20 を充填した逆相系カラムにつけ0.1% TFA水と0.1% TFA含有33%アセト
ニトリル水溶液を用いたグラジエント溶出での精製をくり返し、アセトニトリル
濃度27%前後に溶出される部分を集め凍結乾燥し、白色粉末26mgを得た。

質量分析による $(M+H)^+$ 1428.7 (理論値 1428.8)

HPLC溶出時間 18.0分

25 カラム条件

カラム: Wakosil (商品名) 5C18 (4.6 x 100mm)

溶離液: A液 (0.1% TFA含有5%アセトニトリル水)

B液 (0.1% TFA含有5.5%アセトニトリル水) を用い

A液からB液へ直線型濃度勾配溶出 (25分)

流速: 1.0 ml/分

5 (4) Val-Pro-Asn-Leu-Pro-Gln-Arg-Phe-NH₂ (配列番号: 40) の合成

上述の参考例7(3)と同様にして、Boc-Phe, Boc-Arg(Tos), Boc-Gln, Boc-Pro, Boc-Leu, Boc-Asn, Boc-Pro, Boc-Val を順次縮合し、Boc-Val-Pro-Asn-Leu-Pro-Gln-Arg(Tos)-Phe-pMBHA-resin 0.43gを得た。この樹脂0.22gを同様に弗化水素処理、カラムクロマト精製し白色粉末の目的物46mgを得た。

質量分析による (M+H)⁺ 969.5 (理論値 969.6)

HPLC溶出時間 11.8分

カラム条件

カラム: Wakosil (商品名) 5C18 (4.6 x 100 mm)

15 溶離液: A液 (0.1% TFA含有5%アセトニトリル水)

B液 (0.1% TFA含有5.5%アセトニトリル水) を用い

A液からB液へ直線型濃度勾配溶出 (25分)

流速: 1.0 ml/分

20 (5) Ser-Ala-Gly-Ala-Thr-Ala-Asn-Leu-Pro-Arg-Ser-NH₂ (配列番号: 41) の合成

上述の参考例7(3)と同様にして、Boc-Ser(Bzl), Boc-Arg(Tos), Boc-Leu, Boc-Pro, Boc-Leu, Boc-Asn, Boc-Ala, Boc-Thr(Bzl), Boc-Ala, Boc-Gly, Boc-Ala, Boc-Ser(Bzl) を順次縮合し、Boc-Ser(Bzl)-Ala-Gly-Ala-Thr(Bzl)-Ala-Asn-Leu-Pro-Leu-Arg(Tos)-Ser(Bzl)-pMBHA-resin 0.62gを得た。この樹脂0.23gを同様に弗化水素処理、カラムクロマト精製し白色粉末の目的物71mgを得た。

質量分析による $(M+H)^+$ 1156.4 (理論値 1156.6)

HPLC溶出時間 11.8分

カラム条件

カラム: Wakosil (商品名) 5C18 (4.6 x 100 mm)

5 溶離液: A液 (0.1% TFA含有5%アセトニトリル水)

B液 (0.1% TFA含有55%アセトニトリル水) を用い

A液からB液へ直線型濃度勾配溶出 (25分)

流速: 1.0 ml/分

10 (6) rOT7T022L (配列番号: 37) とペプチドM P H S F A N L P L R F a m i d e (配列番号: 39) およびペプチドV P N L P Q R F a m i d e (配列番号: 40) のサイトセンサーによる反応実験

上述の参考例7(2)で得られたrOT7T022L受容体発現CHO細胞を、 2.7×10^5 cells/capsuleの密度でサイトセンサー用カプセルに播種し、一晩培養した後

15 にサイトセンサーのワークステーションに装着した。サイトセンサーの流路にセットしたアッセイ用の培地 (0.1%のウシ血清アルブミンを含有するlow buffered RPMI1640 medium) を、ポンプON (80秒間) ポンプOFF (40秒間) のサイクルで細胞に供給し、各サイクルごとにポンプ停止8秒後から30秒間の細胞外pHの変化率をacidification rateとして算出した。acidification rateの経時変化

20 をモニターし、安定した値を示すようになったところで流路の切り換えによって細胞に各ペプチドを7分2秒間暴露した。各ウェルのAcidification Rateの値をペプチドを暴露する直前の3サイクルの値を100%として標準化し、細胞の反応の比較を行なったところ、rOT7T022L発現CHO細胞はペプチドM P H S F A N L P L R F a m i d e (配列番号: 39) およびペプチドV P N L P Q R F a m

25 i d e (配列番号: 40) に対して強く用量依存的な反応を示す事が明らかになった(図8)。

参考例 8 ヒト新規生理活性ペプチド候補スプライシングバリエントcDNAを保持する形質転換体の作成

上記参考例3で行ったPCR後の反応産物は1. 2%のアガロースゲルを用いて分離し、目的とする大きさのDNA断片の増幅を確認した後、Quigen PCR purification kit (Quiagen) を用いてDNAを回収した。TAクローニングキット（インビトロゲン社）の処方に従い、回収したDNAをプラスミドベクター pCR™2.1へサブクローニングした。これを大腸菌JM109 competent cell (宝酒造) に導入して形質転換したのち、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリン、IPTGおよびX-galを含むLB寒天培地中で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌した爪楊枝を用いて分離した。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晩培養し、自動プラスミド抽出装置（クラボウ）を用いてプラスミドDNAを調製した。調製したDNAの一部を用いてEcoRIによる切断を行い、挿入されているcDNA断片の大きさを確認した。残りのDNAの一部をさらにRNase処理、フェノール・クロロホルム抽出し、エタノール沈殿によって濃縮した。塩基配列の決定のための反応はDyeDeoxy Terminator Cycle Sequencing Kit (ABI社) を用いて行い、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、形質転換体エシエリヒアコリ (Escherichia coli) JM109 / pHRF2を得た。

20

参考例 9 ウシ新規生理活性ペプチドcDNAを保持する形質転換体の作成

参考例4で作製したウシ視床下部cDNA 1 mlを錫型として、次の二つのプライマー (bFF、bFR) を用いてPCRによる増幅を行った。

bFF: 5'-TTCTAGATTTGGACAAAATGGAAATT-3' (配列番号: 52)

25 bFR: 5'-CGTCTTCTAGGGACAGGCTCCAGATTTC-3' (配列番号: 53)

反応液の組成は合成プライマー (bFFおよびbFR) 各20 pM、0.25 mM dNTPs、Ex Taq DNA polymerase 0.5 mlおよび酵素に付属のバッファーで総反応液量は50 ml

とした。増幅のためのサイクルはサーマルサイクラー（パーキンエルマー）を用い、98°C・10秒、65°C・20秒、72°C・20秒のサイクルを40回くりかえした。増幅産物の確認は1.2%アガロース電気泳動およびエチジウムプロミド染色によって行った。参考例3で行ったPCR後の反応産物は1. 2%のアガロースゲルを用いて分離し、目的とする大きさのDNA断片の増幅を確認した後、Quigen PCR purification kit (Quiagen) を用いてDNAを回収した。TAクローニングキット（インビトロゲン社）の処方に従い、回収したDNAをプラスミドベクター pCR™2.1へサブクローニングした。これを大腸菌 JM109 competent cell (宝酒造) に導入して形質転換したのち、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリン、IPTGおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌した爪楊枝を用いて分離した。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晩培養し、自動プラスミド抽出装置（クラボウ）を用いてプラスミドDNAを調製した。調製したDNAを用いてEcoRIによる切断を行い、挿入されているcDNA断片の大きさを確認した。さらに調製したDNAをRNase処理、フェノール・クロロホルム抽出し、エタノール沈殿によって濃縮した。塩基配列の決定のための反応はDyeDeoxy Terminator Cycle Sequencing Kit (ABI社) を用いて行い、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、形質転換体エシエリヒア コリ (Escherichia coli) JM109/pbRF2を得た。

20

参考例10 ペプチドMPHSFANLPLRFamide (配列番号: 39) およびペプチドVPNL PQRFamide (配列番号: 40) のrOT7T022L (配列番号: 37) 発現CHO細胞に対するcAMP産生抑制活性

参考例7 (3) および (4) で合成したペプチドMPHSFANLPLRFamide (配列番号: 39) 、VPNL PQRFamide (配列番号: 40) がrOT7T022L受容体に対して特異的に反応することが参考例7 (6) のサイトセンサーによる実験で確認できた。次に上述したペプチドのrOT7T022L発現CHO細胞に対するcAMP産生抑制活性の測

定を行った。

参考例 7 (2) で得られたr0T7T022L発現CHO細胞を 1.0×10^5 cells/wellの濃度で24wellプレートに巻き、37度で2日間培養した。ハンクスバッファー (HBSS) に0.05% BSAと0.2mM IBMXを加えたバッファーで細胞を洗浄したのち、同じバッ
5 ファーで30分間37度で放置した。30分後細胞を上記のバッファーに Forskolin 10^{-6} Mを加えたアッセイバッファーと同時にさまざまな濃度の上述したペプチドを添加し、37度30分間インキュベーションをした。
30分後各wellの細胞内のcAMP濃度をcAMP EIA Kit (アマシャム社) の方法にした
がって測定した。その結果、図9に示すようにペプチドMPHSFANLPLRFamide (配
10 列番号：39) 、VPNLPQRFamide (配列番号：40) はr0T7T022L受容体発現CHO
細胞に対してcAMP産成抑制効果を示し、その IC_{50} 値はそれぞれ0.5nM、0.7nMと非
常に低濃度で強い効果を示した。

参考例 11 ヒト視床下部のG蛋白質共役型レセプター蛋白質をコードする
15 cDNAのクローニングと塩基配列の決定

ヒト視床下部cDNA (CLONTECH社) を鋳型とし、2個のプライマー、
プライマー1：5'-GTCGACATGG AGGGGGAGCC CTCCCAGCCT C-3' (配列番号：57)
およびプライマー2：5'-ACTAGTTCA G ATATCCCAGG CTGGAATGG -3' (配列番号：58)
を用いてPCR反応を行った。該反応における反応液の組成は上記cDNAを10分の
20 1量を鋳型として使用し、Advantage-HF Polymerase Mix (CLONTECH社) 1/50
量、プライマー1 (配列番号：57) およびプライマー2 (配列番号：58) を
各 $0.2 \mu M$ 、dNTPs $200 \mu M$ 、Dimethyl Sulfoxide 4%，および酵素に添付のバッフ
ファーを加え、 $25 \mu l$ の液量とした。PCR反応は、①94°C・2分の後、②94°C・20
秒、72°C・1分30秒のサイクルを3回、③94°C・20秒、67°C・1分30秒のサイクル
25 を3回、④94°C・20秒、62°C・20秒、72°C・68°C・1分30秒のサイクルを38回繰り
返し、最後に68°C・7分の伸長反応を行った。該PCR反応後の反応産物をTA
クローニングキット (Invitrogen社) の処方に従いプラスミドベクターpCR2.1

(Invitrogen社) ヘサブクローニングした。これを大腸菌DH5 α に導入し、cDNAを持つクローニングをアンピシリンを含むLB寒天培地中で選択した。個々のクローニングを解析した結果、新規G蛋白質共役型レセプター蛋白質をコードするcDNA配列（配列番号：55および56）を得た。これら2種類の配列は、第597残基で
5 一塩基異なるが、導き出されるアミノ酸配列は同一（配列番号：57）であり、このアミノ酸配列を含有する新規G蛋白質共役型レセプター蛋白質をhOT022と命名した。また2種類の形質転換体を大腸菌（Escherichia coli）DH5 α / pCR2.1-hOT022T（配列番号：55で表されるcDNAを含有する）、ならびに（Escherichia coli）DH5 α / pCR2.1-hOT022G（配列番号：56で表されるcDNAを含有する）と命名した。
10

参考例12 抗ラット型RFRP-1モノクローナル抗体の作製

ラット型RFRP-1のC末端12アミノ酸（C末端のカルボキシル基がアミド化されたもの：配列番号50で表されるアミノ酸配列の第83番目（Val）～第94番目（Phe）のアミノ酸配列）のN末端にCys一残基を付加したペプチド（C-VPHSAANLPLRF-NH₂）を抗原としたモノクローナル抗体を作製した。抗原ペプチド0.6mgをウシ血清アルブミン（BSA）にマレイイミドを用いてコンジュゲートした。このコンジュゲート100 μ gをマウスの皮下に三回注射することにより免疫した後、最終免疫としてコンジュゲート50 μ gを尾静脈に注射して免疫した。最終20免疫の四日後、マウスより脾臓細胞を採取し、マウスミエローマ細胞（P3-X63Ag8-U1：Matsumoto et al, BBRC (1999) vol. 257, 264-268）とポリエチレンリコールを用いて細胞融合した。細胞融合後、ハイブリドーマ細胞、1F3を選択し、INTREGRA CL-1000を用いた大量培養にて、1F3の培養上清を得た。この培養上清より、HiTrap rProtein A column (Pharmacia) を用いて抗ラット型RFRP-1
25 モノクローナル抗体を得た。Mouse mAb isotyping kit (Amersham) を用いて調べたところ、このモノクローナル抗体のサブタイプはIgG1 κ chainであった。

参考例13 競合的EIAの構築

まず、参考例12において抗原としたペプチドをマレイイミドを用いて西洋ワサビペルオキシターゼ(HRP)にコンジュゲートし、HRP-rat RFRP-1を作製した。このHRP-rat RFRP-1と参考例12で得られた抗ラット型RFRP-1モノクローナル抗体を用いて競合的EIAを構築した。

抗マウスIgGAM (Cappel) 1.5 μ g/wellでコートし、Block ACE (大日本製薬)でブロッキングした96穴プレート各穴にバッファー(2mM EDTA、0.4% BSA、0.1M NaCl、0.1% micro-O-protect)を含む生理的リン酸バッファー(PBS)で希釈した抗ラット型RFRP-1モノクローナル抗体50 μ lを加え、同じバッファーに溶解したサンプル50mlも加えた。4°Cにて16時間インキュベートした後、バッファーで希釈したHRP-rat RFRP-1 50 μ lを各穴に加えた。室温で2時間インキュベートした後、0.1% Tween20 (Sigma)を含むPBSでプレートを洗浄した後、各穴に結合したHRPの活性を TMB microwell peroxidase system (Kirkegaard & Perry Labs)を用いて呈色反応にて検出し450nmにおける吸光度を測定した。RFRP-1関連ペプチドをサンプルとして加えた時の吸光度の変化を図11に示す。

実施例1 リガンドポリペプチドが血漿中下垂体ホルモン量に及ぼす影響

配列番号：39で表わされるペプチドの第三脳室内投与が血漿中の下垂体ホルモン量に及ぼす影響を検討した。成熟Wistar系雄性ラット（手術時体重：約290～350g）をペントバルビタール50mg/kgの腹腔内投与にて麻酔し、ラット脳定位固定装置に固定した。切歎用バーはインター-オーラルラインから3.3mm低くした。頭蓋骨を露出し、ガイドカニューレを埋め込むために歯科用ドリルを用いて骨に穴を開けた。また、その周囲の一ヶ所にアンカーピスを埋めた。ステンレス製ガイドカニューレ、AG-12（内径0.4mm、外径0.5mm、エイコム社）を、その先端が第三脳室の上部に位置するように挿入した。定位座標は、PaxinosとWatson (1986) のアトラスに従い、AP：+7.2mm (インター-オーラルラインより)、L：0.0mm、H：+2.0mm (インター-オーラルラインより)

とした。ガイドカニューレは瞬間接着剤と歯科用セメントおよびアンカービスで頭蓋骨に固定した。ガイドカニューレにはステンレス製ダミーカニューレ、AD-12 (外径0.35mm、エイコム社) を挿入し、キャップナット (エイコム社) で固定した。術後、ラットを個別のケージで1週間以上飼育し、術後の回復を待

5 ってから、実験を行った。

実験を行う前日に上記手術を施したラットをペントバルビタール50mg/kgの腹腔内投与にて麻酔し、解剖用パッドの上に背位に固定した。右側の頸静脈にカテーテル (SP35, 夏目製作所) を挿入した。翌日、頸静脈カテーテルから400μlの血液を採取した。血液凝固を防止するため、注射筒には予め200単位/mlのヘパリンを含有する生理食塩水を20μl入れておいた。ラットの頭蓋骨に装着したキャップナットとダミーカニューレを取り外し、代わりにテフロンチューブ (長さ50cm、内径0.1mm、外径0.4mm、エイコム社) につなげたステンレス製マイクロインジェクションカニューレ、AMI13 (内径0.17mm、外径0.35mm、エイコム社) を挿入した。マイクロインジェクションカニューレの長さは、その先端1mmがガイドカニューレから露出するように調節しておいた。テフロンチューブの一方をマイクロシリングポンプにつなぎ、PBSまたは配列番号: 39で表わされるペプチドを溶解させたPBSを5μl/分の流速で計10μlを第三脳室に注入した。注入終了後1分間待ってからマイクロインジェクションカニューレを取り外し、再びダミーカニューレをキャップナットで固定した。

10 脳室内投与を開始する直前、および脳室内投与の開始時点から10、20、30、40、60分後に頸静脈に挿入したカニューレより400μlずつ採血した。採取した血液は微量高速冷却遠心機 (MR-150, トミー精工) を用いて遠心 (5,000rpm、10分間) し、上清 (血漿) を回収した。血漿中に含まれるプロラクチン量をラジオイムノアッセイを用いて測定した。

15 結果は、平均値±S.E.M. で表した。配列番号: 39で表わされるペプチドを溶解させたPBS投与群とPBSのみを投与した対照群との間に有意差があるか否かの検定にはStudent's t-testを用いた。判定は、両側検定で危険率

20

25

5 %以下を統計的に有意であるとした。図10に示すとく、血漿プロラクチン量は、10 nmolの配列番号：39で表わされるペプチドを第三脳室に投与後10分から増加傾向があり、20、30、40分において有意に増加した。また、投与60分後でも対照群との間に有意な差が認められた。また、血漿中G H、L H、
5 ACTH、TSH量は有意な変化を示さなかった。

実施例2 ウシ視床下部からの内因性RFRP-1の精製

参考例13で構築した競合的EIAでウシ視床下部からのペプチド粗画分にRFRP-1様免疫活性が見いだされた。このRFRP-1様免疫活性を指標に、ウシ視床下部より内因性のRFRP-1を精製した。
10

まず、凍結保存されたウシ視床下部2.0kgを超純水（ミリQ水）中で煮沸し、酢酸を1Mとなるように加え、ポリトロンでホモジナイズした。一晩攪拌した後、遠心にて上清を得た。上清にトリフルオロ酢酸(TFA)を0.05%となるように加え、C18カラム(Prep C18 125Å; Waters)にアプライした。カラムに結合したペプチドを0.5%TFAを含む10、30、50%アセトニトリルでステップワイズに溶出した。30%アセトニトリル画分を二倍量の20mM酢酸アンモニウム(pH4.7)で希釈し、イオン交換カラム HiPrep CM-Sepharose FF (Pharmacia)にアプライした。イオン交換カラムに結合したペプチドを10%アセトニトリルを含む20mM酢酸アンモニウム(pH4.7)中の0.1、0.2、0.5、1.0M NaClでステップワイズに溶出した。もっとも多くRFRP-1様免疫活性が含まれていた0.1M NaCl画分に3倍量の冷アセトンを加え、遠心にて沈殿を除き上清をエバポレートにて濃縮した。濃縮された上清に0.1%となるようTFAを加え、逆相HPLCカラム RESOURCE RPC (Pharmacia)にてさらなる分離を行った。RESOURCE RPCの分離は10-30%アセトニトリルの濃度勾配で行い、主たるRFRP-1様活性は、およそ22%アセトニトリルで溶出された。この活性画分を10%アセトニトリルを含む20mM酢酸アンモニウム(pH4.7)中の0.2-0.6M NaClの濃度勾配を用いた陽イオン交換カラム TSK gel CM-SW(トーソー)で分離したところ、主たるRFRP-1様活性は、およそ0.3M NaClで溶出された。RFRP-1
15
20
25

様免疫活性を含むCM-2SWカラムの画分に0.1%となるようTFAを加え、逆相カラム diphenyl 219TP52 (Vydac) でさらに分画した。21-25%アセトニトリルの濃度勾配で分離したところ、RFRP-1様免疫活性は23%アセトニトリルで溶出された。このRFRP-1様免疫活性を含む画分を22-23%アセトニトリルの濃度勾配を用いた逆相カラム μ RPC C2/C18 SC2.1/10で最終精製し、RFRP-1様免疫活性と一致する単一のピークを得た(図12)。

実施例3 最終精製標品のN末端アミノ酸配列分析およびマススペクトルによる分子量測定

10 実施例2で得られた最終精製標品のN末端アミノ酸をプロテインシーカンサー (model 491cLC; Applied Biosystems) で分析したところ、S-L-T-F-E-E-V-K-D-X-A-P-K-I-K-M-N-K-P-V- (Xは同定できなかったアミノ酸残基を示す) で示されるアミノ酸配列が得られた。また、ESI-MS (Thermoquest) を用いて、最終精製標品の分子量を測定したところ、

15 3997.0の値を得た。

これらの分析結果より、ウシ視床下部からの最終精製標品は配列番号：14で表されるアミノ酸配列の第58番目 (Ser) から第92番目 (Phe) の35アミノ酸からなるペプチドであることが判明した。

20 実施例4 配列番号：1で表されるアミノ酸配列の第56番目 (Ser) ～第92番目 (Phe) のアミノ酸配列を有するペプチドのC末端のカルボキシル基がアミド化されたペプチド(以下hRFRP-1(37)と称する場合がある)の構造遺伝子の調製配列番号：59～62に示す4種類のDNA断片 (#1：配列番号：15、#4：配列番号：18；キコーテック社製) (#2：配列番号：16、#3：配列番号：17；アマシャム・ファルマシア・バイオテク社製) を用いて、自体公知の方法により、hRFRP-1(37)の構造遺伝子を調製した。

a)DNAオリゴマーのリン酸化

5' 末端になるべき#1及び#4を除いた2種類のオリゴマー各1 μ gを100 μ Lのリン酸化反応液 [50mM Tris-HCl (pH7.6), 10mM MgCl₂, 1mM スペルミジン、10mM ジチオスレイトール、0.1mg/mLウシ血清アルブミン、1mM ATP、10ユニット T4ポリヌクレオチドキナーゼ (日本ジーン)] 中で37°C、1時間反応させ、5' 末端のリン酸化を行った。フェノール処理を行った後、水層を回収し2倍量のエタノールを加え、-70°Cに冷却した後、遠心でDNAを沈殿させた。

b) DNAフラグメントの連結

上記a)で得られたリン酸化DNAフラグメントと#1及び#4各1 μ gを合わせ10 mM Tris-HCl、2 mM EDTA (pH 8.0)に加え、120 μ Lとした。この混合液を80°Cで10分間保った後、室温まで徐冷しアニーリングを行った。TaKaRa DNA Ligation Kit ver.2 (宝酒造) を用いてライゲーション反応を行った。アニーリング液30 μ Lにキットに付属のII液30 μ Lを加え良く混合した後、キットに付属のI液60 μ Lを加え、37°C、1時間反応させ、ライゲーションを行った。フェノール処理を行った後、水層を回収し2倍量のエタノールを加え、-70°Cに冷却した後、遠心でDNAを沈殿させた。

c) 5' 末端のリン酸化

沈殿をTE緩衝液 (10mM Tris-HCl (pH8.0), 1mM EDTA) 10 μ Lに溶解し、100 μ Lのリン酸化反応液 [50mM Tris-HCl (pH7.6), 10mM MgCl₂, 1mM スペルミジン、10mM ジチオスレイトール、0.1mg/mLウシ血清アルブミン、1mM ATP、10ユニット T4ポリヌクレオチドキナーゼ (日本ジーン)] 中で37°C、1時間反応させ、5' 末端のリン酸化を行った。フェノール処理を行った後、水層を回収し2倍量のエタノールを加え、-70°Cに冷却した後、遠心でDNAを沈殿させ、20 μ LのTE緩衝液に溶解した。

25 実施例5 hRFRP-1(37)発現プラスミドの調製

発現用ベクターとしてはpTFC (特開2000-270871号公報に記載) をNde I およびAva I (宝酒造) で37°C 4時間消化した後、1%ア

ガロースゲル電気泳動により 4.4 kb の DNA 断片を QIAquick Gel Extraction Kit (キヤゲン社) を用いて抽出し、25 μl の TE 緩衝液に溶解した。この pTFC の Nde I、Ava I 断片と上記により調製した hRFRP-1 (37) の構造遺伝子を TaKaRa DNA ligation kit ver. 2 (宝酒造) を用いてライゲーション反応を行った。この反応液を 10 μl 用いて大腸菌 JM109 コンピテントセル (東洋紡) を形質転換し、10 μg/ml のテトラサイクリンを含む LB 寒天培地上に播き、37℃ で 1 晚培養し、生じたテトラサイクリン耐性コロニーを選んだ。この形質転換体を LB 培地で一晩培養し、QIAprep8 Miniprep Kit (キヤゲン社) を用いてプラスミド pTFCRFRP-1 を調製した。この hRFRP-1 (37) 構造遺伝子部分の塩基配列をアプライドバイオシステムズ社モデル 377 DNA シーケンサーを用いて確認した。プラスミド pTFCRFRP-1 で大腸菌 MM294 (DE3) を形質転換し、RFRP-1-CS23 融合タンパク質発現株大腸菌 (Escherichia coli) MM294 (DE3)/pTFCRFRP-1 を得た (図 13)。

実施例 6 実施例 5 で得られた形質転換体を、5.0 mg/L のテトラサイクリンを含む LB 培地 (1% ペプトン、0.5% 酵母エキス、0.5% 塩化ナトリウム) 1 L を用いて、2 リットル容フラスコ中で 37℃、8 時間振とう培養した。得られた培養液を 19 リットルの主発酵培地 (1.68% リン酸 1 水素ナトリウム、0.3% リン酸 2 水素カリウム、0.1% 塩化アンモニウム、0.05% 塩化ナトリウム、0.05% 硫酸マグネシウム、0.02% 消泡剤、0.00025% 硫酸第一鉄、0.00025% 塩酸チアミン、1.5% ブドウ糖、1.5% カザミノ酸) を仕込んだ 50 L 容発酵槽へ移植して、30℃ で通気搅拌培養を開始した。培養液の濁度が約 500 クレット単位になった時点で、イソプロピル-β-D-チオガラクトピラノシドの最終濃度が 1.2 mg/L になるように添加し、さらに 4 時間培養を行った。培養終了後、培養液を遠心分離し、約 500 g の湿菌体を取得し、-80℃ で凍結保存した。

実施例 7 hRFRP-1(37)の取得

実施例 6 で得た菌体 500 g に 6 M グアニジン塩酸塩、0. 2 M トリス／HCl (pH 8.0) 溶液 1000 ml を加え、約 4 時間攪拌した後、遠心分離 (10000 rpm、60 分) を行い、上澄液を 0. 6 M アルギニン、1 mM ジチオトレイトール、50 mM トリス／HCl (pH 8.0) 29 L で希釈した。一晩 10°C で静置した後、濃塩酸で pH 6.0 に調整し、50 mM リン酸緩衝液 (pH 6.0) で平衡化した AF-Heparin Toyopearl 650M カラム (11. 3 cm ID × 13 cmL、東ソー) に通液し、吸着、洗浄した後、50 mM リン酸緩衝液、2 M NaCl、pH 6.0 で溶出を行い、1000 ml の本発明のポリペプチド (hRFRP-1(37)－CS23 融合タンパク質) 画分を得た。

この溶出液をペリコンミニカセット (ミリポア社) で 0. 1 M 酢酸を加えながら濃縮を行い、hRFRP-1(37)－CS23 融合タンパク質の 0. 1 M 酢酸溶液を得た。この溶液に最終濃度 6 M となるように尿素を添加した後、1-シアノ-4-ジメチルアミノピリジニウム塩 (DMAP-CN) 445 mg を加えて、室温で 15 分間反応した。反応終了後、反応液を 10% 酢酸で平衡化した Sephadex G-25 カラム (46 mm ID × 600 mmL、ファルマシア) に通液し、平衡化に用いた 10% 酢酸を 6 ml / min の流速で展開し、S-シアノ化された hRFRP-1(37)－CS23 融合タンパク質画分を得た。この溶出液をペリコンミニカセット (ミリポア社) で濃縮・脱塩を行い、hRFRP-1(37)－CS23 融合タンパク質の脱塩液を得た。この脱塩液に最終濃度 6 M となるように尿素を添加した後、さらに、3 M 濃度となるように 25% アンモニア水を加え、15°C で 15 分間反応させた。反応終了後、酢酸で pH 6.0 に調整し、hRFRP-1(37)を得た。この反応液を 3 M 尿素を含む 50 mM MES 緩衝液 (pH 4.5) で平衡化した SP-5 PW (5.5 cm ID × 30 cmL、東ソー) に通液し、吸着、洗浄した後、0-50% B (B = 50 mM MES 緩衝液 + 1 M NaCl + 3 M 尿素) の段階勾配で溶出を行い、hRFRP-1(35)を得た (溶出時間: 60 分)。この hRFRP-1(37) 画分を、さらに 0.1% トリフルオロ酢酸 (TFA) で平衡化した ODS-120T (21.5 mm ID × 300 mmL、

東ソー)に通液し、吸着、洗浄した後、30-60% B (B: 80% アセトニトリル/0.1% TFA) の段階勾配で溶出を行い、hRFRP-1(37)画分をプールした(溶出時間: 45分)後、凍結乾燥を行い、hRFRP-1(37)凍結乾燥粉末を得た。

5 実施例8 ヒトOT7T022受容体発現CHO細胞に対する各種RFアミドペプチドのアゴニスト活性の比較

WO 00/29441号に記載の方法に準じた方法によって得られたヒトOT7T022受容体発現CHO細胞を 3×10^5 cells/wellの密度で24-wellプレートに播種して一晩培養した。該細胞をハンクスバッファー (HBSS) に0.05%のBSAと0.2mMのIBMXを加えた
10 バッファーで洗浄した後、同じバッファーで37°C、30分間のプレインキュベーションを行った。次に、ハンクスバッファー (HBSS) に0.05%のBSAと0.2mMのIBMXを加えたバッファーあるいはそれに1 μMのホルスコリンのみを添加したバッファー、1 μMのホルスコリンと様々な濃度のペプチドを添加したバッファーと交換し、37°C、30分間のインキュベーションを行った。インキュベーション終了後、
15 各ウェルの細胞内cAMPの抽出および定量をcAMP EIA Kit (アマシャム社) の方法に従って実施した。各濃度のペプチドについて、ホルスコリン処理による細胞内cAMP量の増加を抑制した割合を算出し、図14に示すような用量-反応曲線を得た。ペプチドのED₅₀値はそれぞれ、hRFRP-1-12 (配列番号: 1の第81番目(Met)ないし第92番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチド(○)) (4.5 nM)、
20 hRFRP-1-37 (配列番号: 1の第56番目(Ser)ないし第92番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチド(■)) (21 nM)、rRFRP-1-37 (配列番号: 50の第58番目(Ser)ないし第94番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチド(◇)) (30 nM)、hRFRP-2-12 (配列番号: 1の第101番目(Phe)ないし第112番目(Ser)のアミノ酸配列を有するペプチド(▲))、hRFRP-3-8 (配列番号:
25 1の第124番目(Val)ないし第131番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチド(□)) (9.9 nM)、PQRFamide (Pro-Gln-Arg-Phe-NH₂で表されるペプチド(◆)) (1000 nM以上)、LPLRFamide (Leu-Pro-Leu-Arg-Phe-NH₂で表される

ペプチド (●)) (36 nM) 、NPFF (Asn-Pro-Phe-Pheで表されるペプチド (△)) (140 nM) であった。

実施例 9 RFRPペプチドによるヒトOT7T022受容体の活性化に対する百日咳毒素
5 の効果の検討

実施例 8 で取得したヒトOT7T022受容体発現CHO細胞を 1×10^5 cells/wellの密度で24-wellプレートに播種して一晩培養した後、100ng/mlの百日咳毒素 (pertussis toxin, SIGMA社) を添加した培地あるいはコントロールの培地に交換し、さらに一晩培養した。細胞をハンクスバッファー (HBSS) に0.05%のBSAと0.2mMのIBMXを加えたバッファーで洗浄した後、同じバッファーで37°C、30分間のプレインキュベーションを行った。次に、細胞をハンクスバッファー (HBSS) に0.05%のBSAと0.2mMのIBMXを加えたバッファーのみ (黒色のカラム) 、あるいはそれに1 μMのホルスコリンのみを添加したバッファー (白色のカラム) 、1 μMのホルスコリンと0.1 μMのRFRP-1-12 (配列番号：1の第81番目 (Met) ないし第92番目 (Phe) のアミノ酸配列を有するペプチド) を添加したバッファー (斜線のカラム) と交換し、37°C、30分間のインキュベーションを行った。インキュベーション終了後、各ウェルの細胞内cAMPの抽出および定量をcAMP EIA Kit (アマシヤム社) の方法に従って実施した。その結果、図15に示すように百日咳毒素で処理した細胞についてはRFRP-1-12によるcAMP産生抑制活性が消失したことから、
10 OT7T022受容体を介したcAMP産生抑制反応は百日咳毒素感受性のGタンパク質 α 15 サブユニットであるGi (抑制性) あるいはG_oに共役していることが示された。
20

産業上の利用可能性

本発明のポリペプチドは、プロラクチン分泌の促進および抑制作用を有する。
25 即ち、本発明のポリペプチドは、上述の実施例から明らかなように、まずプロラクチン分泌の促進作用を有するため、プロラクチン分泌不全に関係する各種疾患の予防および治療薬に用いることができる。一方、本発明のポリペプチドは、そ

のレセプター蛋白質との親和性が強いため、投与量が増えるとプロラクチン分泌に対し脱感作 (desensitization) が起こる結果、プロラクチン分泌を抑制する作用も有する。この場合、プロラクチン過剰分泌に関係する各種疾患の予防および治療薬に用いることができる。

5 従って、本発明のポリペプチドは、プロラクチン分泌促進剤として、卵巣機能低下症、精巣発育不全、骨粗鬆症、更年期障害、乳汁分泌不全、甲状腺機能低下、腎不全などのプロラクチン分泌に関係する各種疾患の予防および治療薬として有用である。

また、本発明のポリペプチドは、プロラクチン分泌抑制剤として、高プロラクチ¹⁰ン血症、下垂体腺腫瘍、間脳腫瘍、月経異常、ストレス、自己免疫疾患、プロラクチノーマ、不妊症、インポテンス、無月経症、乳汁漏症、末端肥大症、キアリ・フロンメル (Chiari-Frommel) 症候群、アルゴンツ-デル・カスティロ (Argonz-del Castillo) 症候群、フォーベス・アルブライト (Forbes-Albright) 症候群、乳癌、リンパ腫またはシーハン症候群または精子形成異常などのプロラ¹⁵クチン分泌に関係する各種疾患の予防および治療薬として有用である。

本発明のポリペプチドは、とりわけ、高プロラクチン血症、乳汁分泌不全、自己免疫疾患、乳癌の予防および治療薬として有用である。

その他、本発明のポリペプチドは、プロラクチン分泌機能を調べるための検査薬としても、また、牛、ヤギ、ブタなどの畜産哺乳動物の乳汁の分泌促進剤など²⁰の動物薬としても有用であり、さらには該畜産哺乳動物体内で有用物質を生産させ、これをその乳汁中への分泌することによる有用物質生産などへの応用も期待される。

請求の範囲

1. 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有するプロラクチン分泌調節剤。
- 5 2. 実質的に同一のアミノ酸配列が配列番号：8、配列番号：14、配列番号：18、配列番号：33または配列番号：50で表されるアミノ酸配列である請求項1記載の剤。
- 10 3. 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有するプロラクチン分泌調節剤。
- 15 4. 配列番号：1の第81番目(Met)ないし第92番目(Phe)のアミノ酸配列を含有してなる部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有する請求項3記載のプロラクチン分泌調節剤。
- 5 5. 配列番号：1の第101番目(Ser)ないし第112番目(Ser)のアミノ酸配列を含有してなる部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有する請求項3記載のプロラクチン分泌調節剤。
- 6 6. 配列番号：1の第124番目(Val)ないし第131番目(Phe)のアミノ酸配列を含有してなる部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有する請求項3記載のプロラクチン分泌調節剤。
- 20 7. 配列番号：1の第56番目(Ser)ないし第92番目(Phe)のアミノ酸配列を含有してなる部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有する請求項3記載のプロラクチン分泌調節剤。
- 25 8. 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドのアミドまたはその塩を含有する請求項3記載のプロラクチン分泌調節剤。

9. C末端のカルボキシル基がアミド化されている配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有するポリペプチドの部分ペプチドまたはその塩を含有する請求項8記載のプロラクチン分泌調節剤。

5. 10. プロラクチン分泌促進剤である請求項1または請求項3記載のプロラクチン分泌調節剤。

11. プロラクチン分泌抑制剤である請求項1または請求項3記載のプロラクチン分泌調節剤。

12. 卵巣機能低下症、精巣発育不全、骨粗鬆症、更年期障害、乳汁分泌不全、
10 甲状腺機能低下、腎不全の予防または治療薬である請求項10記載のプロラクチン分泌促進剤。

13. 高プロラクチン血症、下垂体腺腫瘍、間脳腫瘍、月経異常、ストレス、自己免疫疾患、プロラクチノーマ、不妊症、インポテンス、無月経症、乳汁漏症、末端肥大症、キアリ・フロンメル (Chiari-Frommel) 症候群、アルゴンツ-デル・
15 カスティロ (Argonz-del Castillo) 症候群、フォーベス・アルブライト (Forbes-Albright) 症候群、乳癌リンパ腫またはシーハン症候群または精子形成異常の予防または治療薬である請求項11記載のプロラクチン分泌抑制剤。

14. 奢産哺乳動物の乳汁の分泌促進剤である請求項1または請求項3記載のプロラクチン分泌調節剤。

20 15. プロラクチン分泌機能の検査薬である請求項1または請求項3記載のプロラクチン分泌調節剤。

16. (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸

配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とする
ポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または
(ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミ
ノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそ
5 のアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合
物またはその塩のスクリーニング方法、または、
(i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミ
ノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしく
10 はそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配
列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポ
リペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはそ
の塩を含有してなる、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしく
15 は実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしく
はそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1
で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有す
ることを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくは
そのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩の
スクリーニング用キットを用いて得られる、 (i) 配列番号：1で表されるアミ
ノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴と
20 するポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または
(ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のア
ミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくは
そのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化
合物またはその塩を含有するプロラクチン分泌調節剤。
25 17. (I) (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に
同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのア
ミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表される

アミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、および (iii) 配列番号：37で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質またはその塩、またはその部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法、または、

(II) (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、および (iii) 配列番号：37で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質またはその塩、またはその部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング用キットを用いて得られる、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一

もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または(ii)配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩を含有するプロラクチン分泌調節剤。

18. (1) 配列番号：1の第81番目(Met)ないし第92番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、(2) 配列番号：1の第101番目(Ser)ないし第112番目(Ser)のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、(3) 配列番号：1の第124番目(Val)ないし第131番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、(4) 配列番号：1の第56番目(Ser)ないし第92番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、(5) 配列番号：14の第81番目(Met)ないし第92番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、(6) 配列番号：14の第101番目(Ser)ないし第112番目(Leu)のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、(7) 配列番号：14の第58番目(Ser)ないし第92番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、(8) 配列番号：33の第83番目(Val)ないし第94番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、(9) 配列番号：33の第118番目(Phe)ないし第125番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、(10) 配列番号：33の第58番目(Ser)ないし第94番目(Phe)のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または(11) 配列番号：50の第58番目

(Ser) ないし第94番目 (Phe) のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩。

19. 請求項18記載のペプチドのアミドまたはその塩。

20. C末端のカルボキシル基がアミド化されている請求項18記載のペプチド

5 もしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩。

21. 請求項18記載のペプチドをコードするDNA。

22. (1) 配列番号：2の第241番目ないし第276番目の塩基配列、(2)

配列番号：2の第301番目ないし第336番目の塩基配列、(3) 配列番号：

2の第370番目ないし第393番目の塩基配列、(4) 配列番号：2の第16

10 番目ないし第276番目の塩基配列、(5) 配列番号：15の第241番目な

いし第276番目の塩基配列、(6) 配列番号：15の第301番目ないし第3

15 番目の塩基配列、(7) 配列番号：15の第172番目ないし第276番目

のアミノ酸配列を有するペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルま

たはその塩、(8) 配列番号：34の第247番目ないし第282番目の塩基配

15 配列番号：34の第352番目ないし第375番目の塩基配列、(1)

0) 配列番号：34の第172番目ないし第282番目の塩基配列、または(1)

1) 配列番号：51の第172番目ないし第282番目の塩基配列を有する請求

項21記載のDNA。

23. 請求項18記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまた

20 はその塩に対する抗体。

24. 請求項21記載のDNAまたは請求項23記載の抗体を含有してなる診断

剤。

25. 請求項21記載のDNAに相補的または実質的に相補的な塩基配列を有し、

該DNAの発現を抑制し得る作用を有するアンチセンスDNA。

26. 請求項18記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまた

はその塩を含有してなる剤。

27. 請求項18記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまた

はその塩を含有してなる医薬。

28. プロラクチン分泌調節剤である請求項27記載の医薬。

29. 請求項18記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする請求項18記載のペプチドもしくはそのア
5 ミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法。

30. さらに配列番号：37で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質またはその塩、またはその部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする
10 請求項29記載のスクリーニング方法。

31. 請求項18記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる請求項18記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング用キット。

15 32. 請求項29記載のスクリーニング方法または請求項31記載のスクリーニング用キットを用いて得られる請求項18記載のペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩。

33. プロラクチン分泌調節作用を有する医薬を製造するための（1）配列番号：
20 1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または（2）配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の使用。

25 34. （1）配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または（2）配列番号：1で表されるアミ

ノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を哺乳動物に投与することを特徴とするプロラクチン分泌調節方法。

35. プロラクチン分泌調節作用を有する医薬を製造するための、

5 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはそ
10 の塩を用いることを特徴とする、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペ
15 プチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配
列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配
列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミド
もしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物または
その塩のスクリーニング方法、または、
20 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミ
ノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしく
はそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配
列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポ
リペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはそ
の塩を含有してなる、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしく
は実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもし
くはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1
25 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有す
ることを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくは
そのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩の

スクリーニング用キットを用いて得られる、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩の使用。

36. プロラクチン分泌調節作用を有する医薬を製造するための、

(I) (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、および (iii) 配列番号：37で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質またはその塩、またはその部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法、または、

(II) (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴と

するポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、および (iii) 配列番号：37で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質またはその塩、またはその部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有して
5 なる、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング用キットを用いて得られる、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩の使用。
10
15

37. (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または
20
25 (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそ

のアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法、または、

(i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる、 (iii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (iv) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング用キットを用いて得られる、 (v) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (vi) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩を哺乳動物に投与することを特徴とするプロラクチン分泌調節方法。

38. (I) (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、および (iii) 配列番号：37で表されるアミノ酸配列と同一

もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質またはその塩、またはその部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法、または、

10 (II) (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、および (iii) 配列番号：37で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質またはその塩、またはその部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング用キットを用いて得られる、 (i) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩、または (ii) 配列番号：1で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含

有することを特徴とするポリペプチドの部分ペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩の活性を促進または阻害する化合物またはその塩を哺乳動物に投与することを特徴とするプロラクチン分泌調節方法。

☒ 1

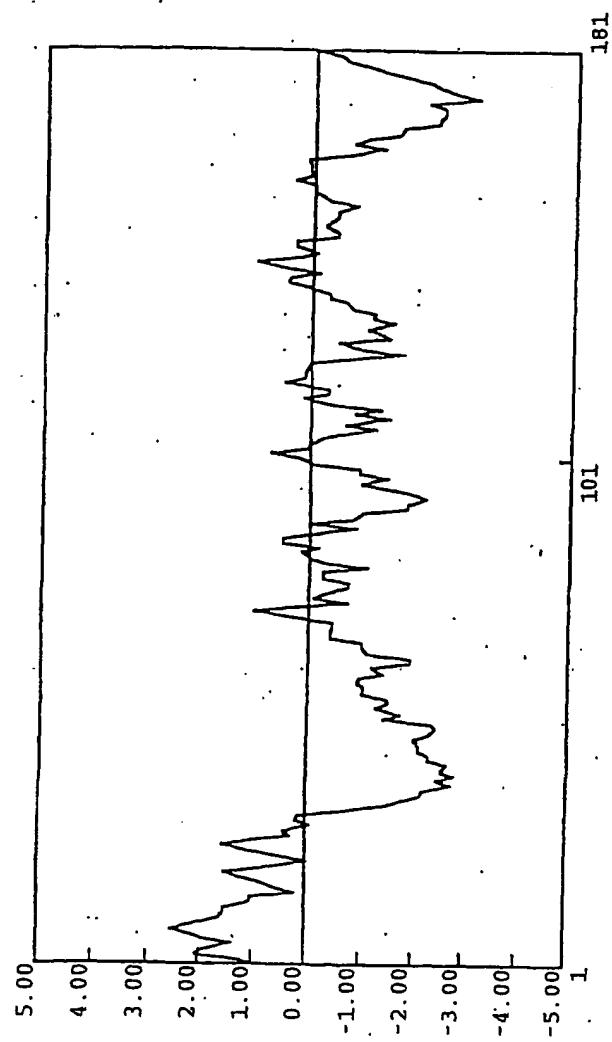
9	18	27	36	45	54
ATG	GAA	ATT	ATT	TCA	TCA
Met	Glu	Ile	Ile	Ser	Ser
TTG	TTA	ACA	TCA	AAC	ATT
Leu	Leu	Thr	Asn	Ile	Phe
AGC	AAA	GAA	AAT	TAT	GAC
Ser	Lys	Glu	Asn	Tyr	Asn
117	126	135	144	153	162
AGC	AAA	GAA	AAT	TAT	GAC
Ser	Lys	Glu	Asn	Tyr	Asp
171	180	189	198	207	216
AGA	AGC	CTC	AAT	TTT	GAG
Arg	Ser	Leu	Asn	Phe	Glu
225	234	243	252	261	270
ATG	AGT	ACA	CCT	GCA	GTC
Met	Ser	Thr	Pro	Ala	Val
279	288	297	306	315	324
AGA	TTT	GGG	AGG	ACA	GTC
Arg	Phe	Gly	Arg	Asn	Val
333	342	351	360	369	378
CCT	CTG	AGA	TCT	GGA	AGA
Pro	Leu	Arg	Ser	Gly	Arg
387	396	405	414	423	432
CTG	CCC	CAA	AGG	GGG	AGA
Leu	Pro	Gln	Arg	Phe	Gly
441	450	459	468	477	486
AGT	GAT	TTG	TGT	CAA	GGA
Ser	Asp	Leu	Cys	Gln	Gly
495	504	513	522	531	540
TCC	ATG	ACC	TGC	CAG	CAC
Ser	Met	Thr	Cys	Gln	His

18 27 36 45 54
 ATG GAA ATT ATT TCA TCA AAA CTA TTC ATT TTA TTG ACT TTA GCC ACT TCA AGC
 Met Glu Ile Ile Ser Ser Lys Leu Phe Ile Leu Leu Thr Leu Ala Thr Ser Ser
 63 72 81 90 99 108
 TTG TTA ACA TCA AAC ATT TTT TGT GCA GAT GAA TTA GTG ATG TCC AAT CTT CAC
 Leu Leu Thr Ser Asn Ile Phe Cys Ala Asp Glu Leu Val Met Ser Asn Leu His
 117 126 135 144 153 162
 AGC AAA GAA AAT TAT GAC AAA TAT TCT GAG CCT AGA GGA TAC CCA AAA GGG GAA
 Ser Lys Glu Asn Tyr Asp Lys Tyr Ser Glu Pro Arg Gly Tyr Pro Lys Gly Glu
 171 180 189 198 207 216
 AGA AGC CTC AAT TTT GAG GAA TTA AAA GAT TGG GGA CCA AAA AAT GTT ATT AAG
 Arg Ser Leu Asn Phe Glu Leu Lys Asp Trp Gly Pro Lys Asn Val Ile Lys
 225 234 243 252 261 270
 ATG AGT ACA CCT GCA GTC AAT AAA ATG CCA CAC TCC TTC GCC AAC TTG CCA TTG
 Met Ser Thr Pro Ala Val Asn Lys Met Pro His Ser Phe Ala Asn Leu Pro Leu
 279 288 297 306 315 324
 AGA TTT GGG AGG AAC GTC CAA GAA GAA AGA AGT GCT GGA GCA ACA GCC AAC CTG
 Arg Phe Gly Arg Asn Val Gln Glu Glu Arg Ser Ala Gly Ala Thr Ala Asn Leu
 333 342 351 360 369 378
 CCT CTG AGA TCT GGA AGA AAT ATG GAG GTG AGC CTC GTG AGA CGT GTT CCT AAC
 Pro Leu Arg Ser Gly Arg Asn Met Glu Val Ser Leu Val Arg Arg Val Pro Asn
 387 396 405 414 423 432
 CTG CCC CAA AGG TTT GGG AGA ACA ACA ACA GCC AAA AGT GTC TGC AGG ATG CTG
 Leu Pro Gln Arg Phe Gly Arg Thr Thr Ala Lys Ser Val Cys Arg Met Leu
 441 450 459 468 477 486
 AGT GAT TTG TGT CAA GGA TCC ATG CAT TCA CCA TGT GCC AAT GAC TTA TTT TAC
 Ser Asp Leu Cys Gln Gly Ser Met His Ser Pro Cys Ala Asn Asp Leu Phe Tyr
 495 504 513 522 531 540
 TCC ATG ACC TGC CAG CAC CAA GAA ATC CAG AAT CCC GAT CAA AAA CAG TCA AGG
 Ser Met Thr Cys Gln His Gln Glu Ile Gln Asn Pro Asp Gln Lys Gln Ser Arg

TAA 3'

2/15

図 2



3/15

☒ 3

9	18	27	36	45	54
ATG GAA ATT ATT TCA TCA AAA CTA TTC ATT TTA TTG ACT TTA GCC ACT TCA AGC	-----	-----	-----	-----	-----
Met Glu Ile Ile Ser Ser Lys Leu Phe Ile Leu Leu Thr Leu Ala Thr Ser Ser	-----	-----	-----	-----	-----
63	72	81	90	99	108
TTG TTA ACA TCA AAC ATT TTT TGT GCA GAT GAA TTA GTG ATG TCC AAT CTT CAC	-----	-----	-----	-----	-----
Leu Leu Thr Ser Asn Ile Phe Cys Ala Asp Glu Leu Val. Met Ser Asn Leu His	-----	-----	-----	-----	-----
117	126	135	144	153	162
AGC AAA GAA AAT TAT GAC AAA TAT TCT GAG CCT AGA GGA TAC CCA AAA GGG GAA	-----	-----	-----	-----	-----
Ser Lys Glu Asn Tyr Asp Lys Tyr Ser Glu Pro Arg Gly Tyr Pro Lys Gly Glu	-----	-----	-----	-----	-----
171	180	189	198	207	216
AGA AGC CTC AAT TTT GAG GAA TTA AAA GAT TGG GGA CCA AAA AAT GTT ATT AAG	-----	-----	-----	-----	-----
Arg Ser Leu Asn Phe Glu Glu Leu Lys Asp Trp Gly Pro Lys Asn Val Ile Lys	-----	-----	-----	-----	-----
225	234	243	252	261	270
ATG AGT ACA CCT GCA GTC AAT AAA ATG CCA CAC TCC TTC GCC AAC TTG CCA TTG	-----	-----	-----	-----	-----
Met Ser Thr Pro Ala Val Asn Lys Met Pro His Ser Phe Ala Asn Leu Pro Leu	-----	-----	-----	-----	-----
279	288	297	306	315	324
AGA TTT GGG AGG AAC GTT CAA GAA GAA AGA AGT GCT GGA GCA ACA GCC AAC CTG	-----	-----	-----	-----	-----
Arg Phe Gly Arg Asn Val Gln Glu Glu Arg Ser Ala Gly Ala Thr Ala Asn Leu	-----	-----	-----	-----	-----
333	342	351	360	369	378
CCT CTG AGA TCT GGA AGA AAT ATG GAG GTG AGC CTC GTG AGA CGT GTT CCT AAC	-----	-----	-----	-----	-----
Pro Leu Arg Ser Gly Arg Asn Met Glu Val Ser Leu Val Arg Arg Val Pro Asn	-----	-----	-----	-----	-----
387	396	405	414	423	432
CTG CCC CAA AGG TTT GGG AGA ACA ACA ACA GCC AAA AGT GTC TGC AGG ATG CTG	-----	-----	-----	-----	-----
Leu Pro Gln Arg Phe Gly Arg Thr Thr Ala Lys Ser Val Cys Arg Met Leu	-----	-----	-----	-----	-----
441	450	459	468	477	486
AGT GAT TTG TGT CAA GGA TCC ATG CAT TCA CCA TGT GCC AAT GAC TTA TTT TAC	-----	-----	-----	-----	-----
Ser Asp Leu Cys Gln Gly Ser Met His Ser Pro Cys Ala Asn Asp Leu Phe Tyr	-----	-----	-----	-----	-----
495	504	513	522	531	540
TCC ATG ACC TGC CAG CAC CAA GAA ATC CAG AAT CCC GAT CAA AAA CAG TCA AGG	-----	-----	-----	-----	-----
Ser Met Thr Cys Gln His Gln Glu Ile Gln Asn Pro Asp Gln Lys Gln Ser Arg	-----	-----	-----	-----	-----
549	558	567	576	585	
AGA CTG CTA TTC AAG AAA ATA GAT GAT GCA GAA TTG AAA CAA GAA AAA TAA 3'	-----	-----	-----	-----	-----
Arg Leu Leu Phe Lys Lys Ile Asp Asp Ala Glu Leu Lys Gln Glu Lys ***	-----	-----	-----	-----	-----

4

9	18	27	36	45	54
ATG GAA ATT ATT TCA TTA AAA CGA TTC ATT TTA TTG ATG TTA GCC ACT TCA AGC					
Met Glu Ile Ile Ser Leu Lys Arg Phe Ile Leu Leu Met Leu Ala Thr Ser Ser					
63	72	81	90	99	108
TTG TTA ACA TCA AAC ATC TTC TGC ACA GAC GAA TCA AGG ATG CCC AAT CTT TAC					
Leu Leu Thr Ser Asn Ile Phe Cys Thr Asp Glu Ser Arg Met Pro Asn Leu Tyr					
117	126	135	144	153	162
AGC AAA AAG AAT TAT GAC AAA TAT TCC GAG CCT AGA GGA GAT CTA GGC TGG GAG					
Ser Lys Lys Asn Tyr Asp Lys Tyr Ser Glu Pro Arg Gly Asp Leu Gly Trp Glu					
171	180	189	198	207	216
AAA GAA AGA AGT CTT ACT TTT GAA GAA GTA AAA GAT TGG GCT CCA AAA ATT AAG					
Lys Glu Arg Ser Leu Thr Phe Glu Glu Val Lys Asp Trp Ala Pro Lys Ile Lys					
225	234	243	252	261	270
ATG AAT AAA CCT GTA GTC AAC AAA ATG CCA CCT TCT GCA GCC AAC CTG CCA CTG					
Met Asn Lys Pro Val Val Asn Lys Met Pro Pro Ser Ala Ala Asn Leu Pro Leu					
279	288	297	306	315	324
AGA TTT GGG AGG AAC ATG GAA GAA AGG AGC ACT AGG GCG ATG GCC CAC CTG					
Arg Phe Gly Arg Asn Met Glu Glu Glu Arg Ser Thr Arg Ala Met Ala His Leu					
333	342	351	360	369	378
CCT CTG AGA CTC GGA AAA AAT AGA GAG GAC AGC CTC TCC AGA TGG GTC CCA AAT					
Pro Leu Arg Leu Gly Lys Asn Arg Glu Asp Ser Leu Ser Arg Trp Val Pro Asn					
387	396	405	414	423	432
CTG CCC CAG AGG TTT GGA AGA ACA ACA ACA GCC AAA AGC ATT ACC AAG ACC CTG					
Leu Pro Gln Arg Phe Gly Arg Thr Thr Thr Ala Lys Ser Ile Thr Lys Thr Leu					
441	450	459	468	477	486
AGT AAT TTG CTC CAG CAG TCC ATG CAT TCA CCA TCT ACC AAT GGG CTA CTC TAC					
Ser Asn Leu Leu Gln Gln Ser Met His Ser Pro Ser Thr Asn Gly Leu Leu Tyr					
495	504	513	522	531	540
TCC ATG GCC TGC CAG CCC CAA GAA ATC CAG AAT CCT GGT CAA AAG AAC CTA AGG					
Ser Met Ala Cys Gln Pro Gln Glu Ile Gln Asn Pro Gly Gln Lys Asn Leu Arg					
549	558	567	576	585	
AGA CGG GGA TTC CAG AAA ATA GAT GAT GCA GAA TTG AAA CAA GAA AAA TAA 3'					
Arg Arg Gly Phe Gln Lys Ile Asp Asp Ala Glu Leu Lys Gln Glu Lys ***					

5/15

☒

5

9	18	27	36	45	54
ATG GAA ATT ATT TCA TCA AAG CGA TTC ATT TTA TTG ACT TTA GCA ACT TCA AGC					
Met Glu Ile Ile Ser Ser Lys Arg Phe Ile Leu Leu Thr Leu Ala Thr Ser Ser					
63	72	81	90	99	108
TTC TTA ACT TCA AAC ACC CTT TGT TCA GAT GAA TTA ATG ATG CCC CAT TTT CAC					
Phe Leu Thr Ser Asn Thr Leu Cys Ser Asp Glu Leu Met Met Pro His Phe His					
117	126	135	144	153	162
AGC AAA GAA GGT TAT GGA AAA TAT TAC CAG GTG AGA GGA ATC CCA AAA GGG GTA					
Ser Lys Glu Gly Tyr Gly Lys Tyr Tyr Gln Leu Arg Gly Ile Pro Lys Gly Val					
171	180	189	198	207	216
AAG GAA AGA AGT GTG ACT TTT CAA GAA CTC AAA GAT TGG GGG GCA AAG AAA GAT					
Lys Glu Arg Ser Val Thr Phe Gln Glu Leu Lys Asp Trp Gly Ala Lys Lys Asp					
225	234	243	252	261	270
ATT AAG ATG AGT CCA GCC CCT GCC AAC AAA GTG CCC CAC TCA GCA GCC AAC CTT					
Ile Lys Met Ser Pro Ala Pro Ala Asn Lys Val Pro His Ser Ala Ala Asn Leu					
279	288	297	306	315	324
CCC CTG AGG TTT GGG AGG AAC ATA GAA GAC AGA AGA AGC CCC AGG GCA CGG GCC					
Pro Leu Arg Phe Gly Arg Asn Ile Glu Asp Arg Arg Ser Pro Arg Ala Arg Ala					
333	342	351	360	369	378
AAC ATG GAG GCA GGG ACC ATG AGC CAT TTT CCC AGC CTG CCC CAA AGG TTT GGG					
Asn Met Glu Ala Gly Thr Met Ser His Phe Pro Ser Leu Pro Gln Arg Phe Gly					
387	396	405	414	423	432
AGA ACA ACA GCC AGA CGC ATC ACC AAG ACA CTG GCT GGT TTG CCC CAG AAA TCC					
Arg Thr Thr Ala Arg Arg Ile Thr Lys Thr Leu Ala Gly Leu Pro Gln Lys Ser					
441	450	459	468	477	486
CTG CAC TCC CTG GCC TCC AGT GAA TCG CTC TAT GCC ATG ACC CGC CAG CAT CAA					
Leu His Ser Leu Ala Ser Ser Glu Ser Leu Tyr Ala Met Thr Arg Gln His Gln					
495	504	513	522	531	540
GAA ATT CAG AGT CCT GGT CAA GAC CAA CCT AGG AAA CGC GTG TTC ACG GAA ACA					
Glu Ile Gln Ser Pro Gly Gln Glu Gln Pro Arg Lys Arg Val Phe Thr Glu Thr					
549	558	567	576	585	594
GAT GAT GCA GAA AGG AAA CAA GAA AAA ATA GGA AAC CTC CAG CCA GTC CTT CAA					
Asp Asp Ala Glu Arg Lys Gln Glu Lys Ile Gly Asn Leu Gln Pro Val Leu Gln					
603	612				
GGG GCT ATG AAG CTG TGA 3'					
Gly Ala Met Lys Leu ***					

☒

6

hLPLRF.aa	1	MELISSKFI	LITLATSLL	TSNIFCADE	WFSNLHSTKEN	YDKYSEPRG-	50
hLPLRF.aa	1	MELISSKRFI	LITLATSLL	TSNIFCADES	RMPNLRSKRN	YDKYSEPRGD	50
rLPLRF.aa	1	MELISSKRFI	LITLATSFL	TSNIFCADES	MMPNLRSKES	YDKYSEPRGD	50
hLPLRF.aa	51	--YPKG--ER	SLTNEELKDW	GPKWVTKMST	PAVNMKPHSE	ANLPLRFGRN	100
hLPLRF.aa	51	LGWPK--ER	SLTNEEFVWDW	APK--TKMKT	EVNMKPHSA	ANLPLRFGRN	100
rLPLRF.aa	51	--PKGVKER	SLTNEELKDW	GPKWVTKMSP	APAVNMKPHSA	ANLPLRFGRN	100
hLPLRF.aa	110	120	130	140	150		
hLPLRF.aa	101	VOEERSGAT	ANLPLRSRN	MEVSTVRRVP	NLPQRFGRTT	TAKSVCRML	150
hLPLRF.aa	101	MEEERSTRAM	ANLPLRSRN	REPSLSRWP	NLPQRFGRTT	TAKSITKIL	150
rLPLRF.aa	101	TEDRSSRAR	ANM--	-EGIMSHFE	SLPQRFRTT	-AFRUTKTA	150
hLPLRF.aa	160	170	180	190	200		
hLPLRF.aa	151	DPSMHSF	CANDIYSMT	CQHQEIQNPD	DKQSERLIFK	KIDDAELKQE	200
hLPLRF.aa	151	NLPSMHSF	SINGELYSMA	CQHQEIQNPG	QKNTLRRGQ	KIDDAELKQE	200
rLPLRF.aa	151	QUPQKSFHST	ASSESYLYAM	RQHQEIQNPG	QKNTLRRGQ	ETDDAERKQE	200
hLPLRF.aa	210	220	230	240	250		
hLPLRF.aa	201	R*	-----	-----	-----	-----	250
hLPLRF.aa	201	R*	-----	-----	-----	-----	250
rLPLRF.aa	201	KIGNLQPVHQ	GAMKL*	-----	-----	-----	250

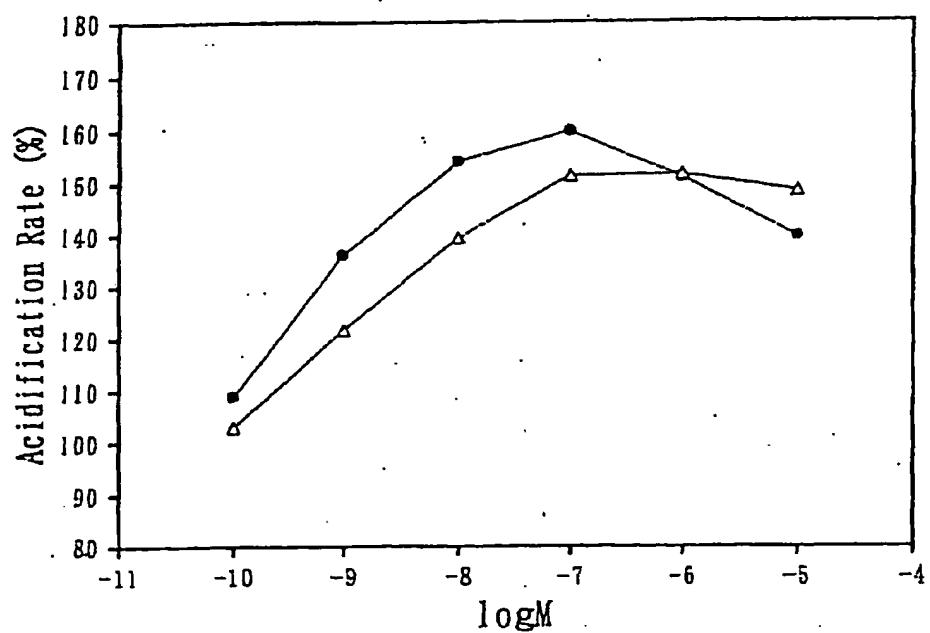
7/15

☒

1	TTTAGACTTAGACGAAATGAAATTATTCATTAAACGATTCACTTATTGACTGTG	58
1	Met Glu Ile Ile Ser Leu Lys Arg Phe Ile Leu Leu Thr Val	14
59	GCAACTCAAGCTTCTTAACATCAAACACCTTCTGTACAGATGAGTTCATGATGCCTCAT	118
15	Ala Thr Ser Ser Phe Leu Thr Ser Asn Thr Phe Cys Thr Asp Glu Phe Met Met Pro His	34
119	TTTCACAGCAAAGAAGGTGACGGAAAATACTCCCAGCTGAGAGGAATCCAAAAGGGGAA	178
35	Phe His Ser Lys Glu Gly Asp Gly Lys Tyr Ser Gln Leu Arg Gly Ile Pro Lys Gly Glu	54
179	AAGGAAAGAAGTGTCAAGAACTAAAGATTGGGGGCAAAGAATGTTATTAAG	238
55	Lys Glu Arg Ser Val Ser Phe Gln Glu Leu Lys Asp Trp Gly Ala Lys Asn Val Ile Lys	74
239	ATGAGTCCAGCCCCCTGCCAACAAAGTCCCCACTCAGCAGCCACCTGCCCTGAGATT	298
75	Met Ser Pro Ala Pro Ala Asn Lys Val Pro His Ser Ala Ala Asn Leu Pro Leu Arg Phe	94
299	GGAAGGACCATAGATGAGAAAAGAAGCCCCGCAGCACGGGTCAACATGGAGGCAGGGACC	358
95	Gly Arg Thr Ile Asp Glu Lys Arg Ser Pro Ala Ala Arg Val Asn Met Glu Ala Gly Thr	114
359	AGGAGCCATTCCCCAGCCTGCCAACAGGTTGGAGAACAAACAGCCAGAACGCCCCAAG	418
115	Arg Ser His Phe Pro Ser Leu Pro Gln Arg Phe Gly Arg Thr Thr Ala Arg Ser Pro Lys	154
419	ACACCCGCTGATTGCCACAGAAACCCCTGCACTCACTGGCTCCAGCGAGTTGCTCTAC	538
135	Thr Pro Ala Asp Leu Pro Gln Lys Pro Leu His Ser Leu Gly Ser Ser Glu Leu Leu Tyr	154
479	GTCATGATCTGCCAGCACCAAGAAATTCAAGAGTCCTGGTGGAAAGCGAACAGGAGAGGA	538
155	Val Met Ile Cys Gln His Gln Glu Ile Gln Ser Pro Gly Gly Lys Arg Thr Arg Arg Gly	174
539	GCGTTGTGGAAACAGATGATGCAGAAAGGAAACCAGAAAAATAGGAAACTCGAGCCCG	598
175	Ala Phe Val Glu Thr Asp Asp Ala Glu Arg Lys Pro Glu Lys ***	188
599	ACTTCAAGAGGCTACGGAGC	618
188		188

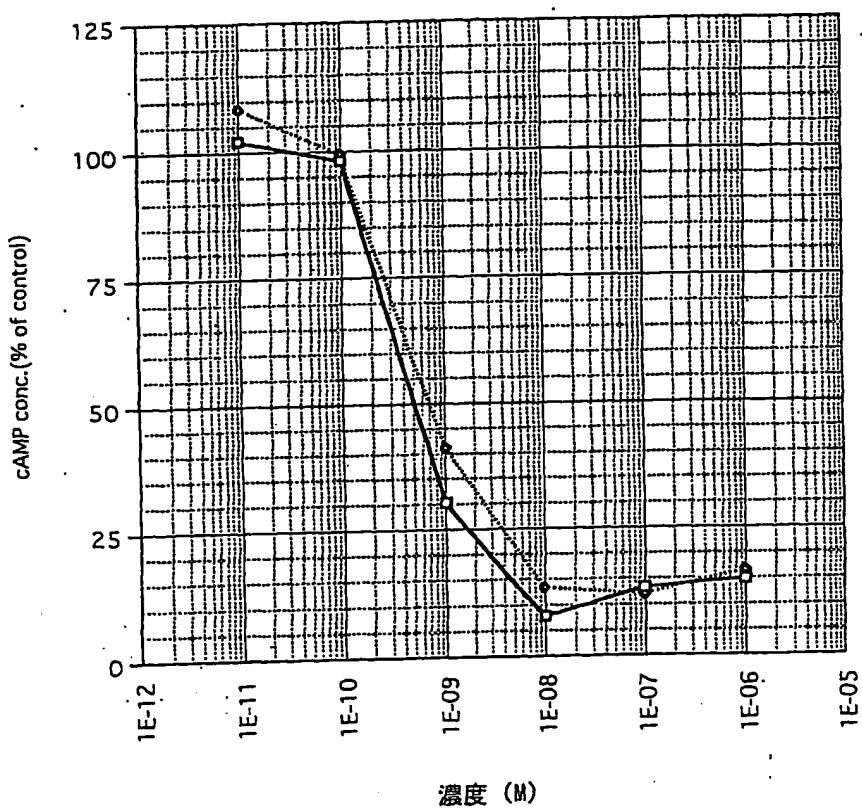
8/15

図 8



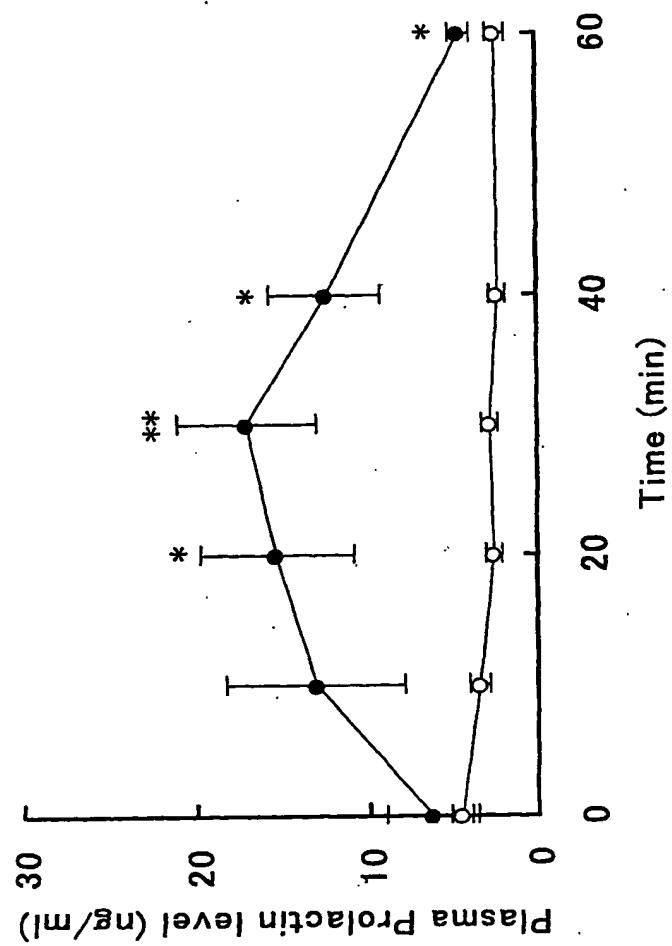
9/15

図 9



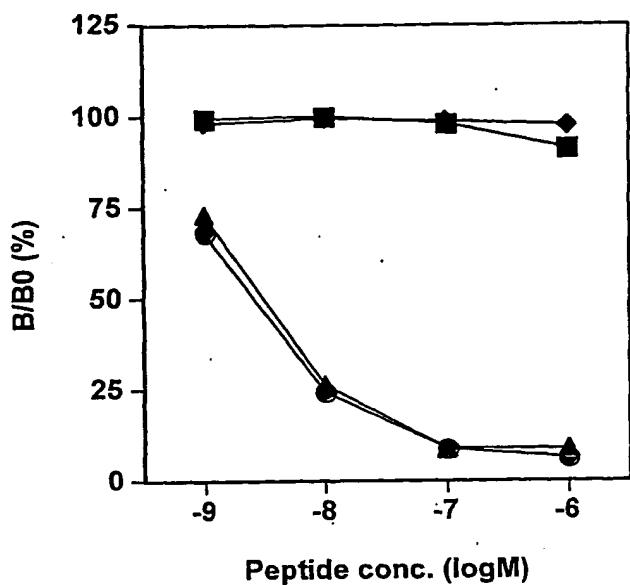
10/15

図 10



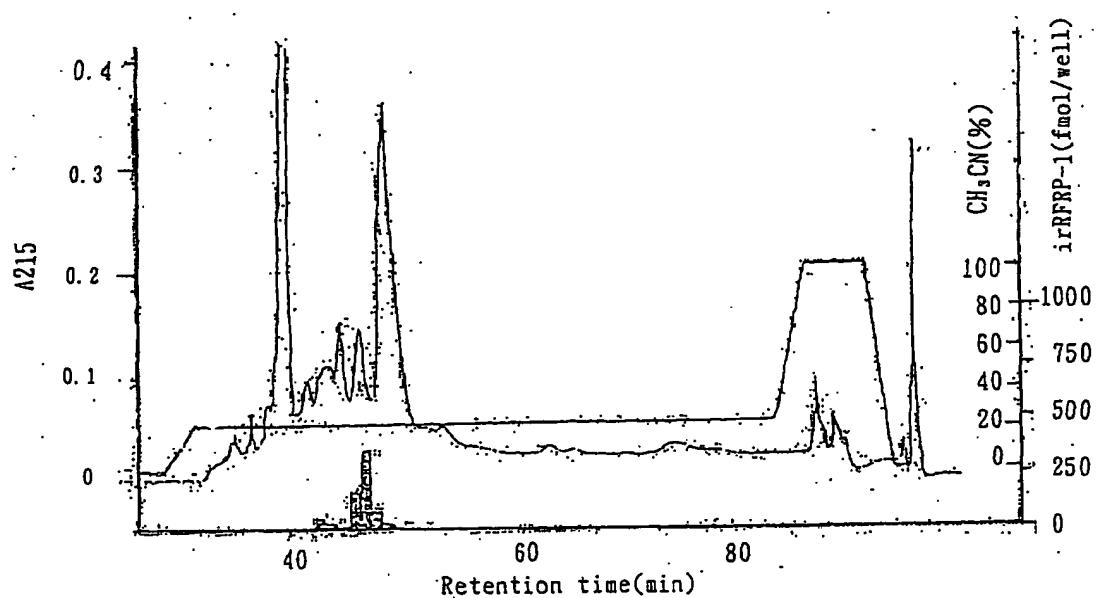
11/15

図 1 1



12/15

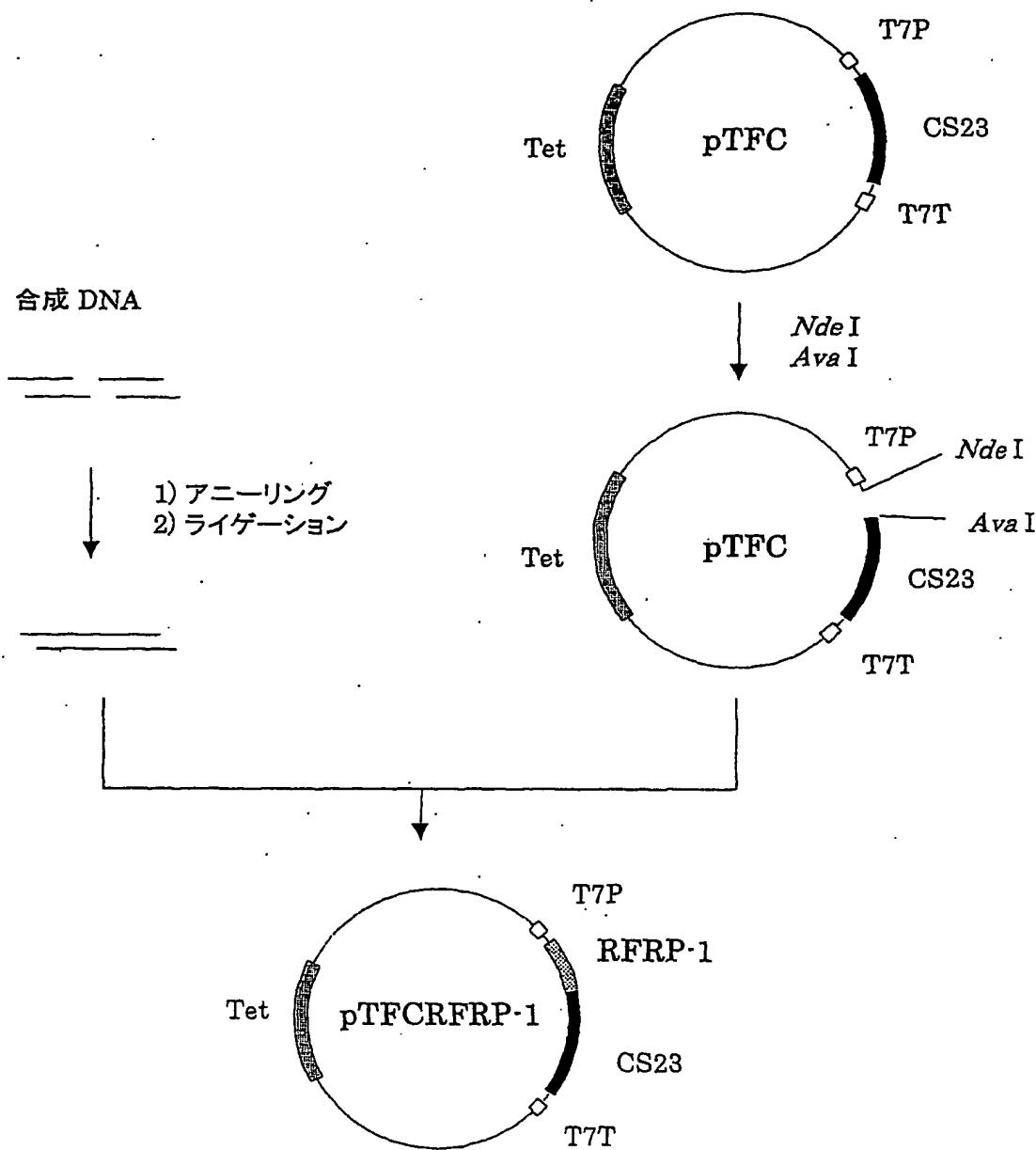
図 1.2



特許文用紙(規則26)

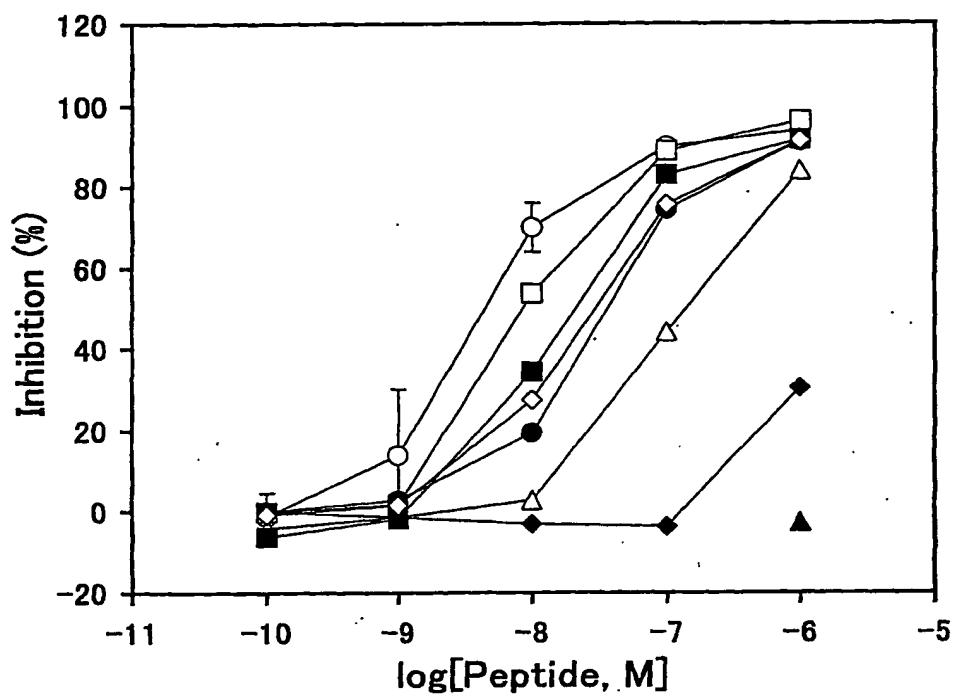
13/15

図 13



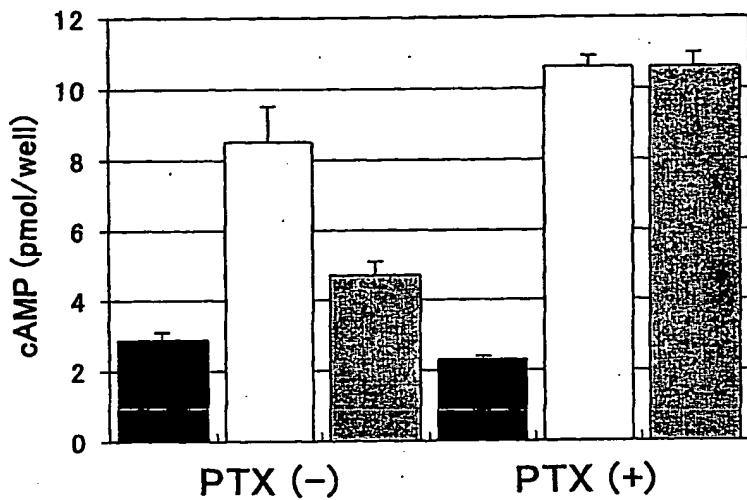
14/15

☒ 1 4



15/15

☒ 15



1/33

[Sequence Listing]

<110> Takeda Chemical Industries, Ltd.
<120> Prolactin secretion modulator containing RFRP
<130> 2697WOOP
<150> JP 12-065752
<151> 2000-03-06
<150> JP 12-378001
<151> 2000-12-07
<160> 62
<210> 1
<211> 180
<212> PRT
<213> Human
<400> 1

Met Glu Ile Ile Ser Ser Lys Leu Phe Ile Leu Leu Thr Leu Ala Thr
1 5 10 15
Ser Ser Leu Leu Thr Ser Asn Ile Phe Cys Ala Asp Glu Leu Val Met
20 25 30
Ser Asn Leu His Ser Lys Glu Asn Tyr Asp Lys Tyr Ser Glu Pro Arg
35 40 45
Gly Tyr Pro Lys Gly Glu Arg Ser Leu Asn Phe Glu Glu Leu Lys Asp
50 55 60
Trp Gly Pro Lys Asn Val Ile Lys Met Ser Thr Pro Ala Val Asn Lys
65 70 75 80
Met Pro His Ser Phe Ala Asn Leu Pro Leu Arg Phe Gly Arg Asn Val
85 90 95

2/33

Gln Glu Glu Arg Ser Ala Gly Ala Thr Ala Asn Leu Pro Leu Arg Ser
100 105 110
Gly Arg Asn Met Glu Val Ser Leu Val Arg Arg Val Pro Asn Leu Pro
115 120 125
Gln Arg Phe Gly Arg Thr Thr Ala Lys Ser Val Cys Arg Met Leu
130 135 140
Ser Asp Leu Cys Gln Gly Ser Met His Ser Pro Cys Ala Asn Asp Leu
145 150 155 160
Phe Tyr Ser Met Thr Cys Gln His Gln Glu Ile Gln Asn Pro Asp Gln
165 170 175
Lys Gln Ser Arg
180

<210> 2

<211> 540

<212> DNA

<213> Human

<400> 2

atggaaatata ttcatcaaaa actattcatt ttattgaccc tagccacttc aagcttggta 60
acatcaaaca ttttttggtc agatgaatata gtgtatgtcca atcctcacag caaagaaaaat 120
tatgacaat attcgtggcc tagaggatac cccaaagggg aaagaaggct caatttttag 180
gaattaaaag attggggacc aaaaaatgtt attaagatga gtacacctgc agtcaataaaa 240
atgccacact ctttcgccaa ctggccatgg agatttggga ggaacgttca agaagaaaaga 300
agtgcgtggag caacagccaa cctgcctctg agatctggta agaaatatggta ggtgagccctc 360
gtgagacgtg ttcctaacct gccccaaagg ttgggagaa caacaacage caaaatgtc 420
tgcaggatgc tgatgtatgtt gtgtcaaggg tccatgcatt caccatgtgc caatgactta 480
tttacttca tgacctggca gcaccaagaa atccagaatc ccgtcaaaaa acatgtcaagg 540

3/33

<210> 3

<211> 27

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 3

gggctgcaca tagagacita attttag

27

<210> 4

<211> 27

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 4

ctagaccacc tctatataac tgcccat

27

<210> 5

<211> 30

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 5

gcacatagag acttaattt agattttagac

30

<210> 6

<211> 27

4/33

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 6

catgcactt gactgggttc caggta 27

<210> 7

<211> 27

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 7

cagctttagg gacaggctcc aggtttc 27

<210> 8

<211> 196

<212> PRT

<213> Human

<400> 8

Met Glu Ile Ile Ser Ser Lys Leu Phe Ile Leu Leu Thr Leu Ala Thr

1 5 10 15

Ser Ser Leu Leu Thr Ser Asn Ile Phe Cys Ala Asp Glu Leu Val Met

20 25 30

Ser Asn Leu His Ser Lys Glu Asn Tyr Asp Lys Tyr Ser Glu Pro Arg

35 40 45

Gly Tyr Pro Lys Gly Glu Arg Ser Leu Asn Phe Glu Glu Leu Lys Asp

5/33

50

55

60

Trp Gly Pro Lys Asn Val Ile Lys Met Ser Thr Pro Ala Val Asn Lys

65

70

75

80

Met Pro His Ser Phe Ala Asn Leu Pro Leu Arg Phe Gly Arg Asn Val

85

90

95

Gln Glu Glu Arg Ser Ala Gly Ala Thr Ala Asn Leu Pro Leu Arg Ser

100

105

110

Gly Arg Asn Met Glu Val Ser Leu Val Arg Arg Val Pro Asn Leu Pro

115

120

125

Gln Arg Phe Gly Arg Thr Thr Ala Lys Ser Val Cys Arg Met Leu

130

135

140

Ser Asp Leu Cys Gln Gly Ser Met His Ser Pro Cys Ala Asn Asp Leu

145

150

155

160

Phe Tyr Ser Met Thr Cys Gln His Gln Glu Ile Gln Asn Pro Asp Gln

165

170

175

Lys Gln Ser Arg Arg Leu Leu Phe Lys Lys Ile Asp Asp Ala Glu Leu

180

185

190

Lys Gln Glu Lys

195

<210> 9

<211> 588

<212> DNA

<213> Human

<400> 9

atggaaatta tttcatcaaa actattcatt ttattgactt tagccacitc aagcttggta 60

acatcaaaca ttttttgtgc agatgaatta gtgtatgtcca atcttgcacag caaagaaaat 120

6/33

tatgacaaat attctgagcc tagaggatac ccaaaagggg aaagaagcct caattttag 180
gaatttaaaag attggggacc aaaaaatgtt attaagatga gtacaccitgc agtcaataaa 240
atgccacact ctttcgccaa ctgccatig agatttggga ggaacgttca agaagaaaga 300
agtgcggag caacagccaa ctgcctcig agatcggaa gaaataatgga ggtgagccic 360
gtgagacgtg ttccctaacct gccccaaagg ttgggagaa caacaacagc caaaagigic 420
tgcaggatgc tgagtgatit gtgtcaagga tccatgcatt caccatgtgc caatgactta 480
ttttacccca tgacctgcca gcaccaagaa atccagaatc ccgtcaaaaa acagtcaagg 540
agactgcitat tcaagaaaat agatgtgca gaatgtaaaac aagaaaaaa 588

<210> 10

<211> 27

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 10

gccttagagga gatctaggct gggagga 27

<210> 11

<211> 27

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 11

gggaggaaca tggaaaaga aaggagc 27

<210> 12

<211> 27

7/33

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 12

gatggigaat gcatggactg cttggagg

27

<210> 13

<211> 27

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 13

ttccctccaa atctcagttgg cagggtt

27

<210> 14

<211> 196

<212> PRT

<213> Bovine

<400> 14

Met Glu Ile Ile Ser Leu Lys Arg Phe Ile Leu Leu Met Leu Ala Thr

1

5

10

15

Ser Ser Leu Leu Thr Ser Asn Ile Phe Cys Thr Asp Glu Ser Arg Met

20

25

30

Pro Asn Leu Tyr Ser Lys Lys Asn Tyr Asp Lys Tyr Ser Glu Pro Arg

35

40

45

Gly Asp Leu Gly Trp Glu Lys Glu Arg Ser Leu Thr Phe Glu Glu Val

8/33

50 55 60
Lys Asp Trp Ala Pro Lys Ile Lys Met Asn Lys Pro Val Val Asn Lys
65 70 75 80
Met Pro Pro Ser Ala Ala Asn Leu Pro Leu Arg Phe Gly Arg Asn Met
85 90 95
Glu Glu Glu Arg Ser Thr Arg Ala Met Ala His Leu Pro Leu Arg Leu
100 105 110
Gly Lys Asn Arg Glu Asp Ser Leu Ser Arg Trp Val Pro Asn Leu Pro
115 120 125
Gln Arg Phe Gly Arg Thr Thr Ala Lys Ser Ile Thr Lys Thr Leu
130 135 140
Ser Asn Leu Leu Gln Gln Ser Met His Ser Pro Ser Thr Asn Gly Leu
145 150 155 160
Leu Tyr Ser Met Ala Cys Gln Pro Gln Glu Ile Gln Asn Pro Gly Gln
165 170 175
Lys Asn Leu Arg Arg Arg Gly Phe Gln Lys Ile Asp Asp Ala Glu Leu
180 185 190
Lys Gln Glu Lys
195
<210> 15
<211> 588
<212> DNA
<213> Bovine
<400> 15

atggaaatata ttccattaaa acgattcatt ttattgtgt tagccacttc aagcttgtta 60
acatcaaaca tcttcgtcac agacgaatca aggtatcccc atctttacag caaaaagaat 120

9/33

tatgacaaat attccgagcc tagaggagat ctaggctggg agaaagaaaag aagtccttaci 180
tttgaagaag taaaagatgt ggctccaaaa attaagaatgt ataaacctgt agtcaacaaa 240
atgccaccctt ctgcagccaa cctgccactg agatgtggga ggaacatgga agaagaaagg 300
agcacttaggg cgtatggccca cctgcctctg agactcggaa aaaaatagaga ggacagcctc 360
tccagatggg tcccaaattt gccccagagg ttgttggaaagaa caacaacagc caaaagcatt 420
accaagaccc ttagttaattt gctccagcag tccatgcatt caccatctac caatggctt 480
ctctacttcca tggcttgcca gccccaaagaa atccagaatc ctggtaaaaa gaacctaaagg 540
agacggggat tccagaaaaat agatgtatgca gaatgttggaaac aagaaaaaa 588

<210> 16

<211> 27

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 16

ccctggggct tcttctgtct tctatgt

27

<210> 17

<211> 26

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 17

agcgatccat ttatttgact tttagca

26

<210> 18

<211> 203

10/33

<212> PRT

<213> Rat

<400> 18

Met Glu Ile Ile Ser Ser Lys Arg Phe Ile Leu Leu Thr Leu Ala Thr
1 5 10 15
Ser Ser Phe Leu Thr Ser Asn Thr Leu Cys Ser Asp Glu Leu Met Met
20 25 30
Pro His Phe His Ser Lys Glu Gly Tyr Gly Lys Tyr Tyr Gln Leu Arg
35 40 45
Gly Ile Pro Lys Gly Val Lys Glu Arg Ser Val Thr Phe Gln Glu Leu
50 55 60
Lys Asp Trp Gly Ala Lys Lys Asp Ile Lys Met Ser Pro Ala Pro Ala
65 70 75 80
Asn Lys Val Pro His Ser Ala Ala Asn Leu Pro Leu Arg Phe Gly Arg
85 90 95
Asn Ile Glu Asp Arg Arg Ser Pro Arg Ala Arg Ala Asn Met Glu Ala
100 105 110
Gly Thr Met Ser His Phe Pro Ser Leu Pro Gln Arg Phe Gly Arg Thr
115 120 125
Thr Ala Arg Arg Ile Thr Lys Thr Leu Ala Gly Leu Pro Gln Lys Ser
130 135 140
Leu His Ser Leu Ala Ser Ser Glu Ser Leu Tyr Ala Met Thr Arg Gln
145 150 155 160
His Gln Glu Ile Gln Ser Pro Gly Gln Glu Gln Pro Arg Lys Arg Val
165 170 175
Phe Thr Glu Thr Asp Asp Ala Glu Arg Lys Gln Glu Lys Ile Gly Asn

11/38

180

185

190

Leu Gln Pro Val Leu Gln Gly Ala Met Lys Leu

195

200

<210> 19

<211> 609

<212> DNA

<213> Rat

<400> 19

atggaaattttcatcaaa gcgattcatt ttatigactt tagcaacttc aagcttctta 60
acttcaaaca cccttttttc agatgaattt atgatgcccc aiiiiacag caaagaaggt 120
tatggaaaat attaccagct gagaggaatc ccaaaaagggg taaaggaaag aagtttact 180
tttcaagaac tcaaagattt gggggcaaag aaagatattt agatgagtttcc agccctttgc 240
aacaaagtgc cccactcagc agccaaccctt cccctgaggtt ttgggaggaa catagaagac 300
agaagaagcc ccagggcactg ggccaacatg gaggcagggc ccatgagcca ttttccagc 360
ctggcccaaa ggtttgggag aacaacagcc agacgcattt ccaagacactt ggcttttttgc 420
ccccagaaaat ccctgcactc cctggcttcc agtgaatgc tciaigccat gacccggccag 480
catcaagaaa ttcatagttcc tggtcaagag caaccctagga aacgggtttt cacggaaaca 540
gtatgtgcag aaaggaaaca agaaaaataa ggaaacctcc agccagtttcaagggctt 600
atgaagctt 609

<210> 20

<211> 12

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 20

12/33

mgnattyggna ar

12

<210> 21

<211> 12

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 21

mgnattyggm gn

12

<210> 22

<211> 12

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 22

mgnwsnggna ar

12

<210> 23

<211> 12

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 23

mgnwsnggm gn

12

<210> 24

13/33

<211> 12

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 24

mgnytnggna ar

12

<210> 25

<211> 12

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 25

mgnytnggnm gn

12

<210> 26

<211> 30

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 26

gacttaatii tagatiiaga caaaatggaa

30

<210> 27

<211> 25

<212> DNA

14/33

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 27

ttctcccaa cctttgggc aggtt

25

<210> 28

<211> 28

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 28

acagcaaaga aggtgacgga aaatactc

28

<210> 29

<211> 28

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 29

atagatgaga aaagaagccc cgcaac

28

<210> 30

<211> 28

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

15/33

<223>

<400> 30

gtgctgcggg gcttctttc tcatctat

28

<210> 31

<211> 21

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 31

tttagacita gacgaaatgg a

21

<210> 32

<211> 21

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 32

gctccgttagc ctcttgaagt c

21

<210> 33

<211> 188

<212> PRT

<213> Mouse

<400> 33

Met Glu Ile Ile Ser Leu Lys Arg Phe Ile Leu Leu Thr Val Ala Thr

1

5

10

15

16/33

Ser Ser Phe Leu Thr Ser Asn Thr Phe Cys Thr Asp Glu Phe Met Met

20 25 30

Pro His Phe His Ser Lys Glu Gly Asp Gly Lys Tyr Ser Gln Leu Arg

35 40 45

Gly Ile Pro Lys Gly Glu Lys Glu Arg Ser Val Ser Phe Gln Glu Leu

50 55 60

Lys Asp Trp Gly Ala Lys Asn Val Ile Lys Met Ser Pro Ala Pro Ala

65 70 75 80

Asn Lys Val Pro His Ser Ala Ala Asn Leu Pro Leu Arg Phe Gly Arg

85 90 95

Thr Ile Asp Glu Lys Arg Ser Pro Ala Ala Arg Val Asn Met Glu Ala

100 105 110

Gly Thr Arg Ser His Phe Pro Ser Leu Pro Gln Arg Phe Gly Arg Thr

115 120 125

Thr Ala Arg Ser Pro Lys Thr Pro Ala Asp Leu Pro Gln Lys Pro Leu

130 135 140

His Ser Leu Gly Ser Ser Glu Leu Leu Tyr Val Met Ile Cys Gln His

145 150 155 160

Gln Glu Ile Gln Ser Pro Gly Gly Lys Arg Thr Arg Arg Gly Ala Phe

165 170 175

Val Glu Thr Asp Asp Ala Glu Arg Lys Pro Glu Lys

180 185

<210> 34

<211> 564

<212> DNA

<213> Mouse

17/33

<400> 34

<210> 35

<211> 27

〈212〉 DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

〈223〉

<400> 35

agtcgacagt atggaggcgg agccctc 27

〈210〉 36

<211> 29

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

〈220〉

〈223〉

<400> 36

18/33

gactagttca aatgttccag gccgggatg

29

<210> 37

<211> 432

<212> PRT

<213> Rat

<400> 37

Met Glu Ala Glu Pro Ser Gln Pro Pro Asn Gly Ser Trp Pro Leu Gly

5 10 15

Gln Asn Gly Ser Asp Val Glu Thr Ser Met Ala Thr Ser Leu Thr Phe

20 25 30

Ser Ser Tyr Tyr Gln His Ser Ser Pro Val Ala Ala Met Phe Ile Ala

35 40 45

Ala Tyr Val Leu Ile Phe Leu Leu Cys Met Val Gly Asn Thr Leu Val

50 55 60

Cys Phe Ile Val Leu Lys Asn Arg His Met Arg Thr Val Thr Asn Met

65 70 75 80

Phe Ile Leu Asn Leu Ala Val Ser Asp Leu Leu Val Gly Ile Phe Cys

85 90 95

Met Pro Thr Thr Leu Val Asp Asn Leu Ile Thr Gly Trp Pro Phe Asp

100 105 110

Asn Ala Thr Cys Lys Met Ser Gly Leu Val Gln Gly Met Ser Val Ser

115 120 125

Ala Ser Val Phe Thr Leu Val Ala Ile Ala Val Glu Arg Phe Arg Cys

130 135 140

Ile Val His Pro Phe Arg Glu Lys Leu Thr Leu Arg Lys Ala Leu Phe

145 150 155 160

19/33

Thr Ile Ala Val Ile Trp Ala Leu Ala Leu Leu Ile Met Cys Pro Ser
165 170 175
Ala Val Thr Leu Thr Val Thr Arg Glu Glu His His Phe Met Leu Asp
180 185 190
Ala Arg Asn Arg Ser Tyr Pro Leu Tyr Ser Cys Trp Glu Ala Trp Pro
195 200 205
Glu Lys Gly Met Arg Lys Val Tyr Thr Ala Val Leu Phe Ala His Ile
210 215 220
Tyr Leu Val Pro Leu Ala Leu Ile Val Val Met Tyr Val Arg Ile Ala
225 230 235 240
Arg Lys Leu Cys Gln Ala Pro Gly Pro Ala Arg Asp Thr Glu Glu Ala
245 250 255
Val Ala Glu Gly Gly Arg Thr Ser Arg Arg Arg Ala Arg Val Val His
260 265 270
Met Leu Val Met Val Ala Leu Phe Phe Thr Leu Ser Trp Leu Pro Leu
275 280 285
Trp Val Leu Leu Leu Ile Asp Tyr Gly Glu Leu Ser Glu Leu Gln
290 295 300
Leu His Leu Leu Ser Val Tyr Ala Phe Pro Leu Ala His Trp Leu Ala
305 310 315 320
Phe Phe His Ser Ser Ala Asn Pro Ile Ile Tyr Gly Tyr Phe Asn Glu
325 330 335
Asn Phe Arg Arg Gly Phe Gln Ala Ala Phe Arg Ala Gln Leu Cys Trp
340 345 350
Pro Pro Trp Ala Ala His Lys Gln Ala Tyr Ser Glu Arg Pro Asn Arg
355 360 365

20/33

Leu Leu Arg Arg Arg Val Val Val Asp Val Gln Pro Ser Asp Ser Gly

370 375 380

Leu Pro Ser Glu Ser Gly Pro Ser Ser Gly Val Pro Gly Pro Gly Arg

385 390 395 400

Leu Pro Leu Arg Asn Gly Arg Val Ala His Gln Asp Gly Pro Gly Glu

405 410 415

Gly Pro Gly Cys Asn His Met Pro Leu Thr Ile Pro Ala Trp Asn Ile

420 425 430

<210> 38

<211> 1299

<212> DNA

<213> Rat

<400> 38

atggaggccg agccctccca gcctcccaac ggcagctggc cccctgggca gaacgggagt 60
 gatgiggaga ccagcatggc aaccagccctc accttccctt cctactacca acactccct 120
 ccgggtggcag ccatgttcat cggggccatc gtgtcatct tcctcccttg catggggc 180
 aacaccctgg tctgttcatc tggttcaag aaccggcaca tgcgcactgt caccaacatg 240
 ttatccctca acctggccgt cagcgacctg ctggtggca tcttctgtat gcccacaacc 300
 ctgtggaca accttatcac tggttggctt ttgtacaacg ccacatgcaa gatgagcggc 360
 ttggtgagg gcatgtccgt gtctgtatcg gttttcacac tggggccat cgctgtggaa 420
 agttttccgt gcatgtgtca ccccttccgc gagaagctga cccctcgaa ggcgcgttgc 480
 accatcgccg tggatggc tctggcgctg ctatcatgt gtccctcgcc ggtcactctg 540
 acatgtcaccc gagaggagca tcacttcatg ctggatgttc gtaaccgcic tiaaccgcctc 600
 tactcggtt gggaggccctg gcccggagaag ggcgtgtgc aggttacac cgggtgttc 660
 ttcgtgcaca tctaccctgtt gcccgtggcg ctatcgtag tggatgtacgt ggcgtgtgc 720
 cgcaagctat gccaggcccc cggccgtcg cggcacacgg aggaggccgtt gggcgagggt 780

21/33

ggccgcactt cgccgcgtag ggccgcgtg gtgcacatgc tggcatgtt ggcgccttc 840
ttcacgtgtt ccggcgtcc acgtgggtt ctgcgtgtc tcatcgacta tggggagctg 900
agcgagcgtc aacigcacctt gctgtcggtt tacgccttcc ccttggcaca ctggcgtggcc 960
ttcttccaca gcagcgccaa ccccatcatc tacggctact tcaacgagaa ctccgcgc 1020
ggcttccagg ctgccttccg tgcacagctc tgctggcctc cctggccgc ccacaagcaa 1080
gccttacccgg agcggccaa ccgccttcgt cgccaggcggg tggtggtgga cgtgcaaccc 1140
agcgactccg gccgtccatc agagtctggc cccagcagcg gggtcccagg gctggccgg 1200
ctgcccacitgc gcaatggcg tggccat caggaatggcc cggggaaagg gccaggctgc 1260
aaccacaatgc cccatccat cccggccgtt aacatitga 1299

<210> 39

<211> 12

<212> PRT

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> the C-terminus of the polypeptide is amide (-CONH₂) form

<400> 39

Met Pro His Ser Phe Ala Asn Leu Pro Leu Arg Phe

1 5 10

<210> 40

<211> 8

<212> PRT

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> the C-terminus of the polypeptide is amide (-CONH₂) form

<400> 40

Val Pro Asn Leu Pro Gln Arg Phe

22/33

1 5

<210> 41

<211> 11

<212> PRT

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> the C-terminus of the polypeptide is amide (-CONH₂) form

<400> 41

Ser Ala Gly Ala Thr Ala Asn Leu Pro Arg Ser

1 5 10

<210> 42

<211> 36

<212> DNA

<213> Human

<400> 42

atgccacact ccitgccaa ctigccatig agatit 36

<210> 43

<211> 36

<212> DNA

<213> Human

<400> 43

agtgcgtggag caacagccaa ccigccctcg agatct 36

<210> 44

<211> 24

<212> DNA

<213> Human

23/33

<400> 44

gttcctaaacc tgccccaaag gttt

24

<210> 45

<211> 276

<212> DNA

<213> Human

<400> 45

〈210〉 46

211 336

<212> DNA

<213> Human

<400> 46

atggaaatataatccaaaactattcattttatggactttagccacttc aagcttgtt 60
acatcaaaca tttttttgtgc agatgaatataatggatgtccatcttcacag caaagaaaaat 120
tatgacaaat attcgtggcc tagaggataccaaaaaggggg aaagaaggctt caattttgtag 180
gaattaaaaatgggggacc aaaaaatgtt attaagaatgtatcacacctgc agtcaataaaa 240
atgccacact ccctcgccaa ctggccatgttggacttggatggacttggatggactt 300
atgtggctggag caacagccaa cctgcctctg agatct 336

<210> 47

〈211〉 393

<212> DNA

24/33

213 Human

<400> 47

<210> 48

<211> 27

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

〈220〉

223

〈400〉·48

ccctggggct ttttctgtct tctatgt 27

<210> 49

<211> 26

<212> DNA

213 Artificial Sequence

<220>

223

<400> 49

agcgatcat ttatigact ttatca 26

- <210> 50

25/33

<211> 203

<212> PRT

<213> Rat

<400> 50

Met Glu Ile Ile Ser Ser Lys Arg Phe Ile Leu Leu Thr Leu Ala Thr

1 5 10 15

Ser Ser Phe Leu Thr Ser Asn Thr Leu Cys Ser Asp Glu Leu Met Met

20 25 30

Pro His Phe His Ser Lys Glu Gly Tyr Gly Lys Tyr Tyr Gln Leu Arg

35 40 45

Gly Ile Pro Lys Gly Val Lys Glu Arg Ser Val Thr Phe Gln Glu Leu

50 55 60

Lys Asp Trp Gly Ala Lys Lys Asp Ile Lys Met Ser Pro Ala Pro Ala

65 70 75 80

Asn Lys Val Pro His Ser Ala Ala Asn Leu Pro Leu Arg Phe Gly Arg

85 90 95

Asn Ile Glu Asp Arg Arg Ser Pro Arg Ala Arg Ala Asn Met Glu Ala

100 105 110

Gly Thr Met Ser His Phe Pro Ser Leu Pro Gln Arg Phe Gly Arg Thr

115 120 125

Thr Ala Arg Arg Ile Thr Lys Thr Leu Ala Gly Leu Pro Gln Lys Ser

130 135 140

Leu His Ser Leu Ala Ser Ser Glu Leu Leu Tyr Ala Met Thr Arg Gln

145 150 155 160

His Gln Glu Ile Gln Ser Pro Gly Gln Glu Gln Pro Arg Lys Arg Val

165 170 175

26/33

Phe Thr Glu Thr Asp Asp Ala Glu Arg Lys Gln Glu Lys. Ile Gly Asn

180 185

190

Leu Gln Pro Val Leu Gln Gly Ala Met Lys Leu

195 200

<210> 51

<211> 609

<212> DNA

<213> Rat

<400> 51

<210> 52

<211> 27

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

220

223

27/33

<400> 52
ttcttagatii tggacaaaat ggaaatt 27
<210> 53
<211> 27
<212> DNA
<213> Artificial Sequence
<220>
<223>
<400> 53
cgtctttagg gacaggctcc agatttc 27
<210> 54
<211> 430
<212> PRT
<213> Human
<400> 54
Met Glu Gly Glu Pro Ser Gln Pro Pro Asn Ser Ser Trp Pro Leu Ser
1 5 10 15
Gln Asn Gly Thr Asn Thr Glu Ala Thr Pro Ala Thr Asn Leu Thr Phe
20 25 30
Ser Ser Tyr Tyr Gln His Thr Ser Pro Val Ala Ala Met Phe Ile Val
35 40 45
Ala Tyr Ala Leu Ile Phe Leu Leu Cys Met Val Gly Asn Thr Leu Val
50 55 60
Cys Phe Ile Val Leu Lys Asn Arg His Met His Thr Val Thr Asn Met
65 70 75 80
Phe Ile Leu Asn Leu Ala Val Ser Asp Leu Leu Val Gly Ile Phe Cys

28/33

85 90 95

Met Pro Thr Thr Leu Val Asp Asn Leu Ile Thr Gly Trp Pro Phe Asp

100 105 110

Asn Ala Thr Cys Lys Met Ser Gly Leu Val Gln Gly Met Ser Val Ser

115 120 125

Ala Ser Val Phe Thr Leu Val Ala Ile Ala Val Glu Arg Phe Arg Cys

130 135 140

Ile Val His Pro Phe Arg Glu Lys Leu Thr Leu Arg Lys Ala Leu Val

145 150 155 160

Thr Ile Ala Val Ile Trp Ala Leu Ala Leu Leu Ile Met Cys Pro Ser

165 170 175

Ala Val Thr Leu Thr Val Thr Arg Glu Glu His His Phe Met Val Asp

180 185 190

Ala Arg Asn Arg Ser Tyr Pro Leu Tyr Ser Cys Trp Glu Ala Trp Pro

195 200 205

Glu Lys Gly Met Arg Arg Val Tyr Thr Thr Val Leu Phe Ser His Ile

210 215 220

Tyr Leu Ala Pro Leu Ala Leu Ile Val Val Met Tyr Ala Arg Ile Ala

225 230 235 240

Arg Lys Leu Cys Gln Ala Pro Gly Pro Ala Pro Gly Gly Glu Glu Ala

245 250 255

Ala Asp Pro Arg Ala Ser Arg Arg Arg Ala Arg Val Val His Met Leu

260 265 270

Val Met Val Ala Leu Phe Phe Thr Leu Ser Trp Leu Pro Leu Trp Ala

275 280 285

Leu Leu Leu Leu Ile Asp Tyr Gly Gln Leu Ser Ala Pro Gln Leu His

29/33

290 295 300
Leu Val Thr Val Tyr Ala Phe Pro Phe Ala His Trp Leu Ala Phe Phe
305 310 315 320
Asn Ser Ser Ala Asn Pro Ile Ile Tyr Gly Tyr Phe Asn Glu Asn Phe
325 330 335
Arg Arg Gly Phe Gln Ala Ala Phe Arg Ala Arg Leu Cys Pro Arg Pro
340 345 350
Ser Gly Ser His Lys Glu Ala Tyr Ser Glu Arg Pro Gly Gly Leu Leu
355 360 365
His Arg Arg Val Phe Val Val Val Arg Pro Ser Asp Ser Gly Leu Pro
370 375 380
Ser Glu Ser Gly Pro Ser Ser Gly Ala Pro Arg Pro Gly Arg Leu Pro
385 390 395 400
Leu Arg Asn Gly Arg Val Ala His His Gly Leu Pro Arg Glu Gly Pro
405 410 415
Gly Cys Ser His Leu Pro Leu Thr Ile Pro Ala Trp Asp Ile
420 425 430
<210> 55
<211> 1290
<212> DNA
<213> Human
<400> 55

atggaggggg agccctccca gcctcccaac agcagttggc ccctaagica gaatggact 60
aacactgagg ccaccccggc tacaaacctc accttctcct cctactataca gcacacctcc 120
cctgtggcgg ccatgttcat tgiggcctat gcgctcatct tcctgctctg catggggc 180
aacaccctgg tctgtttcat cgigctcaag aaccggcaca tgcaatactgt caccaacatg 240

30/33

ttcatccatca acctggcgtt cagtgacctg ctggggca tctctgtcat gcccaccacc 300
 ctgtggaca accatcaaac tggggccccc ttgcacaatg ccacatgcaa gatgagcgcc 360
 ttggcagg gcatgttgtt gtcggcttcc gtttacac tggggccat tgctgtggaa 420
 aggttccgtt gcatcgigca cccttccgc gagaagctga ccctgcggaa ggcgcgtc 480
 accatcgccg tcatctggc cctggcgctg ctcatcatgt gtccctcgcc cgtaacgtt 540
 accgtcaccc gtgaggagca ccacttcaatg gttggacgccc gcaaccgttc ttaacccttc 600
 tactccgtt gggaggccgtt gcccgagaag ggcatgcga gggcttacac cactgtgtc 660
 ttctcgacata tctaccctggc gcccgtggc ctcatcggtt tcatgtacgc ccgcatacg 720
 cgcaaggctt gccaggcccc gggcccccggcc cccggggcg aggaggctgc ggacccgcga 780
 gcatcgccgc gcagagcgcg ctgggtgtcac atgttgtca tggggcgct gtcttcacg 840
 ctgtccctggc tgccgtctgtt ggcgtgtctg ctgcatacg actacggca gcicagcg 900
 ccgcagctgc acctgttacatc cgttacgccc ttccccctcg cgcaactggctt ggccttc 960
 aacagcagcg ccaacccat catctacggc tacticaacg agaacttccg ccgcggcttc 1020
 caggccgcctt tccggccccg ccctgtccccg cggccgtcgg ggagccacaa ggaggcciac 1080
 tccgagcggc ccggccggctt tctgcacagg cgggtttctgtt tgggggtgcg gcccagcgac 1140
 tccgggttgc ccctgtgttc gggcccttagc agtggggccc ccagggccgg ccgcctcccg 1200
 ctgcggaaatg ggcgggtggc taccacggc tttggccagg aagggccatgg ctgtccac 1260
 ctgtccccatca ccattccatc ctgggatatac 1290

<210> 56

<211> 1290

<212> DNA

<213> Human

<400> 56

atggagggggg agccctccca gcctcccaac agcagtgtgc ccctaaatgtca gaatgggact 60
 aacactgtggg ccacccggc taaaacatc acctttctt cttactatca gcacaccc 120
 cctgtggcgg ccatgttcat tttggccat ggcgtatct tccgtgttgc caatggggc 180

31/38

aacaccctgg tcgtttcat cgigctcaag aaccggcaca tgcatactgt caccaacatg 240
ttcaatccca accggctgt cagtgaccgt cggggca tcttctgtat gcccaccacc 300
tttggtggaca accatcatcac tgggtggccc ttgcacaatg ccacatgcaa gatgagcggc 360
ttgggtgcagg gcaigtctgt gtcggcttcc gttttcacac tggggccat tgcgtggaa 420
aggttccgct gcatcggtca cccttccgc gagaagctga cccigcggaa ggcgcicgtc 480
accatcgccg tcaatctggc cctggcgttg ctcatcatgt gtcctcgcc cgtaacgcgt 540
accgtcaccc gtgaggagca ccacttcatg tggacgccc gcaaccgcic ctaccgcic 600
tacccctgtt gggaggccgt gcccggagaag ggcatacgca gggcttacac cactgtgcic 660
ttctcgacata tctaccctggc gccgttggcg ctcatcgigg tcatgtacgc ccgcatacg 720
cgcaagctt gccaggcccc gggcccgcc cccggggcg aggaggctgc ggaccgcga 780
gcatacgccgc gcaagagcgac cgtgggtcac atgcgttca tgggtggcgtt gtttttacg 840
ctgtccctggc tgccgcicgt ggcgttgcgt ctgttacatcg aciacggca gtcagcg 900
ccgcagctgc acctggtcac ctgttaccc ttcccttgc cgactggctt ggccttctt 960
aacagcagcg ccaacccat catctacggc tacticaacg agaacatccg ccgcggcic 1020
caggccgcct tccgcgcccc cctctggccg cggccgtcgg ggagccacaa ggaggcciac 1080
tccgagcggc ccggcgggtct tctgcacagg cgggtttcg tggggggcg gcccagcgac 1140
tccgggttgc cctctgagtc gggcccttagc agtggggccc ccaggccgg ccgcctcccg 1200
ctgcttgcgtt ggcgggtggc tcaaccacggc ttgtccaggg aaggccctgg ctgttttttac 1260
ctgccccatca ccattccagc ctgggatatc 1290

<210> 57

<211> 31

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 57

32/33

gtcgacatgg agggggagcc ctccccagcct c 31

<210> 58

<211> 29

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223>

<400> 58

actagtttcag atatcccaagg ctggaaatgg 29

<210> 59

<211> 57

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 59

tatgagccctg aactttgaag aactgaaagat tggggtccga aaaatgttgtat taaaatg 57

<210> 60

<211> 61

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 60

agcaccccccgg cggtgaataa aatgccgcat agctttgcga atctgccgt gcgtttttgc 60

c

61

33/33

<210> 61

<211> 62

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 61

ggtgctcatt ttaatcacat ttttcggacc ccaatctttc agtttttcaa agttcaggct 60
ca 62

<210> 62

<211> 58

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 62

tcggggcaaa aacgcagcgg cagattcgca aagctatgcgg catttttttc accggccgg 58

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP01/01716

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl⁷ A61K38/22, 45/00, A61P5/10, 15/00, 15/08, 15/10, C07K14/72, 16/28, C12N15/12, C12Q1/02, G01N33/12, 33/50, 33/566, 33/53

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl⁷ A61K38/22, 45/00, A61P5/10, 15/00, 15/08, 15/10, C07K14/72, 16/28, C12N15/12, C12Q1/02, G01N33/12, 33/50, 33/566, 33/53

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

CAPLUS (STN), REGISTRY (STN), MEDLINE (STN), EMBASE (STN), BIOSIS (STN)
SwissProt/PIR/GeneSeq
Genbank/EMBL/DDBJ/GeneSeq

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
P, X	WO, 2000/029441, A1 (Takeda Chemical Industries, Ltd.); 25 May, 2000 (25.05.00) (Family: none) & Database CAPLUS on STN, AMERICAN CHEMICAL SOCIETY (ACS), (Columbus, OH, USA), DN.133:16312	1-15, 18-31
P, X	HINUMA Shuji, et al., 'New neuropeptides containing carboxy-terminal RFamide and their receptor in mammals.' Nat. Cell Biol., October, 2000, Vol.2, No.10, pages 703 to 708	1-15, 18-31
A	SATAKE Honoo, et al., 'Characterization of a cDNA encoding a precursor of Carassius RFamide, structurally related to a mammalian prolactin-releasing peptide.' FEBS Lett., 1999, Vol.446, Nos.2,3, pages 247 to 250	1-15, 18-31
A	TENSEN Cornelis P., et al., 'The Lymnaea cardioexcitatory peptide (LyCEP) receptor: a G-protein-coupled receptor for a novel member of the RFamide neuropeptide family.' J. Neurosci., 1998, Vol.18, No.23, pages 9812 to 9821	1-15, 18-31

 Further documents are listed in the continuation of Box C. See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"E" earlier document but published on or after the international filing date	"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	"&" document member of the same patent family
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	

Date of the actual completion of the international search
25 May, 2001 (25.05.01)Date of mailing of the international search report
12 June, 2001 (12.06.01)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP01/01716

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	WO, 98/589621, A1 (Takeda Chemical Industries, Ltd.), 30 December, 1998 (30.12.98) & EP, 1001989, A1 & JP, 11-71300, A	1-15,18-31
A	WO, 97/24436, A2 (Takeda Chemical Industries, Ltd.), 10 July, 1997 (10.07.97) & EP, 870020, A2 & JP, 10-146192, A	1-15,18-31
X	Database REGISTRY on STN, AMERICAN CHEMICAL SOCIETY (ACS), (Columbus, OH, USA), Registry Number of 225879-38-9, 203609-95-4, 179723-46-7, 167743-76-2	22

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP01/01716

Box I Observations where certain claims were found unsearchable (Continuation of item 1 of first sheet)

This international search report has not been established in respect of certain claims under Article 17(2)(a) for the following reasons:

1. Claims Nos.: 34,37,38
because they relate to subject matter not required to be searched by this Authority, namely:
Claims 34, 37 and 38 pertain to methods for treatment of the human body by therapy and thus relate to a subject matter which this International Searching Authority is not required, under the provisions of Article 17(2)(a)(i) of the PCT and Rule 39.1(iv) of the Regulations under the PCT, to search.
2. Claims Nos.: 16,17,32,33,35,36
because they relate to parts of the international application that do not comply with the prescribed requirements to such an extent that no meaningful international search can be carried out, specifically:
It can be neither specified nor anticipated by a person skilled in the art what compounds are involved in the scope of the compounds obtained by using a screening method or a screening kit.
3. Claims Nos.:
because they are dependent claims and are not drafted in accordance with the second and third sentences of Rule 6.4(a).

Box II Observations where unity of invention is lacking (Continuation of item 2 of first sheet)

This International Searching Authority found multiple inventions in this international application, as follows:

1. As all required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers all searchable claims.
2. As all searchable claims could be searched without effort justifying an additional fee, this Authority did not invite payment of any additional fee.
3. As only some of the required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers only those claims for which fees were paid, specifically claims Nos.:
4. No required additional search fees were timely paid by the applicant. Consequently, this international search report is restricted to the invention first mentioned in the claims; it is covered by claims Nos.:

Remark on Protest The additional search fees were accompanied by the applicant's protest.
 No protest accompanied the payment of additional search fees.

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl' A61K38/22, 45/00, A61P5/10, 15/00, 15/08, 15/10, C07K14/72, 16/28, C12N15/12, C12Q1/02,
G01N33/12, 33/50, 33/566, 33/53

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl' A61K38/22, 45/00, A61P5/10, 15/00, 15/08, 15/10, C07K14/72, 16/28, C12N15/12, C12Q1/02,
G01N33/12, 33/50, 33/566, 33/53

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

CAPLUS (STN), REGISTRY (STN), MEDLINE (STN), EMBASE (STN), BIOSIS (STN)

SwissProt/PIR/GeneSeq

Genbank/EMBL/DDBJ/GeneSeq

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
P, X	WO, 00/029441, A1 (Takeda Chemical Industries, Ltd.) 25.5月.2000 (25.05.00), (ファミリーなし) & Database CAPLUS on STN, AMERICAN CHEMICAL SOCIETY (ACS), (Columbus, OH, USA), DN. 133:16312	1-15, 18-31
P, X	HINUMA Shuji, et al, 'New neuropeptides containing carboxy-terminal RFamide and their receptor in mammals.' Nat. Cell Biol., Oct. 2000, Vol. 2, No. 10, pages 703 to 708	1-15, 18-31

C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日 25.05.01	国際調査報告の発送日 12.06.01
国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 森井 隆信 印 電話番号 03-3581-1101 内線 3451 4C 9455

C (続き) 関連すると認められる文献		関連する 請求の範囲の番号
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	
A	SATAKE Honoo, et al, 'Characterization of a cDNA encoding a precursor of <i>Carassius RFamide</i> , structurally related to a mammalian prolactin-releasing peptide.' FEBS Lett., 1999, Vol. 446, No. 2, 3, pages 247 to 250	1-15, 18-31
A	TENSEN Cornelis P., et al, 'The <i>Lymnaea cardioexcitatory peptide (LyCEP)</i> receptor: a G-protein-coupled receptor for a novel member of the RFamide neuropeptide family.' J. Neurosci., 1998, Vol. 18, No. 23, pages 9812 to 9821	1-15, 18-31
A	WO, 98/589621, A1 (Takeda Chemical Industries, Ltd.) 30.12月. 1998 (30.12.98) & EP, 1001989, A1 & JP, 11-71300, A	1-15, 18-31
A	WO, 97/24436, A2 (Takeda Chemical Industries, Ltd.) 10.7月. 1997 (10.07.97) & EP, 870020, A2 & JP, 10-146192, A	1-15, 18-31
X	Database REGISTRY on STN, AMERICAN CHEMICAL SOCIETY (ACS), (Columbus, OH, USA), Registry Number of 225879-38-9, 203609-95-4, 179723-46-7, 167743-76-2	22

第I欄 請求の範囲の一部の調査ができないときの意見（第1ページの2の続き）

法第8条第3項（PCT17条(2)(a)）の規定により、この国際調査報告は次の理由により請求の範囲の一部について作成しなかった。

1. 請求の範囲 34, 37, 38 は、この国際調査機関が調査をすることを要しない対象に係るものである。つまり、

請求の範囲34、37及び38は、治療による人体の処置方法に該当し、PCT17条(2)(a)(i)及びPCT規則39(iv)の規定により、この国際調査機関が調査をすることを要しない対象に係るものである。

2. 請求の範囲 16, 17, 32, 33, 35, 36 は、有意義な国際調査をすることができる程度まで所定の要件を満たしていない国際出願の部分に係るものである。つまり、

スクリーニング方法又はスクリーニング用キットを用いて得られる化合物とは、いかなるものがそこに含まれるのか特定することができず、また、当該技術分野の専門家に予測のつくものでもない。

3. 請求の範囲 _____ は、従属請求の範囲であってPCT規則6.4(a)の第2文及び第3文の規定に従って記載されていない。

第II欄 発明の単一性が欠如しているときの意見（第1ページの3の続き）

次に述べるようにこの国際出願に二以上の発明があるとこの国際調査機関は認めた。

1. 出願人が必要な追加調査手数料をすべて期間内に納付したので、この国際調査報告は、すべての調査可能な請求の範囲について作成した。

2. 追加調査手数料を要求するまでもなく、すべての調査可能な請求の範囲について調査することができたので、追加調査手数料の納付を求めなかった。

3. 出願人が必要な追加調査手数料を一部のみしか期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、手数料の納付のあった次の請求の範囲のみについて作成した。

4. 出願人が必要な追加調査手数料を期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、請求の範囲の最初に記載されている発明に係る次の請求の範囲について作成した。

追加調査手数料の異議の申立てに関する注意

追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがあった。

追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがなかった。